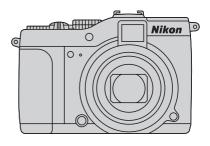
Nikon

デジタルカメラ

COOLPIX P7000

クールピクス P7000

使用説明書

Jp

商標説明

- Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、Apple Inc.の商標です。
- AdobeおよびAdobe AcrobatはAdobe Systems, Inc.（アドビシステムズ社）の商標、または特定地域における同社の登録商標です。
- SDXC、SDHC、SDロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- PictBridgeロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- NetFront は、株式会社 ACCESS の日本国、米国その他の国・地域における商標または登録商標です。NetFront™
- その他の会社名、製品名は各社の商標、登録商標です。

AVC Patent Portfolio Licenseに関するお知らせ

本製品は、お客様が個人使用かつ非営利目的で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
(ii) 個人利用かつ非営利目的の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。
詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。
http://www.mpegla.comをご参照ください。

安全上のご注意

お使いになる前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しい方法でお使いください。
この「安全上のご注意」は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。内容を理解してから本文をお読みいただき、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
表示と意味は以下のようになっています。

⚠危険	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。**
⚠警告	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
⚠注意	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。**

お守りいただく内容の種類を、以下の図記号で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⊘記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠警告（カメラについて）

分解禁止	**分解したり、修理や改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電池、電源を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
電池を取る すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、すみやかに電池を取り出すこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。 電池を抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。

使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
 禁止	**レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと** 失明や視力障害の原因となります。
 発光禁止	**車の運転者等にむけてフラッシュを発光しないこと** 事故の原因となります。
 発光禁止	**フラッシュを人の目に近づけて発光しないこと** 視力障害の原因となります。 特に乳幼児を撮影する時は1 m以上離れてください。
 保管注意	**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。 万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
 保管注意	**ストラップが首に巻きつかないようにすること** **特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと** 首に巻き付いて窒息の原因となります。
 警告	**指定の電源(電池またはACアダプター)を使うこと** 指定以外のものを使用すると、火災や感電の原因となります。
 使用禁止	**ACアダプター使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

⚠注意（カメラについて）

 感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。

 保管注意	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
 保管注意	**使用しないときは、電源をOFFにしてレンズを遮光し、太陽光のあたらない所に保管すること** 太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
 移動注意	**三脚にカメラを取り付けたまま移動しないこと** 転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。
 使用注意	**航空機内で使うときは、離着陸時に電源をOFFにすること** **病院で使うときは病院の指示に従うこと** 本機器が出す電磁波などにより、航空機の計器や医療機器に影響を与えるおそれがあります。
 電池を取る プラグを抜く	**長期間使用しないときは電源(電池またはACアダプター)を外すこと** 電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因になることがあります。 ACアダプターをお使いの際には、電源プラグをコンセントから抜いて、その後でカメラを取り外してください。火災の原因になることがあります。
 発光禁止	**内蔵フラッシュの発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと** やけどや発火の原因になることがあります。
 禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。
 放置禁止	**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと** 内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因になることがあります。

禁止	**付属のCD-ROMを音楽用CDプレーヤーで使用しないこと** 機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼすことがあります。

⚠危険
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**専用の充電器を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
使用禁止	**Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL14は、ニコンデジタルカメラ専用の充電池でCOOLPIX P7000に対応しています。EN-EL14に対応していない機器には使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
危険	**ネックレス、ヘアピンなど金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと** ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。 持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。
危険	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

保管注意	**電池は幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
使用禁止	**変色や変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しないときは、充電をやめること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。ニコンサービス機関またはリサイクル協力店にご持参いただくか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠注意
（専用Li-ionリチャージャブルバッテリーについて）

注意	**電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。

⚠警告
（バッテリーチャージャーについて）

分解禁止	**分解したり修理･改造をしないこと** 感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。
接触禁止 すぐに修理依頼を	**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと** 感電したり、破損部でケガをする原因となります。 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
プラグを抜く すぐに修理依頼を	**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電源プラグをコンセントから抜くこと** そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。 電源プラグをコンセントから抜く際、やけどに充分注意してください。 電源プラグをコンセントから抜いて、ニコンサービス機関に修理を依頼してください。
水かけ禁止	**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと** 発火したり感電の原因となります。
使用禁止	**引火、爆発のおそれのある場所では使用しないこと** プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると爆発や火災の原因となります。
警告	**電源プラグの金属部やその周辺にほこりが付着しているときは、乾いた布で拭き取ること** そのまま使用すると、火災の原因になります。
使用禁止	**雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと** 感電の原因となります。 雷が鳴り止むまで機器から離れてください。
感電注意	**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないこと** 感電の原因となります。
禁止	**海外旅行者用電子式変圧器（トラベルコンバーター）や DC/AC インバーターなどの電源に接続して使わないこと** 発熱、故障、火災の原因となります。

⚠注意
（バッテリーチャージャーについて）

感電注意	**ぬれた手でさわらないこと** 感電の原因になることがあります。
放置禁止	**製品は、幼児の手の届かない所に置くこと** ケガの原因になることがあります。
禁止	**布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと** 熱がこもりケースが変形し、火災の原因になることがあります。

目次

使用説明書について

ニコンデジタルカメラCOOLPIX P7000をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

お使いになる前に、この使用説明書をよくお読みになり、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管し、撮影を楽しむためにお役立てください。

●本文中のマークについて

カメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。	カメラを使用するときに、便利な情報を記載しています。
カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。	関連情報を記載した参照ページを記載しています。

●表記について

- SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、およびSDXC メモリーカードを「SDカード」と表記しています。
- ご購入時のカメラの設定を「初期設定」と表記しています。
- 液晶モニターに表示されるメニュー項目や、パソコンに表示されるボタン名、メッセージなどは、[ ] で囲って表記しています。

●画面例について

本書では、液晶モニター上の表示をわかりやすく説明するために、被写体の表示を省略している場合があります。

●本文中のイラストについて

本文中の画面表示を含むイラストは、実際と異なる場合があります。

内蔵メモリーとSDカードについて

本機は、内蔵メモリーとSDカードの両方に対応しています。SDカードをカメラにセットしているときは、SDカードが優先して使用されます。内蔵メモリーを使用して、撮影、再生、削除、初期化などの操作をするときは、SDカードをカメラから取り出してください。

ご確認ください

●保証書について

この製品には「保証書」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっています。必ず「ご購入年月日」と「ご購入店」が記入された保証書をお受け取りください。「保証書」をお受け取りにならないと、ご購入1年以内の保証修理が受けられないことになります。お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

●カスタマー登録

下記のホームページからカスタマー登録できます。

https://reg.nikon-image.com/

付属の「登録のご案内」に記載されている登録コードをご用意ください。

●カスタマーサポート

下記のホームページでサポート情報をご案内しています。

http://www.nikon-image.com/support/

●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプターなど）に適合するように作られていますので、当社製品との組み合わせでお使いください。

- Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14には、ニコン純正品であることを示すホログラムシールが貼られています。
- 模倣品のLi-ion リチャージャブルバッテリーをお使いになると、カメラの充分な性能が出せないことや、バッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となることがあります。
- 他社製品や模倣品と組み合わせてお使いになると、事故、故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

ホログラムシール

●使用説明書について

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、固くお断りいたします。
- 仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご承知ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、下記のホームページから使用説明書のPDFファイルをダウンロードできます。

 http://www.nikon-image.com/support/manual/

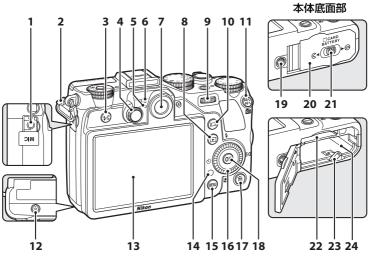
 ニコンサービス機関で新しい使用説明書を購入することもできます（有料）。

●著作権についてのご注意

あなたがカメラで撮影または録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使うことができません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影や録音を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像や音楽は、著作権法の規定による範囲内でお使いになる以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●カメラやメモリーカードを譲渡/廃棄するときのご注意

メモリー（SDカード/カメラ内蔵メモリーを含む）内のデータはカメラやパソコンで初期化または削除しただけでは、完全には削除されません。譲渡/廃棄した後に市販のデータ修復ソフトウェアなどを使ってデータが復元され、重要なデータが流出してしまう可能性があります。メモリー内のデータはお客様の責任において管理してください。

メモリーを譲渡/廃棄する際は、市販のデータ削除専用ソフトウェアなどを使ってデータを完全に削除するか、初期化後にメモリーがいっぱいになるまで、空や地面などを撮影することをおすすめします。なお、「オープニング画面」の「撮影した画像」（🕮169）も、同様に別の画像で置き換えてから譲渡/廃棄してください。メモリーを物理的に破壊して廃棄するときは、周囲の状況やけがなどに充分ご注意ください。

●電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

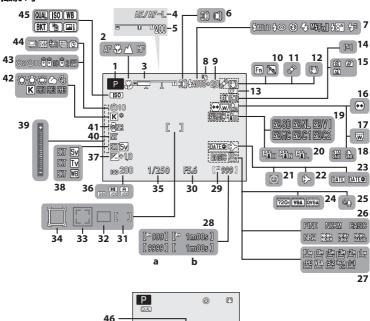
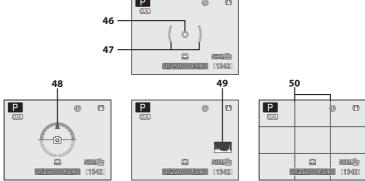
VCCI-B

各部の名称

カメラ本体

内蔵フラッシュポップアップ時

No.	名称
1	ストラップ取り付け部..............15
2	露出補正ダイヤル 43
3	露出補正ダイヤル指標..............43
4	電源スイッチ/電源ランプ...19、181
5	モードダイヤル 44
6	クイックメニューダイヤル指標...67
7	クイックメニューボタン........... 67
8	クイックメニューダイヤル....... 67
9	マイク（ステレオ）........ 132、146
10	アクセサリーシューカバー BS-1 202
11	アクセサリーシュー................202
12	内蔵フラッシュ 32
13	HDMIミニ端子 154
14	USB/オーディオビデオ出力端子 ....154、157、162
15	端子カバー...........154、157、162
16	パワーコネクターカバー（別売ACアダプター接続用）...199
17	Av/Tv（Av/Tv）ボタン.............9、187
18	シャッターボタン...............10、28
19	ズームレバー ....27 W：広角ズーム......................27 T：望遠ズーム......................27 サムネイル表示............116 拡大 ....118 ヘルプ..............................45
20	リモコン受光部（前面）.............39
21	Fn（ファンクション）ボタン ....11、186
22	セルフタイマーランプ...............35 AF補助光.................................177
23	レンズ............................195、217
24	レンズバリアー
25	レンズリング 105
26	レンズリング取り外しボタン 105

本体底面部

1	外部マイク端子 146
2	ストラップ取り付け部............... 15
3	⚡︎(フラッシュポップアップ)ボタン.. 33
4	視度調節ダイヤル 26
5	AFランプ.................................... 28
6	フラッシュランプ 34
7	ファインダー 26
8	▶(再生)ボタン 30
9	コマンドダイヤル 9
10	(モニター)ボタン ..... 14、15
11	AE-L AF-L(AE-L/AF-L)ボタン ... 11、185 (撮影日一覧)ボタン 119
12	スピーカー .... 132、151
13	液晶モニター ....6、14、25
14	リモコン受光部(背面)............. 39
15	MENU(メニュー)ボタン ... 13、45、91、123、149、168
16	ロータリーマルチセレクター ... 12
17	🗑(削除)ボタン .... 31、132、153
18	ⓚ(決定)ボタン 12
19	三脚ネジ穴
20	バッテリー /SDカードカバー .... 18、22
21	ロックレバー .... 18、22
22	SDカードスロット 22
23	バッテリーロックレバー .... 18、19
24	バッテリー室 18

液晶モニターの表示内容

|◻|（モニター）ボタンを押すと、情報の表示/非表示が切り換わります（□14）。
表示される情報は、カメラの設定や状態によって異なります。

撮影時

※1 アイコンは、撮影モードによって異なります。

※2 セットアップメニュー［**モニター設定**］の［**モニター表示設定**］（□173）で水準器、ヒストグラム、方眼の表示/非表示を変更できます。
撮影モードU1、U2、U3のときは、U1/U2/U3専用メニュー（□112）の［**モニター表示設定**］で設定します。

再生時

1	撮影日 20	12	音声メモガイド（再生）.......... 132
2	撮影時刻 20	13	動画再生ガイド........................ 151
3	プロテクト表示........................129	14	撮影日一覧ガイド.................... 119
4	音量表示 ....132、151	15	ミニチュア効果済み表示......... 142
5	バッテリー残量表示..................24	16	美肌編集済み表示.................... 139
6	画面明るさブースト表示...........15	17	プリント指定表示.................... 123
7	画質※ 68	18	スモールピクチャー ......137、145
8	画像サイズ※ ....70、153 動画設定※ 148	19	傾き補正済み表示.................... 141
9	(a)画像の番号/全画像数 ....30 (b)動画の再生時間....................151	20	黒フレーム済み表示................ 138
10	内蔵メモリー表示......................30	21	D-ライティング済み表示........ 136
11	音声メモガイド（録音）...........132	22	簡単レタッチ済み表示............ 135
		23	音声メモ表示............................ 132
		24	ファイル名................................ 203

※ アイコンは、撮影時の設定によって異なります。

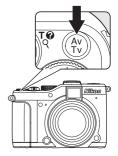
主なボタン操作

コマンドダイヤル

コマンドダイヤルを回すと、メニュー画面で項目を選んだり、以下の機能を設定したりできます。

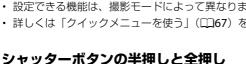
撮影時に使う

状態	内容	📖
モードダイヤルがPのとき	プログラムシフト量の設定	62
モードダイヤルがSのとき	シャッタースピードの設定	63
モードダイヤルがAのとき	絞り値の設定（Av/Tv ボタンを押した場合※）	64
モードダイヤルがMのとき	シャッタースピードまたは絞り値の設定（Av/Tv ボタンを押すと、シャッタースピードと絞り値のどちらを設定するかが切り換わります。※）	65

※［**Av/Tvボタン設定**］（📖187）が［**Av/Tv操作切り換え**］（初期設定）の場合

再生時に使う

状態	内容	📖
1コマ表示またはサムネイル表示	画像の選択	30、115、116
カレンダー表示	日付の選択	117
拡大表示	拡大倍率の変更	118
動画の一時停止中/編集中	コマ送り/コマ戻し	151

Av Tv（Av/Tv）ボタン

撮影モードS、A、MのときにAv/Tvボタンを押すと、シャッタースピードまたは絞り値の設定に、コマンドダイヤルとロータリーマルチセレクターのどちらを使うかを切り換えできます。

- Av/Tvボタンの機能は、セットアップメニューの［**Av/Tvボタン設定**］（📖187）で変更できます。

クイックメニューダイヤルとクイックメニューボタン

クイックメニューダイヤルを回して指標に合わせた機能を設定します。QUAL（画質と画像サイズ）などを設定できます。

- 撮影時にクイックメニューボタンを押すと、指標に合わせた機能の設定メニュー（クイックメニュー）を表示します。
- i を選んだときは、クイックメニューボタンで、「トーンレベルインフォメーション」（82）の機能がオンになります。
- もう一度、クイックメニューボタンを押すと、クイックメニューを終了します。
- 設定できる機能は、撮影モードによって異なります。
- 詳しくは「クイックメニューを使う」（67）をご覧ください。

シャッターボタンの半押しと全押し

シャッターボタンを軽く抵抗を感じるところまで押して、そのまま指を止めることを、「シャッターボタンを半押しする」といいます。半押しするとピントと露出が合い、そのまま深く押し込む（全押しする）と、シャッターがきれます。シャッターボタンを押すときに力を入れすぎると、カメラが動いて画像がぶれる（手ブレする）ことがあるので、ゆっくりと押し込んでください。

半押しすると、
ピントと露出が固定

そのまま深く
押し込んで撮影

AE-L AF-L（AE-L/AF-L）ボタン

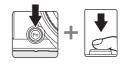
静止画の撮影時に、シャッターボタンを半押しするかわりにAE-L/AF-Lボタンでフォーカスロック撮影（□29）ができます。

- AE-L/AF-Lボタンを押している間は、露出とピントが固定されます。そのままシャッターボタンを全押しすると、AE-L/AF-Lボタンを押したときの露出とピントでシャッターがきれます（初期設定）。
- AE-L/AF-Lボタンを押したときの動作はセットアップメニューの［**AE-L/AF-Lボタン設定**］で変更できます（□185）。

再生時に、AE-L/AF-Lボタンを押すと撮影日一覧画面を表示して、同じ撮影日の画像だけを再生できます（□119）。

Fn（ファンクション）ボタン

Fnボタンは、ズームレバーまたはシャッターボタンと組み合わせて使います。

- 撮影モードが P、S、A、M、U1、U2、U3 のときに使えます。

ズームレバーと組み合わせる

撮影時にFnボタンを押しながらズームレバーを操作すると、撮影メニューの［**ズームメモリー**］（□107）で設定したズームレンズの焦点距離にすばやく切り換わります。

シャッターボタンと組み合わせる

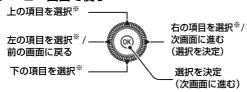
撮影時にFnボタンを押しながらシャッターボタンを押すと、撮影メニューの設定を変更せずにセットアップメニューの［**Fnボタン設定**］（□186）で割り当てられた機能の設定で撮影できます。

- 初期設定では、機能は割り当てられていません。
- 機能が割り当てられているときに Fn ボタンを押すと、Fn ボタン動作表示（□6）と割り当てられた機能のアイコンが表示されます。

ロータリーマルチセレクター

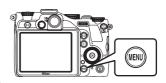
回転部を回すか、回転部の上（▲）、下（▼）、左（◀）、右（▶）、または®ボタンを押して操作します。

撮影時に使う

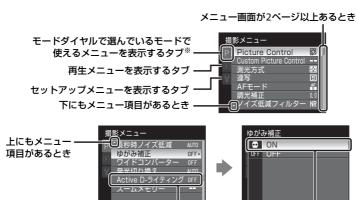
※1 撮影モードS、A、M、U1、U2、U3モード時に、絞り値またはシャッタースピードを設定します（63、64、65）。メニューの表示中は項目を選べます。
※2 P、S、A、M、U1、U2、U3モード、（ローノイズナイト）モードのときに表示します。

再生時に使う

※ 回転部を回しても前後の画像を選べます。

メニュー画面で使う

撮影メニュー
Picture Control
Custom Picture Control
測光方式
連写
AFモード
調光補正 0.0
ノイズ低減フィルター NR

※ 回転部を回しても項目を選べます。

MENU（メニュー）ボタン

MENUボタンを押すと、メニューを表示して、メニュー項目を設定できます。

- 各メニュー項目を設定するには、ロータリーマルチセレクターを使います（□12）。
- コマンドダイヤルを回しても、メニュー項目を選べます。
- 左端のタブを選ぶと、選んだタブのメニューに切り換わります（□14）。
- メニュー表示を終了するには、もう一度MENUボタンを押します。

※ 表示されるタブは、選んでいる撮影モードによって異なります。
- （オート撮影）：タブは表示されません。
- SCENE（シーン）：シーンメニュータブ（□45）
- （ローノイズナイト）：ローノイズナイトメニュータブ（□58）
- P、S、A、M：撮影メニュータブ（□90）
- U1、U2、U3：U1/U2/U3専用メニュータブ（□112）、2段目に撮影メニュータブ
- （動画）：動画メニュータブ（□149）

はじめに

メニュー画面のタブの切り換え方法

MENUボタンを押すと表示されるメニュー画面では（□13）、左端のタブを選ぶと、選んだタブのメニューに切り換わります。

ロータリーマルチセレクターの◀を押してタブに移動します。

ロータリーマルチセレクターの▲▼を押してタブを選び、OKボタンまたは▶を押します。

選んだタブのメニューが表示されます。

□（モニター）ボタン

□（モニター）ボタンを押すたびに、撮影時や再生時に液晶モニターに表示する情報の切り換えができます。

撮影時

情報ON
撮影画像と撮影情報を表示します。

情報OFF
撮影画像だけを表示します。

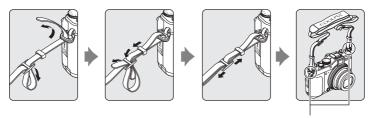
液晶モニター OFF※1,2
液晶モニターを消灯します。

再生時

画像情報ON
再生画像と画像情報を表示します。

情報OFF
再生画像だけを表示します。

トーンレベルインフォメーション※3
（動画は除く）
ヒストグラムとトーンレベル、撮影情報※4を表示します。

※1 モードダイヤルがP、S、A、M、U1、U2、U3のときのみ可能です。
※2 ピントが合わず、AFランプが点灯しないときはシャッターがきれません。
※3 トーンレベルインフォメーションについては、「画像の明るさの分布を確認する（P、S、A、Mモード）」（82）をご覧ください。
※4 ここで表示される撮影情報は、撮影モード P、S、A、M、シャッタースピード、絞り値、画質、画像サイズ、ISO感度、ホワイトバランス、露出補正値、COOLPIXピクチャーコントロール、画像番号/全画像数です。
撮影モードが、📷、SCENE、🖼、PのときにはPと表示されます。

🖉 |□|ボタンの長押しと☼（画面明るさブースト表示）について

|□|ボタンを押し続けると、液晶モニターの明るさを最大にできます。明るさをもとに戻すには、もう一度|□|ボタンを押し続けるか、電源をOFFにします。|□|ボタンで明るさを最大にしているときは、液晶モニターに☼（画面明るさブースト表示）が表示されます。

🖉 撮影時の水準器、ヒストグラム、方眼表示について

セットアップメニュー［**モニター設定**］の［**モニター表示設定**］（173）で液晶モニターの表示オプションを変更できます。表示オプションには、水準器、ヒストグラム、方眼表示があります。

ストラップの取り付け方

2カ所に取り付けます。

バッテリーを充電する

付属のLi-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL14（リチウムイオン充電池）を、付属のバッテリーチャージャー MH-24（充電器）で充電します。

1 バッテリーチャージャー を用意する

2 バッテリーを奥に押し込みながら（①）、バッテリー チャージャーにセットする（②）

3 バッテリーチャージャーをコンセントに差し込む

- CHARGEランプが点滅し、充電が始まります。
- CHARGEランプが点灯したら、充電完了です。
- 残量がないバッテリーの場合、充電時間は約1時間30分です。
- CHARGEランプの状態と意味は以下のとおりです。

CHARGEランプ	意味
点滅	バッテリーは充電中です。
点灯	バッテリーの充電が完了しました。
速い点滅	• バッテリーのセットミスです。バッテリーチャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーを取り外し、バッテリーチャージャーに寝かせるようにセットし直してください。 • 使用可能な温度ではありません。周囲の温度が 5 ～ 35 ℃の室内で充電してください。 • バッテリーの異常です。ただちにバッテリーチャージャーをコンセントから抜いて充電を中止してください。バッテリーおよびバッテリーチャージャーは、ご購入店またはニコンサービス機関にお持ちください。

4 充電が完了したら、バッテリーを取り外し、バッテリーチャージャーをコンセントから抜く

バッテリーチャージャーについてのご注意

- 付属のバッテリーチャージャーは、ニコンLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14以外には使えません。
- バッテリーチャージャーをお使いになるときは、「安全上のご注意」の「警告」(□v)、「注意」(□v)の注意事項を必ずお守りください。
- このバッテリーチャージャーは、家庭用電源のAC 100~240 V、50/60 Hz に対応しています。日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。

バッテリーについてのご注意

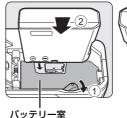
- リチャージャブルバッテリーをお使いになるときは、必ず「安全上のご注意」の「危険」(□iv)、「警告」(□iv)、「注意」(□iv)の注意事項をお守りください。
- 「取り扱い上のご注意 バッテリーについて」(□197)をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。
- バッテリーは、長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。

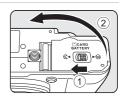
AC電源について

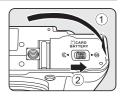
- 別売のACアダプター EH-5aとパワーコネクター EP-5A(□199)を使うと、家庭用コンセント(AC 100 V)からこのカメラへ電源を供給して撮影または再生ができます。
- EH-5a以外のACアダプターやEP-5A以外のパワーコネクターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

バッテリーを入れる

付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14（リチウムイオン充電池）をカメラに入れます。

- ご購入直後やバッテリー残量が少なくなったときは、バッテリーを充電してからお使いください（□16）。

1 バッテリー /SDカードカバーを開ける

- ロックレバーを◁側にスライドさせ（①）、カバーを開けます（②）。

2 付属のバッテリーを入れる

- バッテリー室内の表示を見ながら、＋と－を正しい向きで入れてください。
- バッテリーでオレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押し下げながら（①）、奥まで差し込みます（②）。

- 奥まで差し込むと、バッテリーロックレバーでバッテリーが固定されます。

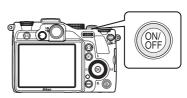
逆挿入に注意

バッテリーの向きを間違えると、カメラを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

3 バッテリー /SDカードカバーを閉じる

- カバーを閉じ（①）、ロックレバーを▶⊖側にスライドさせます（②）。

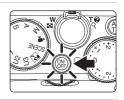
バッテリーを取り出すときは

電源をOFFにして（⧉19）、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー/SDカードカバーを開けます。
オレンジ色のバッテリーロックレバーを矢印の方向に押すと(①)、バッテリーが押し出されるので、まっすぐ引き抜きます（②）。

- カメラを使った直後は、バッテリーやSDカードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

電源をON/OFFするには

電源スイッチを押します。
電源ランプ（緑色）と液晶モニターが点灯します（液晶モニターが点灯すると、電源ランプは消灯します）。
もう一度電源スイッチを押すと、電源はOFFになります。電源がOFFになると液晶モニターも、電源ランプも消灯します。

- 電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます（⧉30）。

節電機能について（オートパワーオフ）

カメラを操作しない状態が続くと、液晶モニターが消灯して待機状態になり、電源ランプが点滅します。待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。

- 電源ランプの点滅中は、以下の操作で液晶モニターが再点灯します。
  - 電源スイッチ、シャッターボタン、または▶ボタンを押す。
  - モードダイヤルを回す。
- 撮影時または再生時は、カメラを操作しない状態が約1分（初期設定）で待機状態になります。
- 待機状態になるまでの時間は、セットアップメニュー（⧉167）の［**オートパワーオフ**］（⧉181）で変更できます。

表示言語と日時を設定する

ご購入後はじめて電源をONにすると、表示言語やカメラの内蔵時計の日時を設定する画面が自動的に表示されます。

1 電源スイッチを押して、電源をONにする

2 ロータリーマルチセレクターで表示言語を選び、Ⓚボタンを押す

- ロータリーマルチセレクターの使い方→□12

3 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 日時設定を中止するときは［**いいえ**］を選びます。

4 ◀または▶を押して自宅のある地域（タイムゾーン）（□172）を選び、Ⓚボタンを押す

夏時間の設定について

夏時間（サマータイム）を導入している地域で、その期間中に日時を設定するときは、手順4の地域設定画面で▲を押して夏時間の設定をオンにします。

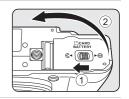
- オンにすると、画面上部に夏時間マークが表示されます。
- オフにするには、▼を押します。

5 日時を合わせる

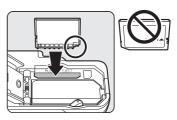
- 項目を選ぶ：▶または◀を押します（[**年**]、[**月**]、[**日**]、[**時**]、[**分**]、[**年月日**]（日付の表示順）に切り換わります）。
- 項目の内容を合わせる：ロータリーマルチセレクターを回すか、▲または▼を押します。
- ［**年月日**］の表示順は、年月日、月日年、日月年から選べます。

6 最後に［年月日］を選び、Ⓚボタンまたは▶を押して決定する

- 時計がスタートします。レンズが繰り出し、撮影画面になります。

日付の写し込みと日時の変更

- 撮影時に日付を画像に写し込むときは、日時を設定した後にセットアップメニュー（□167）の［**デート写し込み**］を設定します（□174）。
- 内蔵時計の日時を変更するときは、セットアップメニューの［**日時設定**］（□170）で［**日時**］を選び、上記の手順5から設定します。
- 地域（タイムゾーン）や夏時間の設定を変更するときは、セットアップメニューの［**日時設定**］から［**タイムゾーン**］を選んで設定します（□170）。

SDカードを入れる

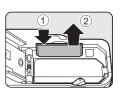
撮影したデータは、カメラの内蔵メモリー（約79 MB）、または市販のSDカード（□221）のどちらかに記録します。

カメラにSDカードを入れるとSDカードに記録し、SDカードのデータを再生、削除、または転送します。内蔵メモリーを使うときは、SDカードを取り出します。

1 電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー /SDカードカバーを開ける

- バッテリー /SDカードカバーを開けるときは、必ず電源をOFFにしてください。

2 SDカードを入れる

- 右図のように正しい向きで、カチッと音がするまで差し込みます。
- 挿入後、バッテリー/SDカードカバーを閉じます。

逆挿入に注意

SDカードの向きを間違えると、カメラやSDカードを破損するおそれがあります。正しい向きになっているか、必ずご確認ください。

SDカードを取り出すときは

電源をOFFにし、電源ランプと液晶モニターの消灯を確認してから、バッテリー /SDカードカバーを開けます。

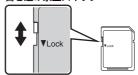
SD カードを指で軽く奥に押し込むと（①）、SD カードが押し出されるので、まっすぐ引き抜きます（②）。

- カメラを使った直後は、バッテリーやSD カードが熱くなっていることがあります。取り出すときは充分ご注意ください。

SDカードの初期化

このカードは初期化されていません。
初期化しますか？
はい
いいえ

電源をONにしたときに右の画面が表示された場合は、SDカードを初期化する必要があります。**ただし、SDカードを初期化**（□182）**すると、カード内のデータはすべて消えてしまいます。**カード内に必要なデータが残っているときは、初期化する前に、パソコンなどに保存してください。

初期化するときは、ロータリーマルチセレクターで［**はい**］を選び、㊍ボタンを押します。確認画面が表示されたら［**初期化する**］を選び、㊍ボタンを押すと初期化が始まります。

- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラではじめて使うときは、必ずこのカメラで初期化（□182）してからお使いください。

SDカードの書き込み禁止スイッチについてのご注意

SDカードには、書き込み禁止スイッチが付いています。このスイッチを「Lock」の位置にすると、データの書き込みや削除を禁止して、カード内の画像を保護できます。撮影時や画像を削除するとき、カードを初期化するときは「Lock」を解除してください。

書き込み禁止スイッチ

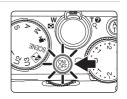
SDカードの取り扱い上のご注意

- SDカード以外のメモリーカードは使えません。
- 初期化中、画像の記録や削除中、パソコンとの通信時などには、以下の操作をしないでください。記録しているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - カードを着脱しないでください
  - バッテリーを取り出さないでください
  - カメラの電源をOFFにしないでください
  - ACアダプターを外さないでください
- SDカードをパソコンで初期化（フォーマット）しないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたり、水に濡らしたりしないでください。
- 端子部を手や金属で触らないでください。
- ラベルやシールを貼らないでください。
- 高温になる車の中や直射日光の当たるところなどには置かないでください。
- 湿度の高いところやほこりが多いところ、腐食性のガスなどが発生するところには置かないでください。

ステップ1 電源をONにして(オート撮影)を選ぶ

(オート撮影)モードでは、細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。はじめてデジタルカメラを使う方でも簡単に撮影できます。

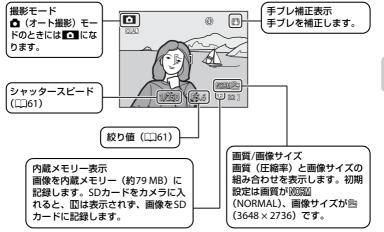
1 電源スイッチを押して電源をONにする

- レンズが繰り出し、液晶モニターが点灯します。

2 モードダイヤルをに合わせる

3 液晶モニターでバッテリー残量表示と記録可能コマ数を確認する

バッテリー残量表示

モニター表示	内容
(表示なし)	バッテリー残量は充分にあります。
(点灯)	バッテリー残量が少なくなりました。バッテリーの充電や交換の準備をしてください。
電池残量がありません	撮影できません。バッテリーを充電または交換してください。

バッテリー残量表示

記録可能コマ数

記録可能コマ数

撮影できる残りのコマ数が表示されます。
記録可能コマ数は、内蔵メモリーまたはセットしているSDカードのメモリー残量、画質、画像サイズによって異なります(71)。

（オート撮影）モードでの液晶モニター表示

節電による待機状態で液晶モニターが消灯しているときは、電源スイッチまたはシャッターボタンを押すと、液晶モニターが点灯します（181）。

フラッシュについて

内蔵フラッシュを閉じているときは発光禁止に固定され、画面上部にが表示されます。暗いところや逆光などでフラッシュが必要なときは、内蔵フラッシュをポップアップしてください（33）。

（オート撮影）モードで使える機能

- フラッシュモード（32）の変更、セルフタイマー（35）、フォーカスモード（40）、および露出補正（43）の設定ができます。
- 画質/画像サイズは、クイックメニューダイヤルをQUALに合わせてクイックメニューボタンを押すと変更できます（68）。

手ブレ補正について

- 詳しくは、セットアップメニュー（167）の［**手ブレ補正**］（175）をご覧ください。
- 三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］を［**OFF**］にしてください。

ステップ2 カメラを構え、構図を決める

1 カメラをしっかりと構える

- カメラを両手でしっかりと持ってください。
- レンズやフラッシュ、AF 補助光、マイク、スピーカーなどに指や髪、ストラップなどがかからないようにご注意ください。
- フラッシュを使って（□32）、縦位置で撮影するときは、フラッシュ発光部をレンズより上にしてください。

2 構図を決める

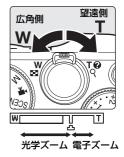
- 写したいもの（被写体）を画面の中央付近に合わせます。

ファインダーを使う

日差しの強い屋外など、明るい場所で液晶モニターが見えにくいときは、ファインダーを使って撮影してください。

ファインダー内の像が見えにくいときは、ファインダーをのぞきながら、視度調節ダイヤルを回して調節します。

- 爪や指先で目を傷つけないようにご注意ください。

ファインダーについてのご注意

以下の場合、ファインダーで見える範囲と実際に撮影される範囲が異なりますので、液晶モニターで構図を確認してください。

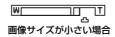
- カメラと被写体の距離が近い場合（特に最も望遠側で約2 m以内）
- ワイドコンバーターレンズ（別売）を使う場合（□104）
- 電子ズームを使う場合（□27）
- ［**画像サイズ**］（□70）が［**3648×2432**］、［**3584×2016**］、［**2736×2736**］の場合

ズームを使う

ズームレバーを回すと、光学ズームが作動します。
被写体を大きく写したいときは**T**方向に回します。
広い範囲を写したいときは**W**方向に回します。

- ズームレバーを回すと液晶モニターの画面上部にズームの量が表示されます。

電子ズームについて

光学ズームを最も望遠側（光学ズームの最大倍率）にして、さらにズームレバーを**T**方向に回し続けると、電子ズームが作動します。光学ズームの最大倍率の約4倍まで拡大できます。
電子ズーム使用時は、AFエリアは表示されず、画面中央でピントが合います。

電子ズームと画質の劣化について

電子ズームは光学ズームとは異なり、画像をデジタル処理で拡大するため、使用する画像サイズ（□70）や電子ズーム倍率によって、画質が劣化します。
ズーム表示の凸マークは、静止画の撮影で画質の劣化が始まるズーム位置を示しています。このマークを越えてズーム倍率を上げると劣化が始まり、ズーム表示も黄色に変わります。
凸マークの位置は画像サイズが小さいほど右に移動しますので、設定した画像サイズで画質を劣化させずに静止画を撮影できるズーム位置を事前に確認できます。

- セットアップメニュー（□167）の［**電子ズーム**］（□178）で、電子ズームの倍率を画質が劣化しない範囲内に制限することや、電子ズームが作動しない設定にできます。

関連ページ

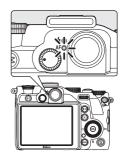
- ズームメモリー →□107
- ズーム速度設定→□179

ステップ3　ピントを合わせてシャッターボタンを押す

1　シャッターボタンを半押しする

- 半押しする（📖10）と、カメラがピントを合わせます。

- 画面中央の AF エリア表示に重なっている被写体にピントが合います。ピントが合うと、AFエリア表示が緑色に点灯し、ファインダー横のAFランプも点灯します。

- 電子ズーム使用時は、AFエリアは表示されず、画面中央でピントが合います。ピントが合うとAFランプが緑色に点灯します。
- 半押しを続けている間、ピントと露出を固定します。
- 半押しして、AFエリア表示が赤色に点滅したり、AFランプが高速点滅したときは、ピントが合っていません。構図を変えて、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。

2　シャッターボタンを半押ししたまま、さらに深く押し込む（全押しする）

- シャッターがきれ、画像が記録されます。

画像の記録についてのご注意

液晶モニターの「記録可能コマ数」やAFランプが点滅しているときは、画像の記録中です。**バッテリー/SDカードカバーを開けないでください。**画像の記録中にSDカードやバッテリーを取り出すと、画像が記録されないことや、撮影した画像やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

オートフォーカスが苦手な被写体

以下のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。また、AFエリアやAFランプが緑色に点灯しても、まれにピントが合っていないことがあります。

- 被写体が非常に暗い
- 画面内の輝度差が非常に大きい（太陽が背景に入った日陰の人物など）
- 被写体にコントラストがない（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物など）
- 同じパターンを繰り返す被写体（窓のブラインドや、同じ形状の窓が並んだビルなど）
- 動きの速い被写体

このような被写体を撮影するときは、シャッターボタンを何回か半押ししてみるか、等距離にある別の被写体にピントを合わせて、フォーカスロック撮影をお試しください。
マニュアルフォーカスでピントを合わせることもできます（□42）。

フォーカスロック撮影

AF（オートフォーカス）エリアが画面中央でも、ピントを固定（フォーカスロック）する方法を使うと、構図を工夫して撮影できます。

- フォーカスロックをしている間は被写体との距離を変えないでください。
- シャッターボタンを半押しすると、露出は固定されます。

ピントを合わせたい被写体にカメラを向ける

半押しする

AF エリアが緑色に点灯したら

半押ししたまま構図を変える

そのまま深く押し込む

シャッターボタンを半押しするかわりに、AE-L/AF-Lボタンを押してもフォーカスロック撮影ができます（□11）。

AF補助光について

暗い場所などでは、シャッターボタンを半押ししたときにAF補助光（□177）が点灯することがあります。

ステップ4　撮影した画像を再生する/削除する

画像を再生する（再生モード）

▶（再生）ボタンを押す

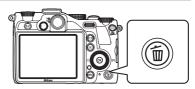
- 最後に撮影した画像が1コマ表示されます。
- ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼◀▶を押すと、前後の画像を表示できます。▲▼◀▶を押し続けると早送りできます。
  コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- 前の画像や次の画像に切り換えた直後は、表示が粗いことがあります。
- 撮影に戻るには、もう一度▶ボタンを押すか、シャッターボタンを押します。
- 内蔵メモリーの画像を再生しているときは、INが表示されます。SDカードをカメラに入れたときは、INは表示されず、SDカードの画像が再生されます。

節電により液晶モニターが消灯したときは

電源ランプの点滅中は、▶ボタンを押すと液晶モニターが再点灯します（□181）。

再生モードで使える機能

詳しくは、「いろいろな再生」（□115）または「画像の編集」（□133）をご覧ください。

▶ボタンによる電源ON

電源がOFFの状態で▶ボタンを押し続けると、再生モードで電源をONにできます。このとき、レンズは繰り出しません。

画像の再生について

- |□|ボタンを押すと、液晶モニターに表示される画像情報や撮影情報の表示/非表示を切り換えできます（□14）。
- カメラを縦に構えて撮影した画像（縦位置の画像）は、自動的に回転して表示されます（□180）。回転方向は、再生メニュー（□122）の［**画像回転**］（□130）で変更できます。

不要な画像を削除する

1 削除したい画像を表示して 🗑 ボタンを押す

2 ロータリーマルチセレクターで［はい］を選び、 ⓀボタンOK押す

- 削除した画像は、もとに戻せません。
- 削除をやめるときは、［**いいえ**］を選んで ⓀOK ボタンを押します。

画像削除についてのご注意

［**画質**］（□68）の設定を［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］にして撮影した画像は、🗑 ボタンで削除すると、同時記録したNRW (RAW)とJPEGの画像が両方とも削除されます。
NRW (RAW)画像またはJPEG画像のどちらかのみを削除するには、再生メニュー（□122）の［**削除**］（□127）で［**削除画像選択 (NRWのみ)**］または［**削除画像選択 (JPEGのみ)**］を選んで削除します。

撮影モードで画像を削除する

撮影時に🗑ボタンを押すと、直前に撮影した画像を削除できます。

複数の画像をまとめて削除する

再生メニュー（□122）や撮影日一覧メニュー （□121）の［**削除**］（□127）を選ぶと、複数の画像をまとめて削除できます。

フラッシュを使う

暗いところや逆光などでは、内蔵フラッシュをポップアップするとフラッシュ撮影ができます。フラッシュの発光モードを撮影状況に合わせて設定できます。フラッシュの光が充分に届く距離は、広角側で約0.5～6.5 m、望遠側で約0.8～3 mです（[**ISO感度設定**］が［**オート**］時)。

AUTO 自動発光

暗い場所などで、自動的にフラッシュを発光します。

赤目軽減自動発光

人物撮影に適しており、人物の目が赤く写る「赤目現象」を軽減できます。

発光禁止

フラッシュは発光しません。

- シーンモードが（おまかせシーン）のとき、または別売のスピードライト（外付けフラッシュ）を取り付けているときに選べます。

強制発光

被写体の明るさに関係なく、フラッシュを発光します。逆光で撮影するときなどに使います。

M マニュアル発光

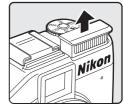
内蔵フラッシュの発光量を設定して強制発光します。

- 発光量は、[MFull]（フル発光)、[M1/2]、[M1/4]、[M1/8]、[M1/16]、［M1/32]、[M1/64］から選べます。例えば［M1/16］を選ぶと、フル発光の 1/16 になります。
- 別売のスピードライトを取り付けているときは選べません。

スローシンクロ

強制発光モードにスロー（低速）シャッターを組み合わせて撮影します。夕景や夜景を背景にした人物撮影に適しています。フラッシュでメインの被写体を明るく照らすと同時に、遅いシャッタースピードで背景を写します。

リアシンクロ

シャッターが閉じる直前にフラッシュを強制発光します。動いている被写体の後方に流れる光や軌跡などを表現したいときなどに適しています。

フラッシュモードの設定について

- フラッシュモードの初期設定は、撮影モード（□44）によって異なります。
  - （オート撮影）：AUTO 自動発光。
  - シーン：シーンによって異なります（□46～55）。
  - P、S、A、M、U1、U2、U3：AUTO 自動発光。
- 他の機能と同時に使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）
- 以下の場合、フラッシュモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。
  - 撮影モードP、S、A、Mの場合
  - （オート撮影）モードで、（赤目軽減自動発光）にして撮影した場合

フラッシュモードの設定方法

1 ⚡︎(フラッシュポップアップ)ボタンを押す

- 内蔵フラッシュがポップアップします。
- 内蔵フラッシュを閉じているときは㊉(発光禁止)に固定されます。

2 ロータリーマルチセレクターの ⚡(フラッシュモード)を押す

- フラッシュモードの設定メニューが表示されます。

3 ロータリーマルチセレクターでモードを選び、Ⓞボタンを押す

- マニュアル発光を選んだときは、Ⓞボタンを押す前に、◀▶で発光量を選びます。

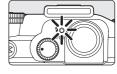
- 設定したフラッシュモードが表示されます。
- ⚡AUTO(自動発光)にするとモニター情報表示(□14)がONでも、⚡AUTOは数秒間で消えます。
- Ⓞボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。

✔ 内蔵フラッシュの収納

フラッシュを使わないときは、内蔵フラッシュを手で軽く押し下げて、閉じてください。

⚠ ⊕（発光禁止）にして撮影するときや、暗い場所で撮影するときのご注意

- 手ブレしやすくなるため、三脚などの使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□167）の［**手ブレ補正**］（□175）を［**OFF**］にしてください。
- 撮影画面にISOが表示されることがあります。ISOが表示されたときは、ISO感度が自動的に上がっています。
- 暗いところなどで撮影する場合、シャッタースピードが遅くなると、ノイズを低減する機能が作動することがあります。ノイズ低減の機能が作動すると、画像の記録が終了するまでに時間がかかることがあります。

⚠ フラッシュ使用時のご注意

フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して、画像の中に白い点のように写り込むことがあります。このようなときは、フラッシュを⊕（発光禁止）にするか、内蔵フラッシュを閉じて撮影するようおすすめします。

フラッシュランプについて

シャッターボタンの半押し時に、フラッシュの状態を確認できます。

- 点灯：撮影時にフラッシュが発光します。
- 点滅：フラッシュが充電中のため、撮影できません。
- 消灯：撮影時にフラッシュは発光しません。

バッテリー残量が少なくなると、フラッシュの充電中は液晶モニターが消灯します。

赤目軽減自動発光について

このカメラは、「アドバンスト赤目軽減方式」を採用しています。
フラッシュが本発光する前に、小光量で数回発光する「プリ発光」で赤目現象の発生を軽減します。さらに、画像の記録時に赤目現象を検出すると、赤目部分を画像補正して記録します。
撮影する際は、以下にご注意ください。

- プリ発光するため、シャッターボタンを押してからシャッターがきれるまでに、通常よりも時間がかかります。
- 画像の記録にかかる時間は、通常よりも少し長くなります。
- 撮影状況によっては、望ましい結果を得られないことがあります。
- ごくまれに赤目以外の部分を補正することがあります。この場合は、他のフラッシュモードにして撮影し直してください。
- NRW (RAW) 画像（□68）で記録するときの赤目軽減処理は、本発光前のプリ発光のみになります（JPEG同時記録時のJPEG画像を含む）。

セットアップメニューの［**赤目軽減プリ発光**］（□177）を［**OFF**］にすると、プリ発光をせずに、シャッターボタンの全押しですぐにシャッターがきれます。

関連ページ

スピードライト（外付けフラッシュ）について→□202

セルフタイマーを使う

記念撮影などで自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す操作による手ブレを軽減したいときは、セルフタイマーが便利です。タイマー時間は10秒と2秒から選べます。
セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□167）の［**手ブレ補正**］（□175）を［**OFF**］にしてください。

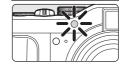
1 ロータリーマルチセレクターの ⏲（セルフタイマー）を押す

- セルフタイマーの設定メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで［⏲ 10s］または［⏲ 2s］を選び、OKボタンを押す

- ［⏲ **10s**］（10秒）：記念撮影などに適しています。
- ［⏲ **2s**］（2秒）：手ブレの軽減に適しています。
- 設定したセルフタイマーモードが表示されます。
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。

3 構図を決め、シャッターボタンを半押しする

- ピントと露出が合います。

4 シャッターボタンを全押しする

- セルフタイマーが作動し、シャッターがきれるまでの秒数が表示されます。作動中はセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約1秒前になると、点灯に変わります。
- シャッターがきれると、セルフタイマーは［**OFF**］になります。
- セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

笑顔を撮影する（笑顔自動シャッター）

顔認識した人物の笑顔を検出して自動でシャッターをきることができます。美肌機能で人物の顔の肌をなめらかにできます。
撮影モード（📖44）が、📷（オート撮影）モード、シーンモードの［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］、P、S、A、M、U1、U2、U3モードのときに使えます。

1 ロータリーマルチセレクターの 🕐（セルフタイマー）を押す

- セルフタイマーの設定メニューが表示されます。
- フラッシュモード、露出、撮影メニューなどを設定するときは、🕐を押す前に設定してください。

2 ロータリーマルチセレクターで　☺（笑顔自動シャッター）を選び、OKボタンを押す

- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。

3 構図を決める

- カメラを被写体に向けます。
- カメラが人物の顔を認識すると、顔が二重枠のAFエリア表示で囲まれます。
- 最大3 人の顔を認識します。複数の顔を認識したときは、最も画面の中央に近い顔が二重枠のAFエリア表示で囲まれ、他の顔が一重枠で囲まれます。

4 シャッターボタンを全押しする

- 笑顔検出が始まり、二重枠で囲まれた人物の笑顔を検出すると、自動的にシャッターがきれます。
- シャッターがきれるたびに、顔認識と笑顔検出による自動撮影を繰り返します。

5 必要な画像を撮影し終わったら、シャッターボタンを押す

- 自動撮影を終了します。
- 以下の場合も、撮影が終了します。
  - 12コマ撮影したとき
  - 手順4でシャッターボタンを押してから、笑顔が検出されずに5分経過したとき

笑顔自動シャッターについてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- 笑顔自動シャッター中は、ボタンを押しても液晶モニターOFFにはなりません(14)。
- 撮影条件などによっては、適切に顔の認識や笑顔の検出ができないことがあります。
- 「顔認識についてのご注意」→87
- 他の機能と同時に使えない場合があります。→「同時に設定できない機能」（108）

美肌機能についてのご注意

- 笑顔自動シャッターで撮影した画像は、人物の顔（最大3人）の肌をなめらかにしてから画像を記録します（美肌機能）。そのため、画像の記録時間が通常より長くなることがあります。
- 撮影条件によっては、撮影時の画面でカメラが顔を認識していても、美肌の効果が表れないことや、顔以外の部分が画像処理されることがあります。
- 美肌機能の度合いは設定できません。
- 撮影後にも、記録した画像に美肌の編集ができます（139）。

笑顔自動シャッターでのセルフタイマーランプ動作

手順4でシャッターボタンを押した後にカメラが顔を認識すると、セルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる直前に消灯します。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体→29

リモコンでシャッターをきる

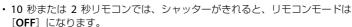
別売のリモコンML-L3（□200）を使ってシャッターをきることができます。記念撮影など自分も一緒に写りたいときや、シャッターボタンを押す操作による手ブレを軽減したいときに便利です。

- リモコンを使って撮影するときは三脚の使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□167）の［**手ブレ補正**］（□175）を［**OFF**］にしてください。

1 ロータリーマルチセレクターの ⏲（セルフタイマー）を押す

- セルフタイマーの設定メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターでリモコンモードを選び、Ⓚボタンを押す

- ［ ］（瞬時リモコン）：リモコンの送信ボタンを押すと、すぐに撮影します。
- ［ **10s**］（10秒リモコン）：リモコンの送信ボタンを押すと、約10秒後に撮影します。
- ［ **2s**］（2秒リモコン）：リモコンの送信ボタンを押すと、約2秒後に撮影します。
- 設定したリモコンモードが表示されます。
- Ⓚボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。

3 構図を決める

4 リモコンの送信部をカメラ前面または背面のリモコン受光部（4、5）に向けて送信ボタンを押す

- 5 m以内の距離で、送信ボタンを押してください。
- 瞬時リモコンでは、ピントが合うとすぐにシャッターがきれます。
- 10秒または2秒リモコンでは、ピントが合うとセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約1秒前になると、点灯に変わります。セルフタイマーを途中で止めるときは、もう一度送信ボタンを押します。
- 10 秒または 2 秒リモコンでは、シャッターがきれると、リモコンモードは［**OFF**］になります。

リモコンについてのご注意

［**連写**］または［**BSS**］を使って撮影するときや、シーンモードの［**スポーツ**］または［**ミュージアム**］で撮影するときはシャッターボタンを押して撮影してください。リモコンの送信ボタンを押すと、1コマずつの撮影になります。

フォーカスモードを変える

撮影目的に合わせて、以下のフォーカスモードを選べます。

AF　通常AF

被写体までの距離に応じて自動的にピントを合わせます。レンズから50 cm以上（最も望遠側の場合は80 cm以上）離れた被写体を撮影するときに使います。

マクロAF

花や虫など小さな被写体の近接撮影に使います。
液晶モニターのマークが緑色で表示されているとき（ズーム位置がマークより広角側のとき）は、レンズ前約2 cmまでの被写体にピントを合わせられます。最短撮影距離は、ズーム位置によって異なります。

遠景AF

窓越しの景色や風景、建物などを撮影するときに使います。
シャッターボタンを半押しすると、常にAFランプが緑色に点灯します。ただし、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。フラッシュモードは、（発光禁止）になります。

MF　マニュアルフォーカス

レンズ前約2 cm～無限遠（∞）の任意の被写体にピントを合わせられます（□42）。

各撮影モードで使えるフォーカスモード

		P、S、A、M、U1、U2、U3	SCENE		
AF（通常AF）	○※1	○※1	※2	○※1	○※1
（マクロAF）	○	○		○	○
（遠景AF）	○	○		○	○
MF（マニュアルフォーカス）	×	○		○	×

※1 各撮影モードの初期設定です。
※2 使えるフォーカスモードと初期設定は、シーンによって異なります（□46～55）。

フォーカスモードの設定について

- 撮影モードP、S、A、Mの場合、変更したフォーカスモードの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）

フォーカスモードの設定方法

1 ロータリーマルチセレクターの 🌷（フォーカスモード）を押す

- フォーカスモードの設定メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターでフォーカスモードを選び、OKボタンを押す

- 設定したフォーカスモードが表示されます。
- AF（通常AF）にするとモニター情報表示（□14）がONでも、AFが数秒間で消えます。
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。

マクロAFについて

P、S、A、M、U1、U2、U3モード、🎥（動画）モードでは、撮影メニューの［**AFモード**］（□102）を［**常時AF**］に設定すると、シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。常にピントを合わせる動作音がします。
それ以外の撮影モードでは、マクロAFになると、自動的に［**常時AF**］になります。

遠景AFについて

📷（オート撮影）モード、P、S、A、M、U1、U2、U3モード、🌙（ローノイズナイト）モードで遠景AFに設定したときは、画面にAFエリアは表示されません。

マニュアルフォーカスでピントを合わせる

撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3、(ローノイズナイト)のときに使えます。モードダイヤルで撮影モードを選んでください(□44)。

1 ロータリーマルチセレクターの (フォーカスモード)を押して、設定メニューを表示する

- ロータリーマルチセレクターでMF(マニュアルフォーカス)を選び、OKボタンを押します。
- 画面上部にMFが表示され、写る範囲と画像中央部の拡大表示が同時に表示されます。

2 ピントを合わせる

- 液晶モニターを見ながら、ロータリーマルチセレクターを使ってピントを合わせます。
- ▲を押すと、遠くの被写体にピントが合います。
- ▼を押すと、近くの被写体にピントが合います。
- ▶ を押すと、いったんオートフォーカスでピントを合わせてから、マニュアルフォーカスの操作ができます。［**はい**］を選んでOKボタンを押すと、画面中央の被写体にオートフォーカスします。
- シャッターボタンを半押しすると、構図を確認できます。そのまま全押ししても撮影できます。

3 OKボタンを押す

- 設定したピントに固定され、固定したピントで続けて撮影できます。
- 設定したピントを変更するときは、もう一度OKボタンを押して手順2の画面を表示します。
- オートフォーカスに戻すときは、手順 1 に戻ってMF以外を選びます。

MF(マニュアルフォーカス)について

- シャッターボタンを半押しすると、およその被写界深度(被写体の前後のピントの合う範囲)を確認できます。
- 電子ズームは使えません。
- 液晶モニターをOFFにすると、フォーカスモードはAF(通常AF)になります。

明るさを調節する（露出補正）

露出補正を設定して撮影すると、画像全体の明るさを明るく、または暗く調整できます。

1 露出補正ダイヤルを回して補正値を選ぶ

- 被写体を明るくしたいとき：補正値を「+」側に設定します。
- 被写体を暗くしたいとき：補正値を「−」側に設定します。

露出補正ダイヤル指標

- ［**0.0**］以外に設定すると、液晶モニターに図マークと補正値が表示され、撮影時は露出補正ダイヤルの指標が点灯します。

2 シャッターボタンを押して撮影する

露出補正の設定について

撮影モードが、M（マニュアル露出）モード（65）およびシーンモードの［**打ち上げ花火**］（54）の場合、露出補正は使えません。

撮影モードを選ぶ（モードダイヤル）

モードダイヤルを回してアイコン（図記号）を指標に合わせると、以下の撮影モードに切り換わります。

P、S、A、Mモード（□60）

シャッタースピードや絞り値などを自分で決めて、より本格的な撮影を楽しめます。

（オート撮影）モード（□24）

細かい設定を気にせず気軽に撮影できます。はじめてデジタルカメラを使う方でも簡単に撮影できます。

U1、U2、U3 ユーザーセッティングモード（□112）

撮影でよく使う設定の組み合わせをU1、U2、U3の3通りまで登録できます。登録した設定は、モードダイヤルをU1、U2またはU3に合わせるだけで、すぐに呼び出して撮影できます。

（動画）モード（□146）

ハイビジョンの動画（音声付き）を撮影できます。

SCENE（シーン）モード（□45）

撮影シーンを選ぶだけの簡単な操作で、そのシーンに合った設定で撮影ができます。おまかせシーンにすると、カメラが撮影シーンを自動的に選ぶので、より簡単にシーンに合った撮影ができます。

ローノイズナイトモード（□58）

ISO感度を高めに自動制御して、フラッシュを使わずに薄暗いシーンの雰囲気を活かして撮影できます。

シーンに合わせて撮影する（シーンモード）

以下の撮影シーンを選ぶだけの簡単な操作で、そのシーンに合った設定で撮影ができます。

おまかせシーン	パーティー	夜景	モノクロコピー
ポートレート	ビーチ	クローズアップ	逆光
風景	雪	料理	パノラマアシスト
スポーツ	夕焼け	ミュージアム	
夜景ポートレート	トワイライト	打ち上げ花火	

シーンモードの設定方法

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- シーンモードになります。初期設定は、（おまかせシーン）です。

2 MENUボタンを押してシーンメニューを表示し、ロータリーマルチセレクターでシーンを選んで、OKボタンを押す

- シーンメニューが表示されないときは、タブに切り換えます（14）。
- シーンモードの種類と特徴→48

3 構図を決めて撮影する

- フラッシュを使うシーンでは、（フラッシュポップアップ）ボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップしてから撮影してください。

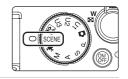
画質と画像サイズの設定

- クイックメニューダイヤルをQUALに合わせてクイックメニューボタンを押すと、［**画質**］（68）と［**画像サイズ**］（70）を設定できます。設定は、他の撮影モードにも適用されます（ローノイズナイトモード、撮影モードU1、U2、U3を除く）。
- シーンモードでは、NRW (RAW) 画像を記録できません。

各シーンの説明を表示する（ヘルプ表示）

シーンメニュー（手順2）でシーンの種類を選び、ズームレバーを**T**（?）方向に回すと、そのシーンの説明を表示できます。もとの画面に戻るには、もう一度ズームレバーを**T**（?）方向に回します。

カメラまかせでシーンに合わせて撮影する（おまかせシーン）

構図を決めるだけでカメラが撮影シーンを自動的に判別するので、より簡単にシーンに合った撮影ができます。「おまかせシーン」にして、カメラを被写体に向けると、以下のシーンに合わせた設定に自動的に切り換わります。

- オート撮影（一般的な撮影）
- ポートレート（48）
- 風景（48）
- 夜景ポートレート（49）
- 夜景（51）
- クローズアップ（52）
- 逆光（55）

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENU ボタンを押してシーンメニューを表示し、ロータリーマルチセレクターで［おまかせシーン］を選び、OK ボタンを押す

シーンメニュー
- おまかせシーン
- ポートレート
- 風景
- スポーツ
- 夜景ポートレート
- パーティー
- ビーチ

- おまかせシーンになります。
- 内蔵フラッシュが閉じていると、［**フラッシュが閉じています**］と表示されます。
- （フラッシュポップアップ）ボタンを押して、内蔵フラッシュをポップアップしてください。

3 構図を決めて撮影する

- カメラがシーンを自動判別すると、撮影モードアイコンが切り換わります。

  ：オート撮影　　：夜景
  ：ポートレート　　：クローズアップ
  ：風景　　：逆光
  ：夜景ポートレート

- シャッターボタンを半押しするとピントと露出が合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します。
- シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれます。

おまかせシーンについてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- 撮影状況によっては、意図したシーンに切り換わらないことがあります。その場合は、（オート撮影）モード（24）に切り換えるか、目的にあったシーンモード（48）を選んで撮影してください。

おまかせシーンでのピント合わせについて

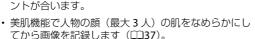
- おまかせシーンでは、カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→86）。
- 撮影モードアイコンがや（クローズアップ）のときは、AFエリア選択（84）の［**オート**］と同様に9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアにピントが合います。

フラッシュについて

- フラッシュモード（32）は、AUTO（自動発光）（初期設定）または（発光禁止）を選べます。
  - AUTO（自動発光）にすると、自動判別したシーンに合わせて、カメラが自動的にフラッシュモードを設定します。
  - （発光禁止）にすると、内蔵フラッシュをポップアップしたままでも、フラッシュは発光しません。
- 内蔵フラッシュを発光したくないときは、内蔵フラッシュを閉じたままでも撮影できます。

おまかせシーンで使える機能

- セルフタイマー（35）および露出補正（43）の設定ができます。
- ロータリーマルチセレクターの（フォーカスモード）ボタン（12、40）および（AFエリア選択）ボタン（12、84）は使えません。

シーンを選んで撮影する（シーンモードの種類と特徴）

おまかせシーンについては、「カメラまかせでシーンに合わせて撮影する（おまかせシーン）」（🕮46）をご覧ください。

- 各シーンに記載している ⚡ は内蔵フラッシュをポップアップしているときのフラッシュモード（🕮32）の設定です。⏲はセルフタイマー（🕮35）/リモコン（🕮38）/笑顔自動シャッター（🕮36）、🌷はフォーカスモード（🕮40）の設定です。

ポートレート

人物のポートレート撮影に使います。
- カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について →🕮86）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。

- 美肌機能で人物の顔（最大 3 人）の肌をなめらかにしてから画像を記録します（🕮37）。
- 顔を認識しないときは､画面中央でピントが合います。
- 電子ズームは使えません。

⚡	⚡◎※	⏲	OFF※	🌷	AF

※ 変更できます。

風景

自然の風景や街並みなどを、色鮮やかに撮影したいときに使います。
- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF ランプが緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- AF 補助光（🕮177）は点灯しません。

⚡	⊘	⏲	OFF※	🌷	▲

※　セルフタイマーとリモコンを使えます。

いろいろな撮影

スポーツ

運動会などスポーツ写真を撮影するときに使います。動きのある被写体の一瞬の動きを連写（連続撮影）によって鮮明にとらえます。

- 画面中央でピントを合わせます。シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- シャッターボタンを全押ししている間、約 1.3 コマ / 秒で最大 45 コマまで連写できます（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが ［**3648 × 2736**］のとき）。
- ピントと露出、ホワイトバランスは 1 コマ目を撮影した条件に固定されます。
- 画質、画像サイズ、SD カードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。
- AF 補助光（177）は点灯しません。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF	マクロ	AF※

※　MF（マニュアルフォーカス）に変更できます。

夜景ポートレート　三脚 NR

夕景や夜景をバックに人物を撮影するときに使います。背景の雰囲気を活かしながら人物をフラッシュ撮影します。

- 内蔵フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
- カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について →86）。
- 複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
- 美肌機能で人物の顔（最大 3 人）の肌をなめらかにしてから画像を記録します（37）。
- 顔を認識しないときは、画面中央でピントが合います。
- 電子ズームは使えません。

フラッシュ	赤目軽減スローシンクロ※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	AF

※1 赤目軽減スローシンクロ強制発光に固定されます。
※2 変更できます。

三脚：三脚がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（175）を［**OFF**］にしてください。
NR：NRがついたシーンモードでは、ノイズ低減機能が自動的に作動して、画像の記録時間が通常より長くなることがあります。

🎉 パーティー

パーティー会場などでの撮影に使います。キャンドルライトなどの背景を活かして、雰囲気のある画像に仕上げます。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 手ブレしやすいため、カメラをしっかり持ってください。暗い場所では、三脚などの使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（📖175）を［**OFF**］にしてください。

⚡	⚡◎※1	⏲	OFF※2	🌷	AF

※1 赤目軽減スローシンクロに切り換わることがあります。変更できます。
※2 セルフタイマーとリモコンを使えます。

🏖 ビーチ

晴天の海や砂浜などを明るく鮮やかに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。

⚡	⚡AUTO※1	⏲	OFF※2	🌷	AF

※1 変更できます。
※2 セルフタイマーとリモコンを使えます。

⛄ 雪

晴天の雪景色などを明るく鮮やかに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。

⚡	⚡AUTO※1	⏲	OFF※2	🌷	AF

※1 変更できます。
※2 セルフタイマーとリモコンを使えます。

夕焼け

赤い夕焼けや朝焼けの撮影に使います。
- 画面中央でピントを合わせます。

フラッシュ	AUTO※1	セルフタイマー	OFF※2	マクロ	AF

※1 変更できます。
※2 セルフタイマーとリモコンを使えます。

トワイライト

夜明け前や日没後のわずかな自然光の中での風景撮影に使います。
- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF ランプが緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- AF 補助光（□177）は点灯しません。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF※	マクロ	遠景

※セルフタイマーとリモコンを使えます。

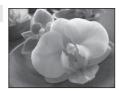
夜景

夜景の撮影に使います。スローシャッターで夜景の雰囲気を表現します。
- 遠景にピントが合います。シャッターボタンを半押しすると、常に AF ランプが緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- AF 補助光（□177）は点灯しません。

フラッシュ	発光禁止	セルフタイマー	OFF※	マクロ	遠景

※セルフタイマーとリモコンを使えます。

三脚：三脚がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（□175）を［**OFF**］にしてください。
NR：NRがついたシーンモードでは、ノイズ低減機能が自動的に作動して、画像の記録時間が通常より長くなることがあります。

いろいろな撮影

🌷 クローズアップ

草花や昆虫、小さな被写体などの接写（近接撮影）に使います。

- フォーカスモード(□40)が🌷(マクロAF)になり、最短距離で撮影可能な位置まで自動的にズームが移動します。
- 液晶モニターの🌷マークが緑色で表示されているとき(ズーム位置が△マークより広角側のとき)は、レンズ前約 2 cm までの被写体にピントを合わせられます。最短撮影距離は、ズーム位置によって異なります。
- AF エリア選択は[**マニュアル**]になり、ピントを合わせるエリア(AF エリア)を選べます(□84)。Ⓚ ボタンを押して、ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼◀ ▶を押すとAFエリアが移動します。ⓀボタンをおしてAFエリアの位置を決定すると、フラッシュモード、セルフタイマーまたは露出補正の設定ができます。
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- 手ブレしやすいため、[**手ブレ補正**]（□175)の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。

⚡	⚡AUTO※1	⏲	OFF※2	🌷	🌷

※1 変更できます。フラッシュ撮影時は、撮影距離が50 cm未満の場合、フラッシュの光が充分に行き渡らないことがありますのでご注意ください。

※2 セルフタイマーとリモコンを使えます。

いろいろな撮影

料理

料理の撮影に使います。

- フォーカスモード（40）が（マクロ AF）になり、最短距離で撮影可能な位置まで自動的にズームが移動します。
- 液晶モニターのマークが緑色で表示されているとき（ズーム位置がマークより広角側のとき）は、レンズ前約 2 cm までの被写体にピントを合わせられます。最短撮影距離は、ズーム位置によって異なります。
- 色合いを画面左のスライダー表示の範囲で調整できます。ロータリーマルチセレクターの ▲ を押すと赤味、▼ を押すと青味が増します。色合い調整の設定は、電源を OFF にしても記憶されます。

- AF エリア選択 は［**マニュアル**］になり、ピントを合わせるエリア（AF エリア）を選べます（84）。ボタンを押して、ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼◀ ▶ を押すと AF エリアが移動します。ボタンを押して AF エリアの位置を決定すると、色合い、セルフタイマーまたは露出補正の設定ができます。
- シャッターボタンの半押しでピントを固定するまで、オートフォーカスによるピント合わせを自動的に繰り返します。
- 手ブレしやすいため、［**手ブレ補正**］（175）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。

			OFF※		

※ セルフタイマーとリモコンを使えます。

いろいろな撮影

🏛 ミュージアム

フラッシュ撮影が禁止されている美術館など、フラッシュを発光させたくない場所で撮影するときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- BSS(ベストショットセレクター)(📖99)を使って撮影できます。
- 手ブレしやすいため、[**手ブレ補正**]（📖175）の設定を確認し、カメラをしっかり持ってください。
- AF 補助光（📖177）は点灯しません。

⚡	⊛	⏲	OFF※1	🌷	AF※2

※1 セルフタイマーとリモコンを使えます。
※2 🌷（マクロAF）に変更できます。

❂ 打ち上げ花火 [三脚]

スローシャッターで、打ち上げ花火を撮影します。

- 遠景にピントが固定されます。シャッターボタンを半押しすると、常に AF ランプが緑色に点灯します。ただし、ピントは遠景に合うため、近くの被写体にはピントが合わないことがあります。
- 露出補正（📖43）は使えません。
- AF 補助光（📖177）は点灯しません。

⚡	⊛	⏲	OFF	🌷	▲

❏ モノクロコピー

ホワイトボードや印刷物などの文字を、シャープに撮影したいときに使います。

- 画面中央でピントを合わせます。
- 近くのものを撮影するときは、フォーカスモード（📖40）の 🌷（マクロ AF）を併用してください。
- 赤色、青色などの被写体を撮影すると、文字などが薄くなることがあります。

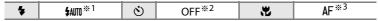
⚡	⚡AUTO※1	⏲	OFF※2	🌷	AF※3

※1 変更できます。
※2 セルフタイマーとリモコンを使えます。
※3 🌷（マクロAF）に変更できます。

[三脚]：[三脚]がついたシーンモードでは、三脚などのご使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、[**手ブレ補正**]（📖175）を［**OFF**］にしてください。

逆光

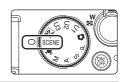
逆光状態での撮影に使います。フラッシュが常に発光し、人物が影にならずに撮影できます。

- 内蔵フラッシュをポップアップしてから撮影してください。
- 画面中央でピントを合わせます。

⚡	⚡	⏲	OFF※	🌷	AF

※セルフタイマーとリモコンを使えます。

パノラマアシスト

撮影した複数の画像をつなげて、パノラマ写真に合成したいときに使います。撮影した画像は、付属のソフトウェア「Panorama Maker 5」を使ってパソコンでパノラマ写真に合成します。詳しくは「パノラマアシストを使った撮影方法」（□56）をご覧ください。

⚡	⚡AUTO※1	⏲	OFF※2	🌷	AF※3

※1 変更できます。
※2 セルフタイマーとリモコンを使えます。
※3 🌷（マクロAF）または▲（遠景AF）に変更できます。

パノラマアシストを使った撮影方法

画面中央でピントを合わせます。三脚を使うと、構図を合わせやすくなります。三脚などで固定して撮影するときは、セットアップメニュー（□167）の［**手ブレ補正**］（□175）を［**OFF**］にしてください。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MENU ボタンを押してシーンメニューを表示し、ロータリーマルチセレクターで［パノラマアシスト］を選び、OKボタンを押す

- パノラマ方向（画像をつなげる方向）を示す▷マークが表示されます。

3 ロータリーマルチセレクターでパノラマ方向を選び、OKボタンを押す

- 右方向につなげるときは▷、左方向は◁、上方向は△、下方向は▽を選びます。
- 選んだ方向に黄色い▷▷マークが移動し、OKボタンを押すと方向を決定します。決定した方向の▷（白色）が表示されます。
- フラッシュモード（□32）、セルフタイマー（□35）/リモコン（□38）、フォーカスモード（□40）、露出補正（□43）を設定したいときは、ここで設定してください。
- もう一度OKボタンを押すと、パノラマ方向を選び直せます。

4 一番端の被写体に構図を合わせ、1コマ目を撮影する

- 撮影した画像が、画面の約1/3の部分に半透明で表示されます。

いろいろな撮影

5 2コマ目以降を撮影する

- 次の被写体の 1/3 が前の絵柄に重なるように構図を合わせて、シャッターボタンを押してください。
- この手順を繰り返して、必要な画像を撮影してください。

6 必要な画像を撮影し終わったら、Ⓚボタンを押す

- 手順3の状態に戻ります。

パノラマアシストについてのご注意

- フラッシュモード、セルフタイマー / リモコン、フォーカスモード、露出補正は、1コマ目のシャッターをきる前に設定してください。1コマ目を撮影した後は変更できません。1コマ目を撮影した後は、［**画質**］（□68）、［**画像サイズ**］（□70）の変更やズーム操作、画像の削除もできません。
- 撮影中にオートパワーオフ（□181）による待機状態になると撮影が終了します。オートパワーオフの時間を長めに設定しておくことをおすすめします。

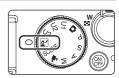
AE/AF-L表示について

パノラマアシストモードでは、パノラマ写真を構成するすべての画像を、1コマ目と同じ露出、ホワイトバランスおよびピントで撮影します。

1コマ目を撮影すると、露出、ホワイトバランスとピントをロック（固定）したことを示すAE/AF-Lが画面に表示されます。

Panorama Maker 5 について

Panorama Maker 5 は、付属のViewNX 2 CD-ROMを使ってパソコンにインストールできます。

撮影した画像をパソコンに転送して（□156）、Panorama Maker 5 でパノラマ写真に合成してください（□160）。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□203

薄暗いシーンを撮影する（ローノイズナイトモード）

ISO感度を高めに自動制御します。薄暗いシーンでフラッシュを発光させずに、その場の雰囲気を活かして、ノイズの少ない画像を撮影します。また、ズームの望遠側での撮影で、手ブレや被写体ブレの影響を軽減します。

- 選べる画像サイズは［**2048×1536**］以下です。
- ISO感度はISO 400から12800の範囲で自動的に設定されます。

1 モードダイヤルを（ローノイズナイト）に合わせる

- ローノイズナイトモードになります。

2 構図を決めて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（84）。

- フラッシュを使うときは、内蔵フラッシュをポップアップします。

ローノイズナイトモードで使える機能

- フラッシュモード（32）の変更、セルフタイマー（35）、フォーカスモード（40）、AFエリア選択（84）および露出補正（43）の設定ができます。
- クイックメニューダイヤルをQUALまたはWBに合わせてクイックメニューボタンを押すと、以下の設定ができます。
  - QUAL：［**画質**］（68）と［**画像サイズ**］（70）
    NRW (RAW) 画像は記録できません。画像サイズは、［**2048×1536**］（初期設定）、［**1600×1200**］、［**1280×960**］、［**1024×768**］、［**640×480**］のみ選べます。
    ［**画質**］、［**画像サイズ**］の設定は、他の撮影モードには適用されません。
  - WB：［**ホワイトバランス**］（76）
- ローノイズナイトメニューの機能を設定できます。→「ローノイズナイトメニューを使う」（59）。

内蔵NDフィルターについて

被写体が明るすぎるときなどは、セットアップメニュー（167）の［**内蔵NDフィルター設定**］（184）を設定すると、減光して撮影できます。

ローノイズナイトモードについてのご注意

- 薄暗い場面でも手ブレを軽減しますが、フラッシュを使わないときは、三脚などの使用をおすすめします。三脚などで固定して撮影するときは、［**手ブレ補正**］（□175）を［**OFF**］にしてください。
- ISO 感度を高めにして撮影するため、撮影した画像がざらつくことがあります。
- 常にISO 400以上で撮影されるため、晴天下では適切な露出が得られない（露出がオーバーになる）ことがあります。
- 極端に暗い場面では、ピントが合いにくくなることがあります。
- シャッタースピードは最長1/4秒に制限されます。

関連ページ

オートフォーカスが苦手な被写体→□29

ローノイズナイトメニューを使う

ローノイズナイトモードでは、MENUボタン（□13）を押して ローノイズナイトメニューを表示すると、以下の機能を設定できます。

- ローノイズナイトメニューの設定は、他の撮影モードの設定とは連動せずに独立して記憶されます。

連写

［**連写**］（□99）を設定できます。［**単写**］または［**連写**］を選べます。

調光補正

［**調光補正**］（□102）を設定できます。

測光方式

［**測光方式**］（□98）を設定できます。

ローノイズナイトメニューの表示方法

モードダイヤルを（ローノイズナイト）モードに合わせます。
MENUボタン（□13）を押してメニューを表示し、ロータリーマルチセレクターでタブに切り換えます（□14）。

- メニューの選択と設定には、ロータリーマルチセレクターを使います（□12）。
- ローノイズナイトメニューを終了するには、MENUボタンを押します。

露出を設定して撮影する（P、S、A、Mモード）

P、S、A、Mモードについて

モードダイヤルを切り換えて、P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）、M（マニュアル露出）の4種類の露出モードを使って撮影できます。シャッタースピードや絞りを自分で設定できるほか、クイックメニューダイヤル（□10、67）からISO感度やホワイトバランスなどを変更して、さらに高度な撮影を楽しめます。

露出モード		内容	こんなときに
P	**プログラムオート**（□62）	シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動的にセットします。同じ露出でシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えるプログラムシフト（□62）もできます。	ほとんどの撮影状況に適しています。
S	**シャッター優先オート**（□63）	設定したシャッタースピードに合わせて、カメラが自動的に絞り値をセットします。	動きの速い被写体を速いシャッタースピードで撮影したり、遅いシャッタースピードで動きを強調するときなどに使います。
A	**絞り優先オート**（□64）	設定した絞り値に合わせて、カメラが自動的にシャッタースピードをセットします。	手前から奥まで鮮明に写したり、背景の描写をやわらげたいときなどに使います。
M	**マニュアル露出**（□65）	シャッタースピードも絞り値も撮影者が自由に設定できます。	撮影意図に合わせて、露出をコントロールしたいときに使います。

モードダイヤルのU1、U2、U3（ユーザーセッティングモード）でも、P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）またはM（マニュアル露出）で撮影できます。U1、U2、U3には、撮影でよく使う設定の組み合わせ（ユーザーセッティング）を登録できます（□112）。

P、S、A、Mモードで使える機能

- フラッシュモード（□32）の変更、セルフタイマー（□35）、フォーカスモード（□40）、AFエリア選択（□84）および露出補正（□43）の設定ができます。
- クイックメニューダイヤルを合わせてクイックメニューボタンを押すと、クイックメニューを設定できます（□10、67）。
- MENUボタンを押すと、撮影メニュー（□90）を設定できます。

内蔵NDフィルターについて

被写体が明るすぎるときなどは、セットアップメニュー（□167）の［**内蔵NDフィルター設定**］（□184）を設定すると、減光して撮影できます。

露出について

シャッタースピードと絞り値を調節して、画像が意図した明るさ（露出）で撮影されるようにすることを「露出を合わせる」といいます。同じ露出の画像でも、シャッタースピードと絞り値の組み合わせによって、撮影される画像の流動感や背景のぼかし具合などが変わってきます。ISO感度の設定（□74）を変えると、適正露出を得られるシャッタースピードと絞り値の範囲も変化します。

シャッタースピードを調節する

速くする
1/1000秒

遅くする
1/30秒

絞り値を調節する

小さくする
（絞りを開く）
f/2.8

大きくする
（絞りを絞り込む）
f/8

P（プログラムオート）

シャッタースピードと絞り値の両方をカメラが自動的にセットします。

1 モードダイヤルをPに合わせる

2 構図を決めて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（🕮84）。

プログラムシフトについて

P（プログラムオート）で撮影中にコマンドダイヤルを回すと、露出値を変えずにシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えられます。これを「プログラムシフト」といいます。プログラムシフト中は、液晶モニター左上のP表示の横にプログラムシフトマーク（✱）が表示されます。

- 背景をぼかしたい（絞り値を小さく設定したい）場合や、動きの速い被写体を撮影したい（速いシャッタースピードを設定したい）場合には、コマンドダイヤルを右に回してください。
- 近くから遠くまでピントの合った写真を撮影したい（絞り値を大きく設定したい）場合や被写体の動きを強調したい（遅いシャッタースピードを設定したい）場合には、コマンドダイヤルを左に回してください。
- プログラムシフトを解除するには、プログラムシフトマーク（✱）が消えるまでコマンドダイヤルを回してください。モードダイヤルを切り換えたり、電源をOFFにしても、プログラムシフトを解除できます。

P（プログラムオート）撮影時のご注意

被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、適切な露出が得られない場合があります。このときにシャッターボタンを半押しすると、シャッタースピード表示と絞り値表示が点滅します。内蔵NDフィルター（🕮184）、ISO感度（🕮74）などの設定を変更すると適切な露出が得られることがあります。

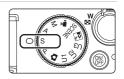
シャッタースピードについて

他の設定によってシャッタースピードが制限されることがあります。→「同時に設定できない機能」（🕮108）

S（シャッター優先オート）

設定したシャッタースピードに合わせて、カメラが自動的に絞り値をセットします。

- シャッタースピードを最大1/2000～8秒の範囲で設定できます。

1 モードダイヤルをSに合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを設定する

- Av/Tv ボタンを押すと、ロータリーマルチセレクターを回してシャッタースピードを設定できます（初期設定、□187）。

3 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（□84）。

S（シャッター優先オート）撮影時のご注意

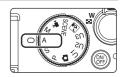
- 被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、設定したシャッタースピードでは適切な露出が得られないことがあります。このときに、シャッターボタンを半押しすると、シャッタースピード表示が点滅します。設定したシャッタースピードを変えてください。
- 1/4秒以上の低速シャッタースピードに設定すると、撮影画像にノイズが出ることがあります。このようなときはシャッタースピード表示が赤色に点灯します。撮影メニューの［**長秒時ノイズ低減**］（□103）を［**ON**］にするようおすすめします。

シャッタースピードについて

他の設定によってシャッタースピードが制限されることがあります。→「同時に設定できない機能」（□108）

A（絞り優先オート）

設定した絞り値に合わせて、カメラが自動的にシャッタースピードをセットします。

1 モードダイヤルをAに合わせる

2 ロータリーマルチセレクターを回して、絞り値（開放絞り～最小絞り）を設定する

- 絞り値は、f/2.8 ～ 8（広角側）、f/5.6 ～ 8（望遠側）の範囲で設定できます。
- Av/Tv ボタンを押すと、コマンドダイヤルを回して絞り値を設定できます（初期設定、📖187）。

3 ピントを合わせて撮影する

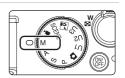
- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（📖84）。

A（絞り優先オート）撮影時のご注意

被写体が暗すぎたり明るすぎたりすると、設定した絞り値では適切な露出が得られないことがあります。このときにシャッターボタンを半押しすると、絞り値表示が点滅します。設定した絞り値を変えてください。

シャッタースピードについて

- ズームが広角側で絞り値がf/8（最小絞り）のときは、シャッタースピードが1/4000秒まで設定されます。
- 他の設定によってシャッタースピードが制限されることがあります。➝「同時に設定できない機能」（📖108）

絞りとズームについて

絞り値（F値）とはレンズの明るさを示す値です。レンズの絞り値は、数値が小さくなるほど明るくなり、大きくなるほど暗くなります。レンズの一番明るい絞り値を「開放絞り」といい、一番暗い絞り値を「最小絞り」といいます。このカメラのズームレンズはズームすると、f/2.8-5.6 の範囲で開放絞りが変化します。絞り値は、望遠側にズームすると大きく（暗く）なり、広角側にズームすると小さく（明るく）なります。

M（マニュアル露出）

シャッタースピードも絞り値も撮影者が自由に設定できます。

- シャッタースピードを最大1/4000～60秒の範囲で設定できます。

1 モードダイヤルをMに合わせる

2 コマンドダイヤルを回して、シャッタースピードを設定する

- 1/4 秒以上の低速シャッタースピードの場合は、シャッタースピード表示が赤色に点灯します（□63）。
- 設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測定した適正露出値の差が液晶モニターの露出インジケーターに表示されます。
- 設定された露出値とカメラの測光した適正露出値の差は、露出インジケーターに－3 EVから+3 EVの範囲で1/3段ごとに表示されます。
図は露出が1段オーバーのときの例です。

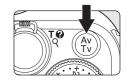
露出インジケーター

3 ロータリーマルチセレクターを回して、絞り値を設定する

- 必要に応じて、手順2～3を繰り返してシャッタースピードと絞り値を調整します。

4 ピントを合わせて撮影する

- 初期設定では、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。ピントが合うと、ピントが合った場所のAFエリア表示が緑色に点灯します（最大9カ所）（□84）。

ISO感度についてのご注意

［**ISO感度設定**］（□74）を［**オート**］（初期設定）、［**高感度オート**］、［**ISO 100-200**］または［**ISO 100-400**］に設定していると、ISO感度はISO 100に固定されます。

シャッタースピードについて

- 1/4000秒のシャッタースピードは、ズームが広角側で絞り値がf/8（最小絞り）のときのみ設定できます。
- 他の設定によってシャッタースピードが制限されることがあります。→「同時に設定できない機能」（□108）

シャッタースピードと絞り値の設定方法について

Av/Tvボタンを押すと、コマンドダイヤルで絞り値を設定し、ロータリーマルチセレクターを回してシャッタースピードを設定できます（初期設定、□187）。もう一度Av/Tvボタンを押すと、コマンドダイヤルとロータリーマルチセレクターの機能の割り当てが戻ります。

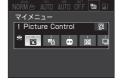
よく使う撮影の設定を変える（P、S、A、Mモード）

撮影モードP、S、A、M、U1、U2、U3で撮影するときは、以下の機能を設定できます。

- クイックメニュー
- AFエリア選択（□84）
- 撮影メニュー（□90）

クイックメニューを使う

クイックメニューダイヤルとクイックメニューボタンで、以下の機能を設定できます。

クイックメニューダイヤル指標
クイックメニューダイヤル
クイックメニューボタン

ダイヤル位置	機能	📷	P、S、A、M、U1、U2、U3	SCENE	🖼	🎥	□
QUAL	画質/画像サイズ	○	○	○	○	×	68
	動画設定	×	×	×	×	○	148
ISO	ISO感度設定	×	○	×	×	×	74
WB	ホワイトバランス	×	○	×	○	○	76
BKT	ブラケティング	×	○	×	×	×	80
My	マイメニュー※	×	○	×	×	×	187
📊i	トーンレベルインフォメーション	×	○	×	×	×	82

- クイックメニューを使うには、クイックメニューダイヤルを回して、設定したい機能に指標を合わせます。
- 撮影時にクイックメニューボタンを押すと、クイックメニューダイヤル指標が点灯し、指標を合わせた機能のクイックメニューを表示します。
- 各メニュー項目を設定するには、ロータリーマルチセレクターを使います。コマンドダイヤルとAv/Tvボタンを使っても設定できます。
- クイックメニューを終了するには、クイックメニューボタンを押すか、シャッターボタンを押します。

※My（マイメニュー）について

クイックメニューダイヤルをMy（マイメニュー）に合わせてクイックメニューボタンを押すと、撮影時によく使うメニュー項目だけを表示できます。

- マイメニューで表示する項目は、セットアップメニュー（□167）の［**マイメニュー登録**］（□187）で変更できます。

いろいろな撮影

QUAL 画質と画像サイズを設定する

記録する画質（画像の圧縮率）や画像サイズ（画像の大きさ）を設定します。

画質

画質と画像サイズの設定方法→□73

記録する画像の圧縮率を選びます。
画質を高くするほど、画像の細部の描写が保たれますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。

FINE FINE

［**NORMAL**］よりも精細な画質になります。画像を拡大するときや、プリンターで細かく表現したいときなどに適しています。
ファイル形式：JPEG、圧縮率：1/4

NORM NORMAL（**初期設定**）

一般的な撮影に適した画質モードです。
ファイル形式：JPEG、圧縮率：1/8

BASIC BASIC

画質は［**NORMAL**］よりも低くなりますが、電子メールの添付やホームページ掲載に適しています。
ファイル形式：JPEG、圧縮率：1/16

NRW+FINE NRW (RAW) + FINE※

NRW (RAW)とFINE（JPEG）の2種類の画像を同時に記録します。

NRW+NORM NRW (RAW) + NORMAL※

NRW (RAW)とNORMAL（JPEG）の2種類の画像を同時に記録します。

NRW+BASIC NRW (RAW) + BASIC※

NRW (RAW)とBASIC（JPEG）の2種類の画像を同時に記録します。

NRW NRW (RAW)※

撮像素子の生データを記録します。撮影後は、再生メニューの［**NRW (RAW) 現像**］（□143）を使って、JPEG形式の画像を作成します。

- ［**NRW (RAW)**］を選ぶと、［**画像サイズ**］は、10M［**3648 × 2736**］にリセットされます。
- ［**NRW (RAW) 現像**］では、ホワイトバランスや COOLPIX ピクチャーコントロールの設定などを調整できます。
- NRW (RAW) 画像は、そのままではプリントできません。［**NRW (RAW) 現像**］で JPEG 形式の画像を作成すると、PictBridge 対応プリンターやプリントサービス店でのプリントができます。

ファイル形式：NRW (RAW)

※ シーンモード、ローノイズナイトモードでは選べません。

COOLPIX P7000のNRW (RAW) 画像について

- 撮影した画像ファイルの拡張子は、「.NRW」になります。
- NRW (RAW) 画像は、そのままではNRW (RAW) 現像以外の画像編集ができません。画像編集するときは、［**NRW (RAW) 現像**］（□143）を使って作成したJPEG形式の画像を編集してください。
- パソコンでNRW (RAW) 画像を表示するには、ViewNX 2をインストールする必要があります。Capture NX 2でもNRW (RAW) 画像を扱えます。
- ViewNX 2は、付属のViewNX 2 CD-ROM を使ってパソコンにインストールできます（「簡単スタートガイド」の「ViewNX 2をインストールしよう」をご覧ください）。ViewNX 2の使い方は、ViewNX 2の操作画面やヘルプをご覧ください。

画質の設定について

- 画質の設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（□6、8）。
- 撮影モードP、S、A、M以外の撮影モードでもクイックメニューダイヤルから設定できます（動画モードを除く）。
- 設定は、他の撮影モードにも適用されます（撮影モードU1、U2、U3を除く）。
- シーンモードおよびローノイズナイトモードでは、NRW (RAW) 画像を記録できません。画質の設定が［**NRW (RAW)**］のときにシーンモードにすると、画質は［**NORMAL**］に切り換わります。［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］、［**NRW (RAW) + BASIC**］のときにシーンモードにすると、画質はそれぞれ［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］に切り換わります。
- ［**画質**］が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、電子ズームは使えません。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）

NRW (RAW) 画像とJPEG画像の同時記録について

- 同時記録したNRW (RAW) 画像とJPEG画像は、同じファイル番号で拡張子がそれぞれ「.NRW」と「.JPG」になります（□203）。
- カメラでの再生時は、JPEG画像だけが表示されます。
- JPEG画像を🗑ボタンを押して削除すると、同時記録したNRW (RAW) 画像も削除されますので、ご注意ください。

関連ページ

- 記録可能コマ数→□71
- 記録データのファイル名とフォルダー名→□203

画像サイズ

画質と画像サイズの設定方法→73

画質を［**FINE**］、［**NORMAL**］または［**BASIC**］で記録するときの、JPEG画像の大きさ（ピクセル数）を設定します。
画像サイズを大きくするほど、大きくプリントするのに適していますが、ファイルサイズが大きくなるため、記録できるコマ数は少なくなります。
サイズの小さい画像は、電子メールの添付やホームページ掲載に適しています。ただし、サイズが小さい画像を大きくプリントしようとすると、粒子の粗い画像になります。

画像サイズ		内容
10M	3648×2736 **（初期設定）**	8M［**3264×2448**］、5M［**2592×1944**］よりも精細な画像になります。
8M	3264×2448	ファイルサイズと画像のバランスが良く、一般的な撮影に適した画像サイズです。
5M	2592×1944	
3M	2048×1536	10M［**3648×2736**］、8M［**3264×2448**］、5M［**2592×1944**］よりも画像サイズが小さいため、より多く撮影できます。
2M	1600×1200	
1M	1280×960	
PC	1024×768	パソコンのモニターなどへの表示に適した画像サイズです。
VGA	640×480	電子メールへの添付や画面の縦横比が4:3のテレビへの表示に適しています。
3:2	3648×2432	35mm判フィルムカメラで撮影したときと同じ縦横比（3:2）の画像になります。
16:9 7M	3584×2016	ワイドテレビと同じ縦横比（16:9）の画像になります。
1:1	2736×2736	正方形の画像になります。

画像サイズの設定は、撮影時や再生時の画面で確認できます（6～8）。

画像サイズの設定について

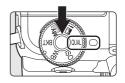
- 撮影モードP、S、A、M以外の撮影モードでもクイックメニューダイヤルから設定できます（動画モードを除く）。
- 設定は、他の撮影モードにも適用されます（ローノイズナイトモード、撮影モードU1、U2、U3を除く）。
- ローノイズナイトモードの場合、選べる画像サイズは3M［**2048×1536**］以下です。
- 記録されたNRW (RAW) 画像は［**NRW (RAW) 現像**］（143）で、作成するJPEG画像のサイズを選べます（最大3648×2736ピクセル）。
- ［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］、［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、JPEG 画像の［**画像サイズ**］を設定できます。ただし、3:2［**3648×2432**］、16:9 7M［**3584×2016**］、1:1［**2736×2736**］は選べません。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（108）

記録可能コマ数

それぞれの［**画像サイズ**］（□70）と［**画質**］（□68）の組み合わせで、内蔵メモリーや4 GBのSDカードに記録できるおおよそのコマ数は以下のとおりです。ただし、JPEG圧縮の性質上、画像の絵柄によって記録可能コマ数は大きく異なります。同じ容量のSDカードでも、カードの種類によって、記録可能コマ数が異なることがあります。

画像サイズ	画質	内蔵メモリー（約 79 MB）	SDカード※1（4 GB）	プリント時のサイズ※2
10M 3648×2736（初期設定）	FINE NORMAL BASIC NRW (RAW)	16コマ 32コマ 63コマ 5コマ	約770コマ 約1540コマ 約3010コマ 約230コマ	約31×23 cm ※3
8M 3264×2448	FINE NORMAL BASIC	20コマ 40コマ 78コマ	約970コマ 約1910コマ 約3650コマ	約28×21 cm
5M 2592×1944	FINE NORMAL BASIC	32コマ 62コマ 117コマ	約1520コマ 約2940コマ 約5480コマ	約22×16 cm
3M 2048×1536	FINE NORMAL BASIC	50コマ 97コマ 181コマ	約2410コマ 約4640コマ 約8620コマ	約17×13 cm
2M 1600×1200	FINE NORMAL BASIC	80コマ 153コマ 266コマ	約3770コマ 約7100コマ 約12000コマ	約14×10 cm
1M 1280×960	FINE NORMAL BASIC	120コマ 220コマ 362コマ	約5740コマ 約10000コマ 約17200コマ	約11×8 cm
PC 1024×768	FINE NORMAL BASIC	181コマ 316コマ 507コマ	約8620コマ 約15000コマ 約24100コマ	約9×7 cm
VGA 640×480	FINE NORMAL BASIC	362コマ 563コマ 724コマ	約17200コマ 約24100コマ 約30100コマ	約5×4 cm
3:2 3648×2432	FINE NORMAL BASIC	18コマ 36コマ 70コマ	約870コマ 約1720コマ 約3350コマ	約31×21 cm
16:9 7M 3584×2016	FINE NORMAL BASIC	22コマ 44コマ 85コマ	約1060コマ 約2110コマ 約4020コマ	約30×17 cm
1:1 2736×2736	FINE NORMAL BASIC	21コマ 42コマ 83コマ	約1030コマ 約2040コマ 約3890コマ	約23×23 cm

いろいろな撮影

※1 記録可能コマ数が10,000コマ以上の場合、画面には「9999」と表示されます。
※2 出力解像度を300 dpiに設定した場合のサイズです。
ピクセル数÷プリンター解像度（dpi）× 2.54 cm で計算しています。同じ画像サイズでも、高い解像度で印刷すると印刷サイズは小さくなり、低い解像度で印刷すると、印刷サイズは大きくなります。
※3 NRW (RAW) 画像のプリント時のサイズは、NRW (RAW) 現像（□143）したときの画像サイズによって異なります。

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意

画像サイズを「1:1」にして撮影した画像をプリントするときは、プリンターの設定を「フチあり」にしてください。
プリンターによっては、画像を1:1の縦横比でプリントできない場合があります。
詳しくは、お使いのプリンターの説明書またはプリントサービス店などでご確認ください。

画質と画像サイズの設定方法

1 クイックメニューダイヤルをQUALに合わせ、クイックメニューボタンを押す

- クイックメニューが表示されます。
- モードダイヤル（□44）は、動画以外に合わせてください。

2 ロータリーマルチセレクターで画質の種類（□68）を選ぶ

- コマンドダイヤルを回しても項目を選べます。
- 画質のみ変更するときは、画質の種類を選んだ後、クイックメニューボタンを押します。
- 続けて画像サイズを変更するときは、ロータリーマルチセレクターの▼を押します。Av/Tvボタンを押しても次に進みます。

3 画像サイズの種類（□70）を選ぶ

記録可能コマ数

- ［**画質**］が［**NRW (RAW)**］のときは、［**画像サイズ**］を選べません。
- 選んでいる画像サイズでの記録可能コマ数が表示されます。
- ロータリーマルチセレクターの▲を押すと画質の設定に戻ります。

4 設定が終わったら、クイックメニューボタンまたは㊇ボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

ISO ISO感度を設定する

ISO感度の設定方法→📖75

ISO感度を高くすると、より少ない光量で撮影できます。
ISO感度を高くするほど、より暗い被写体を撮影できます。また、同じ明るさの被写体でも、より速いシャッタースピードで撮影でき、手ブレや被写体の動きによるブレを軽減しやすくなります。

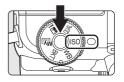
- ISO 感度を高くすると、暗い被写体の撮影やフラッシュを使わない撮影、望遠側での撮影などに効果的ですが、撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

ISO感度設定

- AUTO［**オート**］（初期設定）：明るい場所では ISO 100 になり、暗い場所では自動的に ISO 800 まで ISO 感度が高くなります。
- Hi ISO［**高感度オート**］：被写体の明るさに応じて、ISO 100 から ISO 1600 までの範囲で ISO 感度が自動的に設定されます。
- A 200［**ISO 100-200**］、A 400［**ISO 100-400**］（感度制限オート）：
  カメラが自動的に ISO 感度を変更するときの範囲を選べます。選んだ範囲の上限値以上に ISO 感度は上がりません。ISO 感度の上限値を設定することで、画像のざらつきを抑える効果があります。
- ［**100**］、［**200**］、［**400**］、［**800**］、［**1600**］、［**3200**］、［**Hi 1**］（ISO 6400 相当）：ISO 感度を選んだ値に固定します。

低速限界設定

撮影モードがPまたはAのときに［**ISO感度設定**］を［**オート**］、［**高感度オート**］、［**ISO 100-200**］または［**ISO 100-400**］に設定した場合、ISO感度の自動制御が働き始めるシャッタースピード（1/125～1秒）を設定します。初期設定は［**OFF**］です。ここで設定したシャッタースピードでは露出不足となる場合、適正露出を得るためにISO感度を自動的に高くします。ISO感度が上がっても露出不足となる場合は、シャッタースピードが遅くなります。

ISO感度の設定は、撮影時の画面で確認できます（📖6）。

- ［**オート**］に設定した場合、ISO 100で撮影できるときは何も表示されず、ISO感度が自動的に上がったときにISOマークが表示されます（📖34）。
- ［**高感度オート**］に設定したときはHi ISOマークが表示され、［**ISO 100-200**］または［**ISO 100-400**］に設定したときはA ISOマークとISO感度の上限値が表示されます。

ISO感度設定についてのご注意

- M（マニュアル露出）モードのときに［**オート**］、［**高感度オート**］、［**ISO 100-200**］または［**ISO 100-400**］に設定すると、ISO感度はISO 100に固定されます。
- ISO感度を高くすると、シャッタースピードに制限がかかる場合があります。→「同時に設定できない機能」（📖108）
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（📖108）

ISO感度の設定方法

1 クイックメニューダイヤルをISOに合わせ、クイックメニューボタンを押す

- クイックメニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで ISO 感度設定を選ぶ

- コマンドダイヤルを回しても項目を選べます。
- ISO感度を［**オート**］、［**高感度オート**］、［**ISO 100-200**］または［**ISO 100-400**］にしたときはロータリーマルチセレクターの▼を押して、手順3に進みます。Av/Tvボタンを押しても次に進みます。
- ISO感度を固定にしたときは、手順4に進みます。

3 低速限界設定を選ぶ

- ロータリーマルチセレクターの▲を押すとISO感度の設定に戻ります。

4 設定が終わったら、クイックメニューボタンまたは㊋ボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

いろいろな撮影

WB 画像の色を見た目の色に合わせる（ホワイトバランス）

ホワイトバランスの設定方法→□77

人間の目には、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。人間の目に白く見える色を、デジタルカメラで白く撮影するには、光源の色に合わせて調整が必要です。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。
初期設定の［**オート**］でほとんどの光源に対応できますが、撮影した画像が思い通りの色にならないときは、天候や光源に合わせて設定を変更してください。

- 撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3、（ローノイズナイト）、動画のときに使えます。

AUTO オート（初期設定）

カメラが自動的にホワイトバランスを調整します。ほとんどの場合、この設定のままで撮影できます。

晴天

晴天の屋外での撮影に適しています。

電球

白熱電球の下での撮影に適しています。

蛍光灯（FL1〜FL3）

蛍光灯の下での撮影に適しています。［**FL1**］（白色蛍光灯）、［**FL2**］（昼白色蛍光灯）、［**FL3**］（昼光色蛍光灯）のいずれかを選べます。

曇天

曇り空の屋外での撮影に適しています。

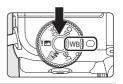
フラッシュ

フラッシュを使う撮影に適しています。

K 色温度設定

色温度を直接指定できます（□78）。

PRE プリセットマニュアル（1〜3）

特殊な照明の下などでの撮影に適しています。詳しくは「プリセットマニュアルの使い方」（□79）をご覧ください。

ホワイトバランスの設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**オート**］のときは、何も表示されません。

ホワイトバランスについてのご注意

- ［**オート**］、［**フラッシュ**］以外のホワイトバランスを選んだときは、フラッシュを（発光禁止）に設定してください（□32）。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）

ホワイトバランスの設定方法

1 クイックメニューダイヤルをWBに合わせ、クイックメニューボタンを押す

- クイックメニューが表示されます。

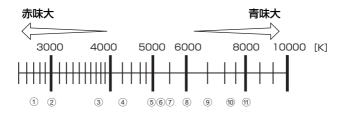
2 ロータリーマルチセレクターでホワイトバランスの種類を選び、▼を押す

- コマンドダイヤルを回しても項目を選べます。
- ［**色温度設定**］を選んだときは、色温度（□78）を設定します。
- Av/Tvボタンを押しても次に進みます。

3 ▲▼◀ ▶を押して微調整値を設定する

- A（アンバー）、B（ブルー）、G（グリーン）、M（マゼンタ）の4 方向で、各方向6 段まで微調整できます。
- 🗑ボタンを押すと微調整値が中央（座標0、0）にリセットされます。
- Av/Tvボタンを押すと前の手順の画面に戻ります。

4 設定が終わったら、クイックメニューボタンまたは㊍ボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

ホワイトバランスの微調整について

- ホワイトバランスの微調整画面で表示されている色は、色温度方向の目安の色を表しています。微調整画面で設定しても、設定したそのままの色の画像にはならない場合があります。たとえば、ホワイトバランスを［**電球**］に設定してB（ブルー）方向に微調整しても、青色が強い画像にはなりません。
- ホワイトバランスの微調整を設定したときは、設定アイコンの横に「＊」マークが表示されます（□6）。

色温度について

光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なります。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したものが色温度です。色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になります。色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。

① ナトリウム灯混合光（約2700K）
② 電球（約3000K）
電球色蛍光灯（約3000K）
③ 温白色蛍光灯（約3700K）
④ 白色蛍光灯（約4200K）
⑤ 昼白色蛍光灯（約5000K）
⑥ 晴天（約5200K）
⑦ フラッシュ（約5400K）
⑧ 曇天（約6000K）
⑨ 昼光色蛍光灯（約6500K ）
⑩ 高色温度の水銀灯（約7200K）
⑪ 晴天日陰（約8000K）

プリセットマニュアルの使い方

特殊な照明下（赤みがかった照明など）で撮影した画像を、普通の照明下で撮影したように見せたいときなどに使います。
以下の手順で、撮影する照明下のホワイトバランス値を測定して、撮影します。

- プリセット値は、PRE1、PRE2、PRE3の3つまで記憶できます。

1 撮影する照明下で、白またはグレーの被写体を用意する

2 ホワイトバランスのクイックメニューを表示し（□76）、ロータリーマルチセレクターでPRE1、PRE2またはPRE3を選び、▼を押す

- コマンドダイヤルを回しても項目を選べます。
- レンズが測定用のズーム位置になります。
- Av/Tvボタンを押しても次に進みます。

3 測定窓に、用意した白またはグレーの被写体を収める

4 ⓚボタンを押して、ホワイトバランス値を測定する

- シャッターがきれて、ホワイトバランスのプリセット値が新たに設定されます（画像は記録されません）。

プリセットマニュアルについてのご注意

- フラッシュ発光時のホワイトバランス値は測定できません。フラッシュ撮影時は、［**ホワイトバランス**］を［**オート**］または［**フラッシュ**］に設定してください。
- ワイドコンバーター装着時は、プリセットマニュアルを使えません。プリセット値の測定もできません。

前回測定したホワイトバランス値を使いたいときは

手順3でクイックメニューボタンまたはシャッターボタンを押します。再測定せずに、ホワイトバランスが前回の値に設定されます。

測定したホワイトバランス値を微調整したいときは

測定後、もう一度手順3の画面を表示して▼を押すと、ホワイトバランスの微調整（□77の手順3）ができます。

BKT シャッタースピード、ISO感度、ホワイトバランスをずらして連続撮影する（ブラケティング）

ブラケティングの設定方法→□81

シャッタースピード（Tv）またはISO感度（Sv）で露出（明るさ）を自動的に変えて連続撮影したり、ホワイトバランス（WB）をずらした複数の画像を記録したりできます。画像の明るさの調整が難しい場合や複数の光源が混在していてホワイトバランスを決めにくい場合の撮影に効果的です。

OFF　OFF（初期設定）

ブラケティングを行いません。

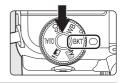
Tv　AEブラケティング (Tv)

連写するコマ数と露出差のステップ数、撮影の範囲を設定します。シャッターボタンを全押しすると、自動的にシャッタースピードを調節しながら連続撮影します。
- 「Tv」は Time value のことです。

Sv　AEブラケティング (Sv)

連写するコマ数とISO感度のステップ数、撮影の範囲を設定します。シャッターボタンを全押しすると、シャッタースピードと絞り値を固定したまま、ISO感度を変えながら連続撮影します。
- 「Sv」は Sensitivity value のことです。

WB　WBブラケティング

記録するコマ数と色温度補正値のステップ数、記録する範囲を設定します。シャッターボタンを全押しすると、1コマ撮影し、色温度を変えた画像を設定したコマ数分記録します。

ブラケティングの設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

ブラケティングについてのご注意

- M（マニュアル露出）モードの場合、［**AEブラケティング (Tv)**］、［**AEブラケティング (Sv)**］は使えません。
- S（シャッター優先オート）モードの場合、［**AEブラケティング (Tv)**］は使えません。
- 露出補正（□43）と［**AEブラケティング (Tv)**］を同時に設定すると、補正量を加算します。
- ［**WBブラケティング**］では、色温度（A（アンバー）からB（ブルー）への横方向）の補正のみを行います。G（グリーン）からM（マゼンタ）への縦方向の補正は行いません。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）

ブラケティングの設定方法

1 クイックメニューダイヤルをBKTに合わせ、クイックメニューボタンを押す

- クイックメニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターでブラケティングの種類を選び、▼を押す

- コマンドダイヤルを回しても項目を選べます。
- Av/Tvボタンを押しても次に進みます。

3 撮影するコマ数を選び、▼を押す

- 3コマまたは5コマから選べます。

4 補正ステップを選び、▼を押す

- ［**AEブラケティング (Tv)**］または［**AEブラケティング (Sv)**］の場合は、［**0.3**］、［**0.7**］、［**1**］から選べます。
- ［ **WBブラケティング** ］の場合は、［**1**］、［**2**］、［**3**］から選べます

5 ブラケティングの範囲を選び、クイックメニューボタンまたは㊍ボタンを押す

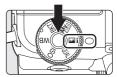
- 撮影画面に戻ります。
- 🗑ボタンを押すと設定がリセットされ、手順3に戻ります。

画像の明るさの分布を確認する（P、S、A、Mモード）

シャッターをきるたびに「トーンレベルインフォメーション」を自動表示して、撮影した画像の明るさの分布や撮影情報を確認できます。
ハイライト部の白とびや暗部の黒つぶれの状態を、ヒストグラム表示やトーン（明暗）レベルごとの点滅表示などで確認できます。露出補正などで画像の明るさを調整する際の目安になります。

- 「トーンレベルインフォメーション」は、撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3のときに使えます。モードダイヤルで撮影モードを選んでください（□44）。

1 クイックメニューダイヤルを🅸に合わせ、クイックメニューボタンを押して、クイックメニューダイヤル指標を点灯する

- 液晶モニターでトーンレベルインフォメーションのアイコンが点滅します。

2 構図を決めて撮影する

- 撮影した画像のトーンレベルインフォメーションが表示されます。

3 明るさの分布と撮影情報を確認する

- ロータリーマルチセレクターの▲▼で、確認するトーンレベルを選びます。選んだトーンレベルに対応する画像の部分が点滅します。
- トーンレベルインフォメーションのヒストグラムと撮影情報表示について→□83
- トーンレベルインフォメーション画面の操作方法→□83

4 確認が終わったら、シャッターボタンを半押しする

- 撮影画面に戻ります。
- トーンレベルインフォメーションの自動表示機能をオフにするには、クイックメニューボタンを押し、クイックメニューダイヤル指標を消灯するか、クイックメニューダイヤルを🅸以外に合わせます。

トーンレベルインフォメーションのヒストグラムと撮影情報表示について

- ヒストグラムは、画像の明るさの分布を表す山状のグラフのことです。横軸が画素数、縦軸が輝度を示します。
- 表示される撮影情報は、撮影モードP、S、A、M、シャッタースピード、絞り値、画質、画像サイズ、ISO感度、ホワイトバランス、露出補正値、COOLPIXピクチャーコントロールです。

再生モードでトーンレベルインフォメーションを表示する

再生モードで1コマ表示中に|□|ボタンを押しても、トーンレベルインフォメーションを表示できます（□14）。

トーンレベルインフォメーション画面の操作方法

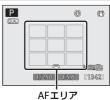
トーンレベルインフォメーションでは、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	□
トーンレベルを選ぶ		ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼を押します。	–
画像を選ぶ		◀ ▶で前後の画像を表示します。	12
		コマンドダイヤルを回します。	9
画像を拡大する	T（Q）	最大約10倍までの倍率に拡大します。 Ⓚボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。	118
メニューを表示する	MENU	メニューを表示します。	123
撮影画面に切り換える		シャッターボタンを押すと、撮影画面になります。	30
トーンレベルインフォメーションを終了する		撮影時にクイックメニューボタンを押すか、クイックメニューダイヤルを▥i以外に合わせると、自動表示機能がオフになります。	–
	|□|	再生時に|□|ボタンを押すと、液晶モニターに表示する情報を切り換えます。	14

AFエリアを選択する（P、S、A、Mモード）

撮影モードP、S、A、M、U1、U2、U3、[icon]（ローノイズナイト）では、オートフォーカスでピント合わせをするエリアの決め方を変更できます。

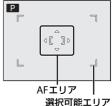
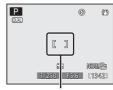
[icon] 顔認識オート

カメラが人物の顔を認識すると、顔にピントが合います（顔認識撮影について→[icon]86）。複数の顔を認識したときは、最もカメラに近い顔にピントが合います。
人物以外の撮影や顔を認識できない構図では、AFエリア選択が［**オート**］になり、9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。

- 液晶モニターをOFFにすると、AFエリアは[**中央(標準)**]に固定されます。

[icon] オート（初期設定）

9つあるAFエリアのうち、最も手前の被写体をとらえているAFエリアでピントが合います。
シャッターボタンを半押しするまで、AFエリアは表示されません。
半押しすると、ピントが合ったAFエリアが画面に表示されます（最大9カ所）。

- 液晶モニターを OFF にすると、AF エリアは［**中央(標準)**］に固定されます。

[icon] マニュアル

画面内の99カ所から、ピントを合わせたいエリアを自分で選びます。比較的動きの少ない被写体が画面中央にない場合に適しています。
ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼◀▶を押して、画面に表示されているAFエリアを、ピントを合わせたい位置に動かしてから撮影します。
フラッシュモードやフォーカスモード、セルフタイマーの設定を変更するには、[OK]ボタンを押していったんAFエリアが選べる状態を解除し、それぞれの設定を行います。もう一度[OK]ボタンを押すと、再びAFエリアを選べる状態になります。

- ［**画像サイズ**］（[icon]70）が [icon]［**2736 × 2736**］のときは、選べる AF エリアの位置は 81 カ所になります。

[■]	**中央 (ワイド)、中央 (標準)、中央 (スポット)**
	画面中央の被写体にピントが合います。 AFエリアが画面中央に常に表示されます。 AFエリアのサイズは3つから選べます。

⊕	**ターゲット追尾**
	ピントを合わせたい被写体を登録するとターゲット追尾が始まり、AF エリアが被写体を追いかけて移動します（ターゲット追尾撮影について→📖88）。

AFエリア選択の設定方法

1 ロータリーマルチセレクターの [+]（AFエリア選択）を押す

- AFエリア選択の設定メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで AF エリアを選び、Ⓚボタンを押す

- [■]（中央）を選ぶときは、▲または▼を押してワイド、標準またはスポットを選べます。
- Ⓚボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。

☑ AFエリア選択についてのご注意

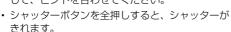
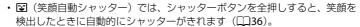
- 電子ズーム使用時は、AF エリア選択の設定にかかわらず、画面中央でピント合わせを行います。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」(📖29)の撮影では、ピントが合わないことがあります。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」(📖108)

顔認識撮影について

人物の顔にカメラを向けると自動的に顔を認識して、顔にピントを合わせます。以下の場合は、顔認識機能が働きます。

- AFエリア選択が［**顔認識オート**］のとき（□84）
- シーンモードが［**おまかせシーン**］（□46）、［**ポートレート**］（□48）または［**夜景ポートレート**］（□49）のとき
- （笑顔自動シャッター）を設定したとき（□36）

1 構図を決める

- カメラが人物の顔を認識すると、顔が黄色い二重枠のAFエリア表示で囲まれます。

- 複数の顔を認識したときは、撮影モードによって以下のように動作が変わります。

撮影モード	二重枠で囲まれる顔	認識する顔の数
P、S、A、M、U1、U2、U3モード（［**顔認識オート**］）	カメラに最も近い顔 ※他の顔は一重枠	最大12人
シーンモードの［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］、［**夜景ポートレート**］		
（笑顔自動シャッター）	画面中央に最も近い顔 ※他の顔は一重枠	最大3人

2 シャッターボタンを半押しする

- 二重枠で囲まれた顔にピントが合います。二重枠が緑色になりピントが固定されます。
- 二重枠が点滅しているときは、顔にピントが合っていません。もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。

- シャッターボタンを全押しすると、シャッターがきれます。

- （笑顔自動シャッター）では、シャッターボタンを全押しすると、笑顔を検出したときに自動的にシャッターがきれます（□36）。

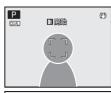
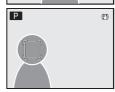
顔認識についてのご注意

- ［**顔認識オート**］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、AFエリア選択は、［**オート**］になります。
- シーンモードの［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］では、顔を認識していない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央にピントが合います。
- 顔の向きなど撮影条件によっては、顔を認識できないことがあります。また、以下のような場合は、顔を認識できません。
  - 顔の一部がサングラスなどでさえぎられている
  - 構図内で顔を大きく、または小さくとらえすぎている
- 複数の人物がいた場合、どの人物の顔を認識してピントを合わせるかは、顔の向きなどによっても異なります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□29）の撮影では、二重枠が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、AFエリアを［**マニュアル**］、［**中央 (ワイド)**］、［**中央 (標準)**］または［**中央 (スポット)**］にするか、撮影モードをオート撮影モードなどに切り換え、等距離にある別の被写体でピントを合わせるフォーカスロック撮影（□29）をお試しください。

動く被写体にピントを合わせて撮影する（ターゲット追尾）

撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3、(ローノイズナイト）では、AFエリアの設定を(ターゲット追尾）に切り換えられます。動きのある被写体の撮影をするときに使います。ピントを合わせたい被写体を登録するとターゲット追尾が始まり、AFエリアが被写体を追いかけて移動します。

1 ロータリーマルチセレクターの（AFエリア選択）を押す

- AFエリア選択の設定メニューが表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで（ターゲット追尾）を選び、OKボタンを押す

- ターゲット追尾になり、画面中央に白色の枠が表示されます。
- OKボタンを押さないまま数秒経過すると、選択が決定されて設定メニューが消えます。

3 被写体を登録する

- ピントを合わせたい被写体に画面中央の枠を合わせ、OKボタンを押します。
  - 被写体が登録されます。
  - 枠が赤色で表示されたときは、被写体にピントを合わせられません。構図を変えて、もう一度被写体を登録してください。
- 被写体が登録されると、黄色いAFエリア表示で囲まれ、ターゲット追尾が始まります。
- ターゲットを変えたいときは、OKボタンを押して現在の登録を解除してください。
- カメラがターゲットを見失って AF エリア表示が消えたときは、もう一度被写体を登録してください。

4 シャッターボタンを押して撮影する

- シャッターボタンを半押しして、AFエリアでピントが合うと、AFエリア表示が緑色になり、ピントが固定されます。
- AFエリア表示が点滅したときは、被写体にピントが合っていません。もう一度シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてください。
- AF エリアが表示されていない状態でシャッターボタンを半押しすると、画面中央にピントが合います。
- シャッターボタンを全押しするとシャッターがきれます。

ターゲット追尾についてのご注意

- 電子ズームは使えません。
- ズーム位置、フラッシュモード、フォーカスモード、露出補正またはメニューは、被写体を登録する前に設定してください。被写体を登録した後に設定を変更すると、被写体の登録が解除されます。
- 被写体の動きが速いときや手ブレが大きいとき、類似した被写体がある場合など、撮影条件によっては、被写体をターゲットに登録できないことや追尾できないこと、または別の被写体を追尾することがあります。被写体の大きさや明るさなどによっても、適切にターゲット追尾できないことがあります。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（29）の撮影では、AFエリア表示が緑色になっていても、まれにピントが合わないことがあります。ピントが合わないときは、AFエリアを［**マニュアル**］、［**中央 (ワイド)**］、［**中央 (標準)**］または［**中央 (スポット)**］にするか、撮影モードをオート撮影モードなどに切り換え、等距離にある別の被写体でピントを合わせるフォーカスロック撮影（29）をお試しください。
- ターゲット追尾中は、ボタンを押しても液晶モニターOFFにはなりません（14）。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。➝「同時に設定できない機能」（108）

撮影メニューを使う（P、S、A、Mモード）

撮影モードP、S、A、M、U1、U2、U3（□112）で撮影するときは、以下の撮影メニューを設定できます。

Picture Control □92

撮影状況や好みに合わせて、記録する画像の画（え）作りを設定できます。

Custom Picture Control □96

COOLPIXピクチャーコントロールをもとに調整した、画（え）作りのカスタム設定を登録できます。

測光方式 □98

カメラが被写体の明るさを測る方式を設定します。

連写 □99

連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）などを設定できます。

AFモード □102

ピントの合わせ方を設定します。

調光補正 □102

フラッシュの発光量を補正します。

ノイズ低減フィルター □103

画像の記録時に通常行うノイズ低減機能の強さを設定します。

長秒時ノイズ低減 □103

低速のシャッタースピードで撮影したときに画像に発生するノイズを低減します。

ゆがみ補正 □104

レンズの特性によって画像周辺部に生じるゆがみの補正を設定します。

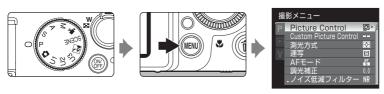
ワイドコンバーター □104

別売のワイドコンバーターを使うときに、最適な設定で撮影ができるようにします。

発光切り換え □105

内蔵フラッシュを発光禁止にするかどうかを設定します。

Active D-ライティング □106

ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減し、見た目のコントラストに近い画像で撮影します。

ズームメモリー □107

Fnボタンを押しながらズームレバーを操作したときに切り換える焦点距離を設定します。

撮影メニューの表示方法

モードダイヤルをP（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）、M（マニュアル露出）またはU1、U2、U3（ユーザーセッティング）に合わせます。

MENUボタンを押してメニューを表示し、ロータリーマルチセレクターでP、S、AまたはMタブに切り換えます（□14）。

- メニューの選択と設定には、ロータリーマルチセレクターを使います（□12）。
- 撮影メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

同時に設定できない機能について

複数の機能を同時に設定できないことがあります（□108）。

メニューの操作について

ロータリーマルチセレクターのかわりに、コマンドダイヤルを回してもメニュー項目を選べます。

Picture Control（COOLPIX ピクチャーコントロール）

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□91）➔Picture Control

撮影状況や好みに合わせて、記録する画像の画（え）作りを設定できます。輪郭強調の度合い、コントラスト、色の濃度（彩度）を細かく調整することもできます。

SD	**スタンダード（初期設定）**
	鮮やかでバランスのとれた標準的な画像になります。ほとんどの撮影状況に適しています。
NL	**ニュートラル**
	素材性を重視した自然な画像になります。撮影後に画像を加工したいときに適しています。
VI	**ビビッド**
	メリハリのある生き生きとした色鮮やかな画像になります。青、赤、緑など、原色の色を強調したいときに適しています。
MC	**モノクローム**
	白黒やセピアなど、単色の濃淡で表現した画像になります。
C1	**カスタム 1**※
	COOLPIXカスタムピクチャーコントロールで［**カスタム 1**］に登録した設定にします。
C2	**カスタム 2**※
	COOLPIXカスタムピクチャーコントロールで［**カスタム 2**］に登録した設定にします。

※［**Custom Picture Control**］（□96）でカスタマイズした設定を登録したときのみ表示されます。

COOLPIX ピクチャーコントロールの設定は、撮影時の画面で確認できます（［**スタンダード**］のときは、何も表示されません）（□6）。

COOLPIX**ピクチャーコントロールについてのご注意**

- COOLPIX P7000 の COOLPIX ピクチャーコントロール機能は、他のカメラ、Capture NX、Capture NX 2およびViewNX 2のピクチャーコントロール機能と相互利用はできません。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）

COOLPIXピクチャーコントロールのカスタマイズ：クイック調整と手動調整

COOLPIXピクチャーコントロールは、輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）などの画（え）作りの要素をバランス良くまとめて調整できる「クイック調整」と、要素ひとつひとつを細かく調整できる「手動調整」でカスタマイズできます。

1 ロータリーマルチセレクターで COOLPIX ピクチャーコントロールを選び、Ⓚボタンを押す

2 ▲▼を押して調整する項目（□94）を選び、◀▶を押して値を設定する

- Ⓚボタンを押すと、値が設定されます。
- 調整した COOLPIX ピクチャーコントロールの項目名の末尾にアスタリスク（*）が表示されます。
- ［**リセット**］を選んでⓀボタンを押すと、調整値は初期設定に戻ります。

COOLPIXピクチャーコントロールのグリッド表示

上記手順1の画面でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、コントラスト（CONTRAST）と色の濃さ（SATURATION：彩度）がグリッド（方眼）で表示されます。縦軸はコントラストの強弱を、横軸は色の濃さを示します。もう一度**T**（Q）方向に回すと、元の画面に戻ります。

グリッド表示では、現在の設定値と初期設定値が表示され、他のCOOLPIXピクチャーコントロールとの関係がわかります。

- ロータリーマルチセレクターを回すと、他の COOLPIX ピクチャーコントロールに切り換えられます。
- Ⓚボタンを押すと調整画面（上記の手順2）が表示されます。
- ［**モノクローム**］の場合、グリッド表示はコントラストのみ表示されます。
- 手動調整の［**コントラスト**］または［**色の濃さ (彩度)**］を調整中でもグリッド表示に切り換わります。

クイック調整※1

輪郭強調、コントラスト、色の濃さ（彩度）のレベルを自動的に調整します。［**−2**］～［**＋2**］まで5段階の調整ができます。
−側にするとそれぞれのCOOLPIXピクチャーコントロールの特徴を抑えた画像になり、＋側にするとそれぞれのCOOLPIXピクチャーコントロールの特徴を強調した画像になります。
初期設定は［**0**］です。

輪郭強調

画像の輪郭の強調度合い（シャープネス）を設定します。自動で調整する［**A**］（オート）と、［**0**］（輪郭強調しない）～［**6**］まで7段階の調整ができます。
数字が大きいほどくっきりとした画像になり、小さいほどソフトな画像になります。
初期設定は［**スタンダード**］または［**モノクローム**］のとき［**3**］、［**ニュートラル**］のとき［**2**］、［**ビビッド**］のとき［**4**］です。

コントラスト

画像の階調（コントラスト）を設定します。自動で調整する［**A**］（オート）と、［**−3**］～［**＋3**］まで7段階の調整ができます。
−側にすると軟調な画像になり、＋側にすると硬調な画像になります。晴天時の人物撮影や白とびが気になる場合などは−側が、かすんだ遠景の撮影などには＋側が適しています。
初期設定は［**0**］です。

色の濃さ (彩度)※2

画像の色の鮮やかさを設定します。自動で調整する［**A**］（オート）と、［**−3**］～［**＋3**］まで7段階の調整ができます。
−側にすると鮮やかさが抑えられ、＋側にするとより鮮やかになります。
初期設定は［**0**］です。

フィルター効果※3

白黒写真用カラーフィルターを通して撮影したときのような効果が得られます。フィルター効果は［**OFF**］（初期設定）、［**Y**］（黄色）、［**O**］（オレンジ）、［**R**］（赤）、［**G**］（緑）から選べます。
［**Y**］、［**O**］、［**R**］：
コントラストを強調する効果があり、風景撮影で空の明るさを抑えたい場合などに使います。［**Y**］→［**O**］→［**R**］の順にコントラストが強くなります。
［**G**］：
肌の色や唇などを落ち着いた感じに仕上げます。ポートレート撮影などに使います。

調色※3

印画紙を調色したときのように、画像全体の色調を調整できます。調色は［**B&W**］（白黒）（初期設定）、［**Sepia**］（セピア調）、［**Cyanotype**］（青写真）から選べます。
［**Sepia**］または［**Cyanotype**］を選んでロータリーマルチセレクターの▼を押すと、さらに色の濃淡を7段階から選べます。◀▶を押して選んでください。

※1［**ニュートラル**］、［**モノクローム**］、［**カスタム 1**］または［**カスタム 2**］の場合は、クイック調整できません。
手動調整した後にクイック調整をすると、手動調整で設定した値は無効になります。
※2［**モノクローム**］の場合は、表示されません。
※3［**モノクローム**］のときのみ表示されます。

［輪郭強調］についてのご注意

［**輪郭強調**］の効果は、撮影時の画面では確認できません。画像を再生して確認してください。

［コントラスト］についてのご注意

［**Active D-ライティング**］（□106）が［**OFF**］以外のときは、［**コントラスト**］に□が表示され、調整はできません。

［コントラスト］、［色の濃さ (彩度)］の［A］（オート）についてのご注意

- 同じような状況で撮影しても、被写体の位置や大きさ、露出によって、仕上がり具合は変化します。
- ［**コントラスト**］または［**色の濃さ (彩度)**］に［**A**］（オート）が設定されたCOOLPIXピクチャーコントロールは、グリッド表示のときに設定値が緑色で表示されます。

［カスタム 1］、［カスタム 2］で調整できる項目について

［**カスタム 1**］または［**カスタム 2**］を選んだ場合は、元になったCOOLPIXピクチャーコントロールの項目が調整できます。

Custom Picture Control （COOLPIXカスタムピクチャーコントロール）

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□91）
➔Custom Picture Control

カスタマイズして調整した画作り設定は、「COOLPIXカスタムピクチャーコントロール」として登録できます。

COOLPIXカスタムピクチャーコントロールを登録する

1 ロータリーマルチセレクターで［**編集と登録**］を選び、Ⓚボタンを押す

2 元にするCOOLPIXピクチャーコントロールを選び、Ⓚボタンを押す

3 ▲▼を押して調整する項目を選び、◀ ▶を押して値を設定する

- 項目の内容は COOLPIX ピクチャーコントロールの調整と同じです。
- Ⓚボタンを押して、登録先の選択画面を表示します。
- ［**リセット**］を選んでⓀボタンを押すと、調整値は初期設定に戻ります。

4 登録先を選び、Ⓚボタンを押す

- COOLPIX カスタムピクチャーコントロールが登録されます。
- 登録すると、［**Picture Control**］および［**Custom Picture Control**］の選択画面で［**カスタム 1**］または［**カスタム 2**］を選べるようになります。

COOLPIXカスタムピクチャーコントロールを削除する

1 ロータリーマルチセレクターで［**登録削除**］を選び、Ⓚボタンを押す

2 削除する COOLPIX カスタムピクチャーコントロールを選び、Ⓚボタンを押す

3 ［**はい**］を選び、Ⓚボタンを押す

- 登録が削除されます。
- 削除をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。

測光方式

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□91）➔ 測光方式

露出を合わせるため、被写体の明るさを測ることを「測光」といいます。
カメラが 測光する方式を設定します。

⊡	**マルチパターン（初期設定）**
	画面の広い領域を測光します。 さまざまな撮影状況で適正な露出が得られます。通常の撮影では、マルチパターン測光をおすすめします。
⊙	**中央部重点**
	画面に表示されている中央部重点測光範囲に重点を置いて測光します。ポートレート撮影など、重点的に画面中央部に露出を合わせたいときなどに使います。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（□29）をお使いください。
⊡	**スポット**
	画面中央部に表示されているスポット測光範囲で測光します。被写体と背景の明るさが著しく異なるときなどに使います。被写体がスポット測光範囲に入るように撮影してください。露出を合わせたい部分が画面中央部にないときは、フォーカスロック（□29）をお使いください。
⊡	**AFスポット**
	選択されているAFエリアを測光し、露出値を決定します。AFエリア選択（□84）が［**中央 (ワイド)**］、［**中央 (標準)**］または［**中央 (スポット)**］以外のときに設定できます。

測光方式についてのご注意

- 電子ズームが1.2 ～ 1.8 倍のときは、［**測光方式**］は［**中央部重点**］になります。電子ズームが2.0 ～ 4.0倍のときは、［**スポット**］になります。ただし、電子ズームのときは、測光範囲は表示されません。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）

ローノイズナイトモードの測光方式について

ローノイズナイトモードでも［**測光方式**］を設定できます（□59）。撮影モードP、S、A、Mの［**測光方式**］とは連動せずに独立して記憶されます。

測光方式表示について

［**測光方式**］を［**中央部重点**］または［**スポット**］に設定すると、測光範囲が表示されます（□6）。

連写

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□91）➔ 連写

連写（連続撮影）やBSS（ベストショットセレクター）などを設定できます。

S 単写（初期設定）

1コマずつ撮影します。

連写

シャッターボタンを全押ししている間、約1.3コマ/秒で最大45コマまで連写できます（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが ［**3648×2736**］のとき）。

BSS BSS（ベストショットセレクター）

暗い場所でフラッシュを使わずに撮影するときや、望遠側で撮影するときなど、手ブレしやすい状況で撮影する場合に設定します。
シャッターボタンを全押ししている間、連写を続け（最大10コマ）、撮影した画像の中から最も鮮明に撮れている1コマをカメラが自動的に選んで記録します。

フラッシュ連写

シャッターボタンを全押ししている間、内蔵フラッシュを使った連続撮影をします（約1.2コマ/秒で連続約3コマ：（画質が［**NORMAL**］、画像サイズが ［**3648×2736**］のとき）。
1セットの連続撮影が終わるたびに、内蔵フラッシュを充電します。充電が終わるまでは、次の撮影はできません。ISO感度を上げて撮影するので、撮影した画像が多少ざらつく場合があります。

マルチ連写

シャッターボタンを1回全押しすると約30コマ/秒で16コマの連続写真を撮影し、1コマの画像として記録します。

- 記録される画質は［**NORMAL**］、画像サイズは （2560 × 1920 ピクセル）に固定されます。
- 電子ズームは使えません。

インターバル撮影

あらかじめ設定した撮影間隔（インターバル）で、静止画を自動的に連続撮影します（□100）。

連写の設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**単写**］のときは、何も表示されません。

連写についてのご注意

- ［**連写**］、［**BSS**］または［**マルチ連写**］で撮影するときは、フラッシュは使えません。ピントと露出、ホワイトバランスは、最初の1コマと同じ条件に固定されます。
- 画質や画像サイズ、SD カードの種類または撮影状況によって、連写速度が遅くなることがあります。
- ［**ISO感度設定**］（□74）が［**3200**］または［**Hi 1**］のときは、連写速度が遅くなります。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）
- 連写時の内蔵フラッシュ、別売スピードライト（外付けフラッシュ）の使用について→「同時に設定できない機能」（□111）
- 連続撮影中に内蔵フラッシュを開閉しないでください。開閉すると撮影が終了します。

BSSについてのご注意

［**BSS**］は静止している被写体の撮影に効果的です。動いている被写体の撮影や、構図を変えながらの撮影では、望ましい結果が得られない場合があります。

フラッシュ連写についてのご注意

内蔵フラッシュが閉じていると、フラッシュ連写はできません。フラッシュ連写で撮影するときは、内蔵フラッシュをポップアップしてください。

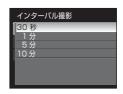
マルチ連写についてのご注意

マルチ連写の撮影では、液晶モニターにスミア（□196）が発生した場合、記録される画像にもスミアの影響が残ります。スミアの影響を避けるため、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。

ローノイズナイトモードの連写について

ローノイズナイトモードでも［**連写**］を［**単写**］または［**連写**］に設定できます（□59）。撮影モードP、S、A、Mの［**連写**］とは連動せずに独立して記憶されます。

インターバル撮影を使った撮影方法

撮影間隔（インターバル）を決めて、静止画を自動的に連続撮影します。
撮影間隔は、［**30 秒**］、［**1 分**］、［**5 分**］または［**10 分**］に設定できます。

1 **撮影メニューを表示し（□91）、ロータリーマルチセレクターで［連写］設定の［インターバル撮影］を選び、OKボタンを押す**

いろいろな撮影

2 撮影間隔を選び、Ⓞボタンを押す

- インターバル撮影できる最大コマ数は、撮影間隔によって異なります。
  -［**30 秒**］：600コマ
  -［**1 分**］：300コマ
  -［**5 分**］：60コマ
  -［**10 分**］：30コマ

3 MENU ボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

4 シャッターボタンを全押しして、1コマ目の撮影を開始する

- 撮影の合間は、液晶モニターが消灯し、電源ランプが点滅します。
- 次のコマの撮影直前になると、自動的に液晶モニターが再点灯します。

5 もう一度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

- 内蔵メモリー /SDカードの残量がなくなったとき、または撮影コマ数が上限に達すると、撮影が自動的に終了します。

インターバル撮影についてのご注意

- 途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-5aとパワーコネクター EP-5Aを使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給できます。EH-5a以外のACアダプターやEP-5A以外のパワーコネクターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。
- インターバル撮影中は、モードダイヤルを回さないでください。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□203

AFモード（オートフォーカスモード）

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□91）➔ AFモード

ピントの合わせ方を設定します。

AF-S　シングルAF（初期設定）

シャッターボタンを半押ししたときだけピントを合わせます。

AF-F　常時AF

シャッターボタンを半押しするまで、常にピント合わせを繰り返します。動きのある被写体の撮影に適しています。常にピントを合わせる動作音がします。

AFモードについてのご注意

他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）

調光補正

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□91）➔ 調光補正

背景に対する被写体の明るさを調整したいときなどに、フラッシュの発光量を補正できます。

－0.3～－2.0

－0.3～－2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が少なくなります。被写体に光が強く当たりすぎないよう発光量を少なくします。

0.0（初期設定）

調光補正を行いません。

+0.3～+2.0

0.3～2.0 EVまで、1/3段ごとにフラッシュの発光量が多くなります。構図の中心となる被写体をより明るく照らすように発光量を多くします。

調光補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**0.0**］のときは、何も表示されません。

ローノイズナイトモードの調光補正について

ローノイズナイトモードでも［**調光補正**］を設定できます（□59）。撮影モードP、S、A、Mの［**調光補正**］とは連動せずに独立して記憶されます。

ノイズ低減フィルター

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□91）
➔ノイズ低減フィルター

画像の記録時に通常行うノイズ低減機能の強さを設定します。

- シャッタースピードが遅くなったときに発生するノイズは、［**長秒時ノイズ低減**］（□103）で設定します。

NR	**標準（初期設定）**
	ノイズ低減を標準の強さで行います。
NR⁻	**弱め**
	ノイズ低減を標準よりも弱めに行います。

ノイズ低減フィルターの設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**標準**］のときは、何も表示されません。

長秒時ノイズ低減

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□91）
➔長秒時ノイズ低減

暗いところなどで撮影する場合、シャッタースピードが遅くなると、画像にノイズが発生する場合があります。このノイズを低減する設定を行います。長秒時ノイズ低減処理が行われると、撮影開始から内蔵メモリー/SDカードへ画像が記録されるまでの時間が、通常より長くかかります。

AUTO	**AUTO（初期設定）**
	ノイズが発生するような遅いシャッタースピードになると、ノイズ低減を行います。
NR	**ON**
	1/4秒以上の低速シャッタースピードのときに必ずノイズ低減を行います。低速シャッタースピードで撮影するときは、［**ON**］にすることをおすすめします。

長秒時ノイズ低減が行われるときは、撮影時の画面でNRのマークが点灯します（□6）。

長秒時ノイズ低減についてのご注意

他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）

ゆがみ補正

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（91）➔ ゆがみ補正

レンズの特性によって画像周辺部に生じるゆがみの補正を設定します。ゆがみを補正すると、補正しない場合に比べて、撮影範囲が狭くなります。

	ON
	ゆがみを補正します。
OFF	**OFF（初期設定）**
	ゆがみを補正しません。

ゆがみ補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（6）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

ゆがみ補正についてのご注意

他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（108）

ワイドコンバーター

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（91）
➔ ワイドコンバーター

別売のワイドコンバーター WC-E75A（0.75 倍）装着時に設定してください。装着には別売のアダプターリング UR-E22 も必要です。

	ON
	ワイドコンバーター WC-E75A を使うときに設定します。WC-E75A装着時の撮影画角は、35 mm判換算で約21 mm相当になります（［**ゆがみ補正**］を［**OFF**］にしたとき）。ズームレンズは広角端に固定されます。 電子ズームは使えません。
OFF	**OFF（初期設定）**
	ワイドコンバーターを使わないときに設定します（アダプターリングを取り外し、レンズリングを必ず取り付けてください）。

ワイドコンバーターの設定は、撮影時の画面で確認できます（6）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

ワイドコンバーター撮影のご注意

- 撮影の前に、［**ワイドコンバーター**］を［**ON**］にしてください。ワイドコンバーターを外して撮影するときは、［**ワイドコンバーター**］を［**OFF**］にしてください。
- ［**ワイドコンバーター**］が［**ON**］のときは、内蔵フラッシュは自動的に⊛（発光禁止）になります。ただし、別売のスピードライト（□202）を使うと、フラッシュ撮影ができます。
- スピードライトを使う場合、画像の周辺部が暗くなることがあります。撮影後に液晶モニターで画像を確認してください。スピードライト SB-600またはSB-900を使う場合は、ワイドパネルの使用をおすすめします。
- ［**ワイドコンバーター**］が［**ON**］のときは、AF補助光は使えません。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）

レンズリングの着脱について

- ワイドコンバーターを取り付ける前に、レンズリングを取り外します。レンズリングを着脱するときは、あらかじめカメラの電源を必ず OFF にしてください。レンズリング取り外しボタンを押しながら、レンズリングを時計周りに回すと取り外せます。

レンズリング取り外しボタン

- レンズリングをカメラに取り付けるには、レンズリングの着脱指標（白い点）をレンズリング取り外しボタンに合わせて、レンズリングを反時計回りに回します。
- ワイドコンバーターを使わないときは、カメラにレンズリングを必ず取り付けてください。
- ワイドコンバーターの取り付け方法は、ワイドコンバーターの説明書をご覧ください。

発光切り換え

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□91）➔ 発光切り換え

カメラのアクセサリーシューに取り付けたスピードライト（外付けフラッシュ）（□202）を使わないときも、内蔵フラッシュを発光禁止に設定できます。

AUTO オート（初期設定）

スピードライト使用時は、スピードライトを発光します。スピードライトを使用しないときは、内蔵フラッシュを発光します。

OFF 内蔵発光禁止

内蔵フラッシュを常に発光禁止にします。

発光切り換えについてのご注意

他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）

いろいろな撮影

Active D-ライティング（アクティブD-ライティング）

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（□91）➔ **Active D-ライティング**

撮影の前にあらかじめ「アクティブ D-ライティング」を設定しておくと、ハイライトの白とびを抑え、暗部の黒つぶれを軽減する効果があります。撮影した画像は、見た目のコントラストに近い仕上がりになります。暗い室内から外の風景を撮ったり、直射日光の強い海辺など明暗差の激しい景色を撮影するときに効果的です。

強め、標準、弱め

撮影時に処理するアクティブD-ライティングの効果の度合いを設定します。

OFF **OFF（初期設定）**

アクティブD-ライティング処理をしません。

アクティブD-ライティングの設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

アクティブ D-ライティングについてのご注意

- アクティブ D-ライティングで撮影すると、記録に時間がかかります。
- アクティブ D-ライティングを［**OFF**］にして撮影する場合よりも、露出をアンダー側に制御し、階調が適切な明るさになるように、ハイライト部やシャドー部および中間調を調整して記録します。
- 他の機能と同時に設定できない場合があります。→「同時に設定できない機能」（□108）

［Active D-ライティング］と［D-ライティング］の違い

［**Active D-ライティング**］は、撮影前に階調が適切に調整できるようにアンダー側に露出を制御して撮影します。一方、再生メニューの［**D-ライティング**］（□136）は、撮影した画像に対して階調を適切に再調整します。

ズームメモリー

P、S、A、Mに設定 ➔ MENU ➔ P、S、A、M（撮影メニュー）（📖91）
➔ ズームメモリー

Fnボタンを押しながらズームレバーを操作すると、あらかじめ［**ズームメモリー**］で設定したズームレンズの焦点距離（35mm判換算の撮影画角）に段階的に切り換えできます。［**28 mm**］、［**35 mm**］、［**50 mm**］、［**85 mm**］、［**105 mm**］、［**135 mm**］、［**200 mm**］を設定できます。

- 焦点距離をロータリーマルチセレクターで選び、Ⓚボタンを押してチェックボックスのオン［✔］/オフを設定します。
- 焦点距離の設定は、複数選べます。
- 初期設定は、すべてのチェックボックスがオン［✔］になっています。
- 設定を終了するには、ロータリーマルチセレクターの◀を押します。

✔ ズーム操作についてのご注意

- ズームメモリーをオンに設定した焦点距離に切り換えるには、Fn ボタンを押しながらズームレバーを操作します（📖11）。
  最初に切り換わる焦点距離は、操作する前と一番近い焦点距離です。他の焦点距離に切り換えるには、いったんズームレバーをはなしてから操作してください。
- 電子ズームを使うときは、Fnボタンから指をはなしてください。

同時に設定できない機能

フラッシュモード、フォーカスモード、セルフタイマー /笑顔自動シャッター /リモコン、クイックメニュー、撮影メニュー、U1/U2/U3専用メニューには、他の機能と組み合わせて使えない設定があります。

制限される機能	設定	内容
フラッシュモード	フォーカスモード（□40）	▲（遠景AF）にして撮影するときは、フラッシュは使えません。
	連写（□99）	• ［**BSS**］、［**マルチ連写**］にして撮影するときは、フラッシュは使えません。 • ［**連写**］にして撮影するときは、内蔵フラッシュは使えません（□111）。 • ［**フラッシュ連写**］にして撮影するときは、内蔵フラッシュが ⚡（強制発光）に固定されます。スピードライト（外付けフラッシュ）は使えません（□111）。
	ブラケティング（□80）	内蔵フラッシュは使えません。
	ワイドコンバーター（□104）	［**ON**］に設定して撮影するときは、フラッシュは使えません。
	発光切り換え（□105）	［**発光切り換え**］が［**内蔵発光禁止**］のときは、⚡◉（赤目軽減自動発光）、M⚡（マニュアル発光）、⚡（スローシンクロ）、⚡（リアシンクロ）は選べません。
セルフタイマー / 笑顔自動シャッター / リモコン	AFエリア選択（□84）	［**ターゲット追尾**］にして撮影するときは、セルフタイマー /笑顔自動シャッター /リモコンは使えません。
フォーカスモード	連写（□99）	［**フラッシュ連写**］にして撮影するときは、▲（遠景AF）は使えません。
	笑顔自動シャッター（□36）	笑顔自動シャッターを使って撮影するときは、AF（通常AF）に変更されます。
	AFエリア選択（□84）	［**ターゲット追尾**］にして撮影するときは、MF（マニュアルフォーカス）は使えません。
画質	連写（□99）	［**マルチ連写**］にして撮影するときは、［**画質**］は［**NORMAL**］に固定されます。
画像サイズ	画質（□68）	• ［**画質**］が［**NRW (RAW)**］のときは、［**画像サイズ**］が 10M［**3648 × 2736**］に固定されます。 • ［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］、［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、JPEG 画像の［**画像サイズ**］を設定できます。ただし、3:2［**3648 × 2432**］、16:9 7M［**3584 × 2016**］、1:1［**2736 × 2736**］は選べません。
	連写（□99）	［**マルチ連写**］にして撮影するときは、［**画像サイズ**］は 5M（2560 × 1920ピクセル）に固定されます。

いろいろな撮影

制限される機能	設定	内容
ISO感度設定	連写（□99）	［**マルチ連写**］で撮影するときは、撮影モードがP、S、A の場合、［**ISO感度設定**］は明るさに応じて自動的に設定されます。撮影モードがMの場合、ISO感度は400に固定されます。
ホワイトバランス	Picture Control（□92）	［**モノクローム**］にして撮影するときは、［**ホワイトバランス**］は［**オート**］に固定されます。
	ワイドコンバーター（□104）	［**ON**］に設定して撮影するときは、［**プリセットマニュアル**］は使えません。
AFエリア選択	フォーカスモード（□40）	•［**ターゲット追尾**］以外に設定したときにフォーカスモードを ▲（遠景 AF）にすると、AF エリア選択の設定にかかわらず、遠景にピントが合います。 • MF（マニュアルフォーカス）にすると、AF エリア選択を設定できません。
	Picture Control（□92）	AF エリア選択が［**ターゲット追尾**］のときに［**Picture Control**］を［**モノクローム**］にすると、AFエリア選択は［**オート**］に変更されます。
Picture Control	Active D-ライティング（□106）	［**Active D-ライティング**］を使って撮影するときは、「手動調整」の［**コントラスト**］を調整できません。
測光方式	AFエリア選択（□84）	•［**測光方式**］が［**AF スポット**］のときに AF エリア選択を［**中央 (ワイド)**］、［**中央 (標準)**］または［**中央 (スポット)**］にすると、［**測光方式**］は［**マルチパターン**］に変更されます。 •［**測光方式**］が［**スポット**］のときに AF エリア選択を［**ターゲット追尾**］にすると、［**測光方式**］は［**マルチパターン**］に変更されます。
	Active D-ライティング（□106）	［**Active D-ライティング**］を［**OFF**］以外にすると、［**測光方式**］は［**マルチパターン**］にリセットされます。
連写/ブラケティング	連写（□99）/ブラケティング（□80）	［**連写**］と［**ブラケティング**］は同時に使えません。連写の設定を［**単写**］以外にすると、［**ブラケティング**］は［**OFF**］にリセットされます。［**ブラケティング**］を［**OFF**］以外にすると、連写の設定は［**単写**］にリセットされます。
	セルフタイマー（□35）/笑顔自動シャッター（□36）/リモコン（□38）	［**連写**］、［**BSS**］、［**フラッシュ連写**］、［**マルチ連写**］、［**インターバル撮影**］または［**ブラケティング**］とセルフタイマー/リモコン/笑顔自動シャッターは同時に使えません。
	画質（□68）	［**画質**］が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、［**BSS**］、［**マルチ連写**］または［**WBブラケティング**］は使えません。

制限される機能	設定	内容
連写/ブラケティング	Picture Control（□92）	［**モノクローム**］にして撮影するときは、［**WB ブラケティング**］は使えません。
	長秒時ノイズ低減（□103）	［**長秒時ノイズ低減**］を［**ON**］にして撮影するときは、［**マルチ連写**］は使えません。
	ゆがみ補正（□104）	［**ゆがみ補正**］を［**ON**］にすると［**マルチ連写**］、［**インターバル撮影**］はできません。
	ワイドコンバーター（□104）	［**ON**］に設定して撮影するときは、［**フラッシュ連写**］は使えません。
長秒時ノイズ低減	連写（□99）	［**マルチ連写**］で撮影するときは、長秒時ノイズ低減は動作しません。
ゆがみ補正	連写（□99）	［**マルチ連写**］、［**インターバル撮影**］で撮影するときは、ゆがみ補正が使えません。
アクティブ D-ライティング	ISO感度設定（□74）	［**ISO感度設定**］が［**3200**］または［**Hi 1**］のときは、［**Active D-ライティング**］は使えません。［**3200**］または［**Hi 1**］にすると、［**Active D-ライティング**］は［**OFF**］にリセットされます。
デート写し込み	画質（□68）	［**画質**］が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、日付を写し込めません。
	連写（□99）	［**連写**］、［**BSS**］、［**フラッシュ連写**］にして撮影するときは、日付を写し込めません。
	ブラケティング（□80）	日付を写し込めません。
モニター表示設定	笑顔自動シャッター（□36）	笑顔自動シャッターで撮影するときは、水準器は表示されません。
	AFエリア選択（□84）	［**ターゲット追尾**］で撮影するときは、水準器、ヒストグラムは表示されません。
目つぶり検出設定	笑顔自動シャッター（□36）/ 連写（□99）/ ブラケティング（□80）	笑顔自動シャッターのとき、連写の設定を［**単写**］以外にしたとき、ブラケティングのときは、目つぶり検出しません。
電子ズーム	笑顔自動シャッター（□36）	笑顔自動シャッターで撮影するときは、電子ズームは使えません。
	フォーカスモード（□40）	**MF**（マニュアルフォーカス）にすると、電子ズームは使えません。
	AFエリア選択（□84）	［**ターゲット追尾**］で撮影するときは、電子ズームは使えません。

制限される機能	設定	内容
電子ズーム	画質（□68）	［**画質**］が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、電子ズームは使えません。
	連写（□99）	［**マルチ連写**］にして撮影するときは、電子ズームは使えません。
低速シャッタースピード	ISO感度設定（□74）	・P、S、A モードの場合、［**ISO 感度設定**］が［**高感度オート**］または［**1600**］のときは最長 4 秒、［**3200**］のときは最長 1/2 秒、［**Hi 1**］のときは最長 1/8 秒に低速シャッタースピードが制限されます。 ・M モードの場合、［**ISO 感度設定**］が［**800**］のときは最長 15 秒、［**1600**］のときは最長 4 秒、［**3200**］のときは最長 1/2 秒、［**Hi 1**］のときは最長1/8秒に低速シャッタースピードが制限されます。
	連写（□99）	・［**連写**］、［**BSS**］または［**フラッシュ連写**］で撮影するときは、低速シャッタースピードが最長 1/2 秒に制限されます。 ・［**マルチ連写**］で撮影するときは、低速シャッタースピードが最長 1/30 秒に制限されます。

内蔵フラッシュ、別売スピードライト（外付けフラッシュ）

各連写モードと組み合わせた場合、内蔵フラッシュまたはスピードライト SB-400、SB-600、SB-900の動作は次のように制限されます。

連写モード	内蔵フラッシュ	スピードライト※
単写	使用可能	使用可能
連写	発光禁止	使用可能
BSS	発光禁止	使用不可
フラッシュ連写	使用可能	使用不可
マルチ連写	発光禁止	使用不可
インターバル撮影	使用可能	使用可能
ブラケティング機能	発光禁止	使用可能

別売スピードライト使用時には、内蔵フラッシュは自動的に ⊛（発光禁止）になります。

※ フラッシュモードを ⚡◎（赤目軽減自動発光）（□32、34）にして、［**連写**］またはブラケティング機能を使って撮影する場合、赤目軽減処理は本発光前のプリ発光のみになります。

電子ズームについてのご注意→□178

U1、U2、U3（ユーザーセッティング）モードを使う

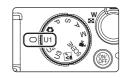
撮影でよく使う設定の組み合わせ（ユーザーセッティング）をU1、U2、U3の3通りまで登録できます。登録した設定は、モードダイヤルをU1、U2またはU3に合わせるだけで、すぐに呼び出せるので、そのまま撮影したり、一部の設定だけを変えて撮影したりするのに便利です。P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）、A（絞り優先オート）またはM（マニュアル露出）で撮影できます。U1、U2またはU3には、以下の設定内容を登録できます。

U1/U2/U3専用メニュー

撮影モード（□60）※1	焦点距離(35mm判換算)※2	モニター表示設定（□173）※3
モニター点灯設定（□14）※4	フラッシュ（□32）	フォーカス（□40）※5
AFエリア選択（□84）※6	AF補助光（□177）※3	

クイックメニュー

画質（□68）	画像サイズ（□70）	ISO感度設定（□74）
ホワイトバランス（□76）※7	ブラケティング（□80）	

撮影メニュー

Picture Control（□92）	測光方式（□98）	連写（□99）
AFモード（□102）	調光補正（□102）	ノイズ低減フィルター（□103）
長秒時ノイズ低減（□103）	ゆがみ補正（□104）	ワイドコンバーター（□104）
発光切り換え（□105）	Active D-ライティング（□106）	ズームメモリー（□107）

※1 基準となる撮影モードを選びます（初期設定はP）。登録時のプログラムシフトの設定（Pのとき）、シャッタースピード（S、Mのとき）、絞り値（A、Mのとき）も記憶します。
※2 モードダイヤルを合わせたときのズーム位置を設定します。［**28 mm**］（初期設定）、［**35 mm**］、［**50 mm**］、［**85 mm**］、［**105 mm**］、［**135 mm**］、［**200 mm**］、［**現在のズーム位置**］から選びます。
※3 セットアップメニューの設定とは、連動しません。
※4 モードダイヤルを合わせたときの液晶モニターの点灯状態を設定します（初期設定は［**情報ON**］です）。
※5 フォーカスモードが MF（マニュアルフォーカス）のときは、登録時のフォーカスの距離も記憶します。
※6 AFエリア選択が［**マニュアル**］のときは、登録時のAFエリアの位置も記憶します。
※7 プリセットマニュアルのプリセット値は、撮影モードP、S、A、M、U1、U2またはU3で共通です。

U1、U2、U3に設定内容を登録する

撮影でよく使う設定を変更して、U1、U2、U3に登録します。

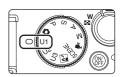
1 モードダイヤルをU1、U2またはU3に合わせる

2 撮影時の設定をよく使う組み合わせに変更する

- MENU ボタンを押してメニューを表示し、ロータリーマルチセレクターでタブを切り換えます（□13）。
  - U1、U2、U3タブ：U1/U2/U3専用メニューを表示します。
  - P、S、A、Mタブ：撮影メニューを表示します。
- クイックメニューは、クイックメニューボタンを押して表示します（□10、67）。
- メニューの選択と設定には、ロータリーマルチセレクターを使います（□12）。

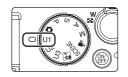
3 変更が終わったら、U1/U2/U3専用メニューの［**User Setting 登録**］を選んで、Ⓚボタンを押す

4 ［はい］を選んで、Ⓚボタンを押す

- 現在の設定内容が登録されます。
- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと、設定状態を確認できます。

時計用電池のご注意

内蔵の時計用電池（□171）が切れると、U1、U2またはU3に登録した設定内容がリセットされますのでご注意ください。重要な設定は、必要に応じてメモしておくことをおすすめします。

U1、U2、U3（ユーザーセッティング）モードで撮影する

モードダイヤルを回して、U1、U2またはU3 に合わせると、「U1、U2、U3 に設定内容を登録する」（113）で登録した設定になります。

- そのまま、構図を決めて撮影するか、必要に応じて設定を変えて撮影します。
- モードダイヤルをU1、U2またはU3に合わせたときの設定の組み合わせは、［**User Setting 登録**］で何度でも再登録できます。

登録した設定内容をリセットする

U1、U2、U3に登録した設定内容をリセットできます。

1 モードダイヤルをU1、U2またはU3に合わせる

- リセットするユーザーセッティングモードに合わせます。

2 U1/U2/U3専用メニュー画面で［**User Setting リセット**］を選び、Ⓚボタンを押す

3 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

- 登録された設定内容がリセットされます。

U1、U2、U3のリセットについて

ユーザーセッティングに登録された設定内容は、以下のようにリセットされます。

- U1/U2/U3専用メニュー： ［**撮影モード**］：P［**プログラムオート**］、［**焦点距離**］：［**28 mm**］、［**モニター表示設定**］：すべてオフ、［**モニター点灯設定**］：［**情報ON**］、［**フラッシュ**］：AUTO［**自動発光**］、［**フォーカス**］：AF［**通常AF**］、［**AFエリア選択**］：［**オート**］、［**AF補助光**］：［**AUTO**］
- 撮影メニュー、クイックメニュー：それぞれの項目の初期設定と同じ

1コマ表示中の操作方法

撮影モードのときに▶（再生）ボタンを押すと再生モードになり、撮影した画像を再生します（📖30）。1コマ表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	📖
画像を選ぶ	(ロータリーマルチセレクター)	▲▼◀ ▶で前後の画像を表示します。▲▼◀ ▶を押し続けると早送りします。ロータリーマルチセレクターまたはコマンドダイヤルを回しても画像を選べます。	12
画像を一覧表示する/カレンダー表示にする（撮影日一覧モードを除く）	W（⊞）	4コマ、9コマ、または16コマのサムネイル画像を表示します。16コマ表示でW（⊞）方向に回すとカレンダー表示になります。	116、117
再生する撮影日を選び直す（撮影日一覧モード）		撮影日一覧モードの1コマ表示中は、W（⊞）方向に回すと撮影日一覧画面に戻ります。	119
画像を拡大する	T（Q）	最大約10倍までの倍率に拡大します。 Ⓚボタンを押すと、1コマ表示に戻ります。	118
情報を表示/非表示にする	[□]	液晶モニターに表示される画像情報、撮影情報、トーンレベルインフォメーションの表示/非表示を切り換えます。	14、82
音声メモを録音/再生する	Ⓚ	最大20秒の音声を録音/再生します。	132
動画を再生する		表示中の動画を再生します。	151
画像を削除する	🗑	表示中の画像を削除します。	31
メニューを表示する	MENU	メニューを表示します。	123
特定の日付の画像を選ぶ	AE-L AF-L（📅）	撮影日一覧モードに切り換えます。	119
撮影画面に切り換える	▶ / (シャッターボタン)	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、撮影画面になります。	30

画像の向き（縦横位置）を変更するには

撮影後に、再生メニュー（📖122）の［**画像回転**］（📖130）で変更できます。

複数の画像を一覧表示する（サムネイル表示）

再生モードの1コマ表示（□30、115）でズームレバーをW（▦）方向に回すと、画像を一覧できる「サムネイル表示」になります（撮影日一覧モードを除く）。

サムネイル表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	□
画像を選ぶ	(OK)	ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼◀ ▶を押します。	12
	(コマンドダイヤル)	コマンドダイヤルを回します。	9
表示コマ数を増やす/カレンダーを表示する	W（▦）	ズームレバーをW（▦）方向に回すと、4コマ→9コマ→16コマ→カレンダー表示に切り換わります。 「カレンダー表示」にすると、撮影日単位で画像の選択を移動できます（□117）。 T（Q）方向に回すと、サムネイル表示に戻ります。	–
表示コマ数を減らす	T（Q）	ズームレバーをT（Q）方向に回すと、16コマ→9コマ→4コマに切り換わります。 4コマ表示でT（Q）方向に回すと、1コマ表示に戻ります。	
1コマ表示に戻る	OK	OKボタンを押します。	30、115
画像を削除する	🗑	選択中の画像を削除します。	31
撮影画面に切り換える	▶ (シャッターボタン)	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、撮影画面になります。	30

サムネイルに表示されるマーク

［**プリント指定**］（□123）や［**プロテクト設定**］（□129）をした画像の選択中は右のマークが表示されます。
動画は、映画フィルムの1コマのように表示されます。

動画表示

カレンダー表示

再生モードのサムネイル表示を16コマ表示にした後（□116）、さらにズームレバーを**W**（▦）方向に回すと「カレンダー表示」になります。
撮影日単位で画像の選択を移動できます。撮影画像のある日付には、黄色の下線が表示されます。

カレンダー表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	□
日付を選ぶ	(ロータリーマルチセレクター)	ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼◀▶を押します。	12
	(コマンドダイヤル)	コマンドダイヤルを回します。	9
1コマ表示に戻る	ⓚ	選んだ日の最初に撮影した画像の1コマ表示に移動します。	30、115
画像の一覧表示に戻る	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。	－

カレンダー表示についてのご注意

- 日時を設定せずに撮影した画像は、カレンダー表示で「2010年1月1日」の画像として扱われます。
- カレンダー表示中は、MENUボタンおよび🗑ボタンは使えません。

撮影日一覧モードについて

「撮影日一覧モード」（□119）を使うと、同じ日付の画像だけを再生できます。また、選んだ日付の画像だけを対象に撮影日一覧メニュー（□121）の操作ができます。

いろいろな再生

画像を拡大表示する

再生モードの1コマ表示（□30）でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、表示中の画像の中央部が拡大表示されます。

- 画面右下のガイドは、画像のどの部分を表示しているかを示しています。

拡大表示では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	□
拡大率を上げる	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。約10倍まで拡大できます。コマンドダイヤルを右に回しても拡大率が上がります。	–
拡大率を下げる	**W**（▦）	ズームレバーを**W**（▦）方向に回します。倍率が1倍になると、1コマ表示に戻ります。コマンドダイヤルを左に回しても拡大率が下がります。	–
表示範囲を移動する	OK（ロータリーマルチセレクター）	ロータリーマルチセレクターの▲▼◀▶を押して、表示範囲を移動します。	12
1コマ表示に戻る	OK	OKボタンを押します。	30、115
画像の一部を切り抜く（トリミング）	MENU	拡大表示した部分だけを別画像として保存します。	145
撮影画面に切り換える	▶ / シャッターボタン	▶ボタンまたはシャッターボタンを押すと、撮影画面になります。	30

顔認識して撮影した画像の場合

顔認識（□86）して撮影した画像は、1コマ表示でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、撮影時に認識した顔を中心に拡大表示されます（［**連写**］（□99）または［**ブラケティング**］（□80）を設定して撮影した画像を除く）。

- 複数の顔を認識していたときは、ピント合わせを行った顔を中心に拡大表示され、ロータリーマルチセレクターの▲▼◀▶を押すと表示する顔が切り換わります。
- さらに**T**（Q）方向または**W**（▦）方向に回すと拡大率が変わり、通常の拡大表示になります。

特定の日付の画像を選ぶ（撮影日一覧）

「撮影日一覧モード」にすると、同じ撮影日の画像だけを再生できます。

- 1コマ表示にすると、通常の再生モードと同様に、拡大表示、画像の編集または動画再生ができます。音声メモの録音/再生もできます。
- MENU ボタンを押して「撮影日一覧メニュー」（□121）を表示すると、同じ日付の画像をまとめて削除することや、同じ日付の画像だけでスライドショー、プリント指定、プロテクト設定などができます。

撮影日一覧モードで画像を表示する

1 再生時にAE-L/AF-L（▣）ボタンを押す

- 撮影日の一覧画面になります。

2 ロータリーマルチセレクターで撮影日を選ぶ

- 表示される撮影日は最大29日分までです。撮影日が30日以上あると、[**過去画像**] として30日以降の画像がすべてまとめられます。
- 撮影日の一覧画面の詳しい操作 →「撮影日一覧モードの操作」（□120）
- ⓚボタンを押すと、選んだ日の最初に撮影した画像が1コマ表示されます。
- 1 コマ表示中や撮影情報の表示中にズームレバーを**W**（▣）方向に回すと、撮影日の一覧画面に戻ります。
- AE-L/AF-L ボタンを押すと、通常の再生モードに戻ります。

✔ 撮影日一覧モードについてのご注意

- 撮影日一覧モードで表示できる画像は、最新の画像から9,000コマまでです。9,001コマ目を含む日付の画像枚数表示には、「＊」マークが表示されます。
- 日時を設定せずに撮影した画像は、「2010年1月1日」の画像として扱われます。

いろいろな再生

撮影日一覧モードの操作

撮影日の一覧画面（□119 手順2）では、以下の操作ができます。

機能	ボタン	内容	□
日付を選ぶ		ロータリーマルチセレクターを回すか、▲▼を押します。 コマンドダイヤルを回しても日付を選べます。	12
1コマ表示する	OK	選んだ日付の画像を1コマ表示します。 1コマ表示から撮影日の一覧画面に戻るには、ズームレバーを**W**（）方向に回します。	30
画像を削除する		選んだ日付の画像を、すべて削除します。表示される削除確認画面で［**はい**］を選びます。	31
撮影日一覧メニューを表示する	MENU	撮影日一覧メニューを表示します。	121
通常の再生モードに切り換える	AE-L AF-L（）	通常の再生モードに切り換えます。	115
撮影画面に切り換える		ボタンまたはシャッターボタンを押すと、撮影画面になります。	30

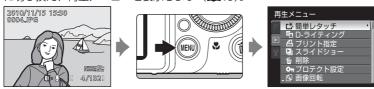
いろいろな再生

撮影日一覧メニュー

撮影日一覧モードでMENUボタンを押すと、選んだ日付の画像だけを対象に、以下のメニュー操作ができます。

簡単レタッチ※	→📖135
D-ライティング※	→📖136
プリント指定	→📖123
スライドショー	→📖126
削除	→📖127
プロテクト設定	→📖129
画像回転※	→📖130
非表示設定	→📖130
スモールピクチャー※	→📖137
黒フレーム※	→📖138
美肌※	→📖139
傾き補正※	→📖141
ミニチュア効果※	→📖142
NRW (RAW) 現像※	→📖143

※1コマ表示時のみ

撮影日の一覧画面（📖119）でMENUボタンを押すと、同じ日付の画像に同一の設定をまとめて行ったり、同じ日付の画像をまとめて削除できます。
画像ごとに設定を変更したり、削除する画像を選ぶときは、1コマ表示にしてからMENUボタンを押してください。

再生メニューを使う

再生メニューでは、以下の機能が使えます。

	簡単レタッチ	135
	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成します。	
	D-ライティング	136
	撮影した画像の暗い部分を明るく補正します。	
	プリント指定	123
	プリンターでプリントする画像や、その枚数などを設定します。	
	スライドショー	126
	内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。	
	削除	127
	画像を削除します。複数の画像をまとめて削除できます。	
	プロテクト設定	129
	大切な画像を誤って削除しないように、プロテクト（保護）します。	
	画像回転	130
	撮影した画像の向きを変更します。	
	非表示設定	130
	撮影した画像をカメラで再生できないようにします。	
	スモールピクチャー	137
	撮影した画像から、サイズの小さい画像を作成します。	
	画像コピー	131
	内蔵メモリーとSDカードの間で画像をコピーします。	
	黒フレーム	138
	撮影した画像に黒い枠を付けた画像を新しく作ります。	
	美肌	139
	人物の顔の肌をなめらかにします。	
	傾き補正	141
	撮影した画像の傾きを補正します。	
	ミニチュア効果	142
	撮影した画像を、ミニチュア（模型）を接写したように加工します。	
NRW	NRW (RAW) **現像**	143
	撮影したNRW (RAW) 画像をRAW現像し、JPEG画像を作成します。	

再生メニューの表示方法

MENUボタンを押してメニューを表示し、ロータリーマルチセレクターで▶タブに切り換え、再生メニューを表示します（□13）。

- メニューの選択と設定にはロータリーマルチセレクターを使います（□12）。
- 再生メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

🖶 プリント指定（プリントする画像や枚数の設定）

MENUボタンを押す ➔ ▶（再生メニュー）（□123）➔ 🖶プリント指定

SDカードに記録した画像を以下の方法でプリントする場合、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめSDカードに設定できます。

- カードスロットが付いたDPOF対応（□220）のプリンターでプリントする。
- DPOF対応のプリントサービス店にプリントを依頼する。
- カメラを PictBridge 対応（□220）のプリンターに接続してプリントする（□161）（カメラからSDカードを取り外すと、内蔵メモリーに記録した画像にもプリント指定できます）。

1 ［複数画像選択］を選び、OKボタンを押す

2 プリントする画像（最大99コマまで）と、それぞれのプリント枚数（各9枚まで）を設定する

- ロータリーマルチセレクターを回すか、◀▶を押して画像を選び、▲▼を押してプリント枚数を設定します。
- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を0にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと1コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したらⓀボタンを押します。

3 日付と撮影情報を画像に入れてプリントするかどうかを設定する

- ［**日付**］を選んでⓀボタンを押すと、すべての画像に撮影日を印字します。
- ［**撮影情報**］を選んでⓀボタンを押すと、すべての画像に撮影情報（シャッタースピードと絞り値）を印字します。
- ［**選択終了**］を選んでⓀボタンを押し、設定を有効にします。

プリント指定を行った画像は、再生時の画面で確認できます。

プリント指定をすべて取り消すには

プリント指定の手順1（□123）で［**プリント指定取消**］を選んでⓀボタンを押すと、すべての画像に対するプリント指定を取り消しできます。

関連ページ

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意→□72

［プリント指定］についてのご注意

- 撮影日一覧モードでプリント指定するときに、選んだ撮影日以外の画像がすでにプリント指定されていると、右の画面が表示されます。
  - ［**はい**］を選ぶと、他の画像のプリント指定に今回の設定内容を追加します。
  - ［**いいえ**］を選ぶと、他の画像のプリント指定をすべて解除して、今回の設定だけを残します。

  また、今回の設定内容を追加することで設定コマ数が 99 コマを超える場合は、右の画面が表示されます。
  - ［**はい**］を選ぶと、他の画像のプリント指定をすべて解除して、今回の設定だけを残します。
  - ［**キャンセル**］を選ぶと、他の画像のプリント指定を残して、今回の設定を取り消します。

- NRW (RAW) 画像は、プリント指定ができません。［**NRW (RAW) 現像**］（□143）を使って作成したJPEG形式の画像をプリント指定してください。

日付と撮影情報を入れてプリントするときのご注意

プリント指定で設定した［**日付**］と［**撮影情報**］は、「日付」や「撮影情報」が印字可能なDPOF対応プリンター（□220）で印字できます。

- 付属のUSBケーブルでカメラをプリンターに接続して「DPOF プリント」（□166）するときは、「撮影情報」は印字できません。
- プリント指定を行った後、再び［**プリント指定**］を表示すると、［**日付**］と［**撮影情報**］の設定はリセットされますのでご注意ください。
- プリントされる日付は、撮影時点でカメラに設定されている日時です。撮影後にセットアップメニューの［**日時設定**］を変更してもプリントされる日付には反映されません。

［デート写し込み］について

セットアップメニューの［**デート写し込み**］（□174）を使うと、撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。デート写し込みした画像は、［**プリント指定**］で日付の印字を設定しても、デート写し込みした日付のみがプリントに表示されます。

スライドショー

MENUボタンを押す ➔ ▶（再生メニュー）（📖123）➔ スライドショー

内蔵メモリー /SDカード内の画像を、1コマずつ順番に自動再生します。

1 ロータリーマルチセレクターで［**開始**］を選び、Ⓚボタンを押す

- 画像の表示時間を変更するには、［**開始**］を選ぶ前に［**インターバル設定**］を選んでⓀボタンを押し、画像の表示時間を選びます。
- 繰り返し再生するには、［**開始**］を選ぶ前に［**エンドレス**］を選んでⓀボタンを押し、チェックボックスをオン［✔］にします。

2 スライドショーが始まる

- 再生中にロータリーマルチセレクターの▶を押すと次の画像、◀を押すと前の画像を表示します（ボタンを押し続けると早送り/早戻しになります）。
- 途中で終了または一時停止したいときは、Ⓚボタンを押します。

3 終了または再開する

- スライドショー終了時や一時停止中は、右の画面になります。［**終了**］を選び、Ⓚボタンを押すと再生メニューに戻ります。［**再開**］を選ぶとスライドショーを再開します。

スライドショーについてのご注意

- 動画（📖151）は1フレーム目だけを表示します。
- スライドショーを連続再生できる時間は、［**エンドレス**］に設定している場合も含め、最大約30分です（📖181）。

🗑 削除（複数画像の削除）

MENUボタンを押す ➔ ▶（再生メニュー）（📖123）➔ 🗑 削除

画像を削除します。複数の画像をまとめて削除できます。

削除画像選択

画像選択の画面で、画像を選んで削除します。→「画像選択画面の操作方法」（📖128）

- ［**画質**］（📖68）を［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］で撮影した画像を選ぶと、NRW (RAW) と JPEG の画像が同時に削除されます。

全画像削除

すべての画像を削除します。

削除画像選択 (NRW**のみ**)

画像選択の画面には、NRW (RAW)画像のみ表示されます。画像を選んで削除します。

- NRW (RAW) と JPEG を同時記録した画像は、NRW (RAW) 画像のみを削除します。

削除画像選択 (JPEG**のみ**)

画像選択の画面には、JPEG画像のみ表示されます。画像を選んで削除します。

- NRW (RAW)とJPEGを同時記録した画像は、JPEG画像のみを削除します。

☑ 画像削除についてのご注意

- 削除した画像はもとに戻せないため、ご注意ください。残しておきたい画像はパソコンに転送して保存することをおすすめします。
- 🔑 マークが表示されている画像は、プロテクト（保護）されているので削除されません（📖129）。
- NRW (RAW) とJPEG を同時記録した画像は、画像選択画面で NRW JPEG が表示されます。

画像選択画面の操作方法

以下のメニューでは、画像選択時に右のような画面が表示されます。
1画像のみ選べるメニュー項目と、複数の画像を選べるメニュー項目があります。

1画像だけ選べる機能	複数の画像を選べる機能
・**再生メニュー**： 簡単レタッチ※（□135）、 D-ライティング※（□136）、 画像回転（□130）、 スモールピクチャー※（□137）、 黒フレーム※（□138）、 美肌※（□139）、 傾き補正※（□141）、 ミニチュア効果※（□142）、 NRW (RAW) 現像（□143）、 ・**セットアップメニュー**： オープニング画面の［**撮影した画像**］（□169）	・**再生メニュー**： プリント指定の［**複数画像選択**］（□123）、 削除の削除画像選択（□127）、 プロテクト設定（□129）、 非表示設定（□130）、 画像コピーの［**選択画像コピー**］（□131）

※ 再生モード以外で再生メニューを表示したとき（□13）にメニュー項目を選ぶと表示されます。

以下の手順で画像を選びます。

1 **ロータリーマルチセレクターを回すか、◀ ▶を押して、画像を選ぶ**

- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- ズームレバーを **T**（Q）方向に回すと 1 コマ表示に、**W**（▦）方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 1画像だけ選べる機能の場合→手順3へ

いろいろな再生

2 ▲▼を押してON/OFF（またはプリント枚数）を設定する

- ON にすると、選択画像にチェックマークが表示されます。複数の画像に設定したいときは、手順1と2を繰り返します。

3 ⓀボタンをΟ押して画像選択を決定する

- 削除画像選択などでは、確認画面になります。画面の表示に従って操作してください。

Om プロテクト設定

MENUボタンを押す ➔ ▶（再生メニュー）（□123）➔ Om プロテクト設定

大切な画像を誤って削除しないように、画像にプロテクト（保護）を設定できます。
画像選択の画面で、画像を選んでプロテクトの設定または解除をします。→「画像選択画面の操作方法」（□128）
ただし、内蔵メモリー /SDカードを初期化（フォーマット、□182）すると、プロテクト設定した画像も削除されますので、ご注意ください。

プロテクト設定した画像は、カメラでの再生時にOmマーク（□8、117）が表示されます。

画像回転

MENUボタンを押す ➔ ▶（再生メニュー）（□123）➔ 画像回転

撮影後に、カメラなどで表示するときの画像の向き（縦横位置）を設定します。静止画を時計方向に90度、または反時計方向に90度回転できます。
撮影時に縦位置で記録された画像は、時計回り/反時計回りのどちらか一方向に180度まで回転できます。

画像選択の画面で回転する画像を選ぶと（□128）、画像回転の画面が表示されます。ロータリーマルチセレクターを回すか、◀または▶を押すと90度回転します。

反時計方向に
90度回転

時計方向に
90度回転

OKボタンを押すと、表示している方向で決定し、画像に縦横位置情報が記録されます。

非表示設定

MENUボタンを押す ➔ ▶（再生メニュー）（□123）➔ 非表示設定

撮影した画像をカメラで再生できないようにします。
画像選択の画面で、画像を選んで非表示の設定または解除をします。→「画像選択画面の操作方法」（□128）
非表示設定した画像は［**削除**］では削除されません。ただし、内蔵メモリー/SDカードを初期化（フォーマット、□182）すると、非表示設定した画像も削除されますので、ご注意ください。

画像コピー（内蔵メモリーとSDカード間のコピー）

MENUボタンを押す ➔ ▶（再生メニュー）（🕮123）➔ 画像コピー

内蔵メモリーの画像をSDカードへ、またはSDカードの画像を内蔵メモリーへコピーできます。

1 ロータリーマルチセレクターでコピーする方向を選び、OKボタンを押す

- IN➔SD：内蔵メモリーからSDカードへコピーします。
- SD➔IN：SDカードから内蔵メモリーへコピーします。

2 コピーの方法を選び、OKボタンを押す

- ［**選択画像コピー**］：画像選択の画面（🕮128）で、画像を選んでコピーします。
- ［**全画像コピー**］：すべての画像をコピーします。

画像コピーについてのご注意

- コピーできるファイルの形式は、JPEG、NRW、MOV、WAVです。これ以外の形式のファイルはコピーできません。
- 画像コピーでは、画像に付けた「音声メモ」（🕮132）も画像と同時にコピーします。
- ［**画質**］（🕮68）を［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］で撮影した画像を選ぶと、NRW (RAW)とJPEGの画像が同時にコピーされます。
- 他社製のカメラで撮影した画像やパソコンで加工した画像のコピーは動作を保証していません。
- ［**プリント指定**］（🕮123）した画像をコピーしても、プリント指定の設定内容はコピーされません。［**プロテクト設定**］（🕮129）した画像をコピーすると、コピー先の画像もプロテクトされます。
- ［**非表示設定**］（🕮130）した画像はコピーできません。

［撮影画像がありません］のメッセージについて

SDカードに画像が記録されていないときに再生モードに切り換えると、［**撮影画像がありません**］と表示されますが、MENUボタンを押すと画像コピー画面が表示され、内蔵メモリー内の画像をSDカードにコピーできます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→🕮203

画像に音声メモを付ける

再生モードの1コマ表示（□30）で🆗：🎙マーク（音声メモ録音ガイド）が表示されている画像に、カメラまたは外付けのマイクを使って音声のメモが録音できます。

音声メモを録音する

®ボタンを押している間、約20秒まで音声メモを録音できます。

- 録音中は、マイクに触れないようにご注意ください。
- 録音中はRECと♪が点滅します。

音声メモを再生する

音声メモを録音した画像は、1 コマ表示で🆗：♪（音声メモ再生ガイド）が表示されます。録音した画像を1 コマ表示して、®ボタンを押します。

- 再生中は、ズームレバー **T**/**W** で音量を調節できます。
- 再生中に、もう一度®ボタンを押すと再生が終了します。

音声メモを削除する

音声メモ付き画像を選んで🗑ボタンを押します。ロータリーマルチセレクターで［[♪]］を選んで®ボタンを押すと、音声メモだけを削除します。

✔ 音声メモについてのご注意

- 音声メモが付いた画像を削除すると、その画像に付けた音声メモも削除されます。
- すでに音声メモが録音されている画像には、音声メモを録音できません。録音内容を変更するときは、いったん音声メモだけを削除してから、もう一度音声メモを録音してください。
- COOLPIX P7000以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□203

画像編集の種類

このカメラでは以下の機能を使って画像を簡単に編集できます。編集した画像は元画像とは別に、異なるファイル名で保存されます（□203）。

編集の種類	用途
簡単レタッチ (□135)	コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を簡単に作成します。
D-ライティング (□136)	逆光やフラッシュの光量不足で暗くなった部分を明るく補正します。
スモールピクチャー (□137)	サイズの小さい画像を作成します。電子メールに添付して送信するときなどに使います。
黒フレーム (□138)	画像の周りに黒い枠を付けます。画像に境界線を付けたいときなどに使います。
美肌 (□139)	人物の顔の肌をなめらかにします。
傾き補正 (□141)	画像の傾きを補正します。
ミニチュア効果 (□142)	ミニチュア（模型）を接写したように加工します。
NRW (RAW) 現像 (□143)	撮影したNRW (RAW) 画像（□68）をパソコンを使わずにカメラ内でRAW現像し、JPEG画像を作成します。
トリミング (□145)	画像の一部を切り抜きます。被写体をクローズアップしたいときや構図に手を加えたいときなどに使います。

画像編集についてのご注意

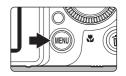
- ［**画像サイズ**］（□70）を［**3648×2432**］、［**3584×2016**］、［**2736×2736**］にして撮影した画像は、黒フレーム以外の編集ができません。
- 画像から人物の顔を検出できないときは、美肌の編集はできません（□139）。
- NRW (RAW) 画像は、そのままではNRW (RAW) 現像以外の画像編集ができません。NRW (RAW) 現像で作成したJPEG画像を編集してください。
- COOLPIX P7000以外で撮影した画像は、このカメラで編集できません。
- COOLPIX P7000以外のデジタルカメラでは、このカメラで編集した画像の正常な表示やパソコンへの転送ができないことがあります。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。

画像編集の制限

編集で作成した画像に別の編集を追加するときには、以下の制限があります。

編集に使った機能	追加できる編集機能
簡単レタッチ D-ライティング	美肌、スモールピクチャーまたはトリミングができます。簡単レタッチとD-ライティングを組み合わせることはできません。
スモールピクチャー 傾き補正 ミニチュア効果 トリミング	追加編集できません。
美肌	簡単レタッチ、D-ライティング、スモールピクチャーまたはトリミングができます。
黒フレーム	追加編集できません。別の編集機能で作成した画像に黒フレームを付けることもできません。
NRW (RAW) 現像	追加編集できます。

- 編集で作成した画像に同じ種類の編集を繰り返すことはできません。
- スモールピクチャーまたはトリミングと別の編集機能を組み合わせるときは、スモールピクチャーまたはトリミングは最後に編集してください。
- 撮影時に美肌機能を使って撮影した画像にも、美肌の編集ができます。

元画像と編集画像の関係について

- 編集で作成した画像は、元画像を削除しても削除されません。また、編集で作成した画像を削除しても、元画像は削除されません。
- 編集で作成した画像の撮影日時は、元の画像と同じです。
- ［**プリント指定**］（□123）や［**プロテクト設定**］（□129）した画像を編集しても、これらの設定内容は編集で作成した画像に反映されません。

簡単レタッチ（コントラストと鮮やかさを高める）

コントラストと色の鮮やかさを高めた画像を、簡単に作成できます。作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□116）で画像を選び、MENU ボタンを押す

- 再生メニューが表示されないときは、▶タブに切り換えます（□14）。

2 ロータリーマルチセレクターで［簡単レタッチ］を選び、Ⓚボタンを押す

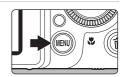
- 補正前（左側）と補正後（右側）の見本が表示されます。

3 ▲▼を押して効果の度合いを選び、Ⓚボタンを押す

- レタッチした画像が作成されます。
- 中止するときは、MENU ボタンを押します。

- 簡単レタッチで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□203

D-ライティング（画像の暗い部分を明るく補正する）

逆光やフラッシュの光量不足などで暗くなった被写体を、明るく補正できます。補正した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□116）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されないときは、▶タブに切り換えます（□14）。

2 ロータリーマルチセレクターで [D-ライティング] を選び、OKボタンを押す

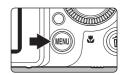
- 補正前（左側）と補正後（右側）の見本が表示されます。

3 ▲▼を押して効果の度合いを選び、OKボタンを押す

- 補正した画像が作成されます。
- 中止するときは、MENUボタンを押します。

- D-ライティングで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□203

スモールピクチャー（画像サイズを小さくする）

撮影した画像から、サイズの小さい画像を作成します。ホームページで使ったり、電子メールへ添付したりするのに便利です。サイズは［**640×480**］、［**320×240**］または［**160×120**］から選べます。スモールピクチャーは、元の画像とは別の画像（圧縮率約1/16）として保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□116）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されないときは、▶タブに切り換えます（□14）。

2 ロータリーマルチセレクターで ［スモールピクチャー］を選び、OKボタンを押す

3 スモールピクチャーのサイズを選び、OK ボタンを押す

4 ［はい］を選び、OKボタンを押す

- スモールピクチャーが作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、OK ボタンを押します。
- スモールピクチャーで作成した画像は、グレーの枠で囲まれて表示されます。

画像の編集

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□203

黒フレーム（画像の周りに黒い枠を付ける）

撮影した画像の周りに黒い枠を付けます。枠の太さは、［**細**］、［**中**］、［**太**］から選べます。作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□116）で画像を選び、MENU ボタンを押す

- 再生メニューが表示されないときは、▶タブに切り換えます（□14）。

2 ロータリーマルチセレクターで［黒フレーム］を選び、OKボタンを押す

3 枠の太さを選び、OKボタンを押す

4 ［はい］を選び、OKボタンを押す

- 黒い枠を付けた画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、OK ボタンを押します。
- 黒フレームで作成した画像は、再生画面でが表示されます。

黒フレームについてのご注意

- 黒い枠は画像の上に重ねられるため、黒い枠の太さに応じて画像が削られます。
- 黒い枠を付けた画像をフチなしでプリントすると、黒い枠がプリントされないことがあります。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□203

美肌（肌をなめらかにする）

撮影した画像から人物の顔を検出して、顔の肌をなめらかにします。作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□116）で画像を選び、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されないときは、▶タブに切り換えます（□14）。

2 ロータリーマルチセレクターで［美肌］を選び、Ⓚボタンを押す

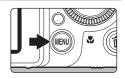
- 効果の度合いを設定する画面が表示されます。
- 画像から人物の顔を検出できないときは、警告メッセージが表示され、再生メニューに戻ります。

3 ▲▼を押して効果の度合いを選び、Ⓚボタンを押す

- 確認画面になり、美肌編集した顔が拡大表示されます。
- 中止するときは、MENUボタンを押します。

4 効果を確認する

- 最も画面の中央に近い順に、最大12人の肌を編集します。
- 美肌編集した顔が複数あるときは、ロータリーマルチセレクターの◀ ▶を押すと顔の切り換えができます。
- 効果の度合いを変えたいときは、MENUボタンを押して、手順3に戻ります。
- OKボタンを押すと、美肌編集した画像が作成されます。
- 美肌編集で作成した画像は、再生画面で美肌アイコンが表示されます。

美肌についてのご注意

顔の向きや明るさなど、画像によっては、適切に顔を検出できないことや望ましい効果が得られないことがあります。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□203

傾き補正（画像の傾きを補正する）

撮影した画像の傾きを補正します。補正した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□116）で画像を選び、MENUボタンを押す

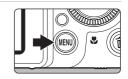
- 再生メニューが表示されないときは、▶タブに切り換えます（□14）。

2 ロータリーマルチセレクターで[傾き補正]を選び、OKボタンを押す

- 傾きを補正する画面が表示されます。

3 傾きを補正する

- ◀を押すごとに反時計方向に1度ずつ回転します。
- ▶を押すごとに時計方向に1度ずつ回転します。
- 中止するときは、MENUボタンを押します。
- OKボタンを押すと、傾き補正した画像が作成されます。
- 傾き補正した画像は、再生画面でが表示されます。

傾き補正についてのご注意

- 傾き補正をすると、画像の周辺が切り取られます。補正する傾きが大きくなるほど、画像の周辺は大きく切り取られます。
- 傾きが補正できるのは、最大15度までです。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□203

ミニチュア効果（模型を接写したように加工する）

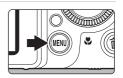
撮影した画像を、ミニチュア（模型）を接写したように加工します。ミニチュア効果には、高いところから見下ろして撮影した、主要な被写体が画面中央付近に写った画像が適しています。作成した画像は、元画像とは別に保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（□30）またはサムネイル表示（□116）で画像を選び、MENU ボタンを押す

- 再生メニューが表示されないときは、▶タブに切り換えます（□14）。

2 ロータリーマルチセレクターで ［ミニチュア効果］を選び、Ⓚボタンを押す

3 元画像の［**実行**］を選び、Ⓚボタンを押す

- 確認画面が表示されます。
- 中止するときは、［**キャンセル**］を選び、Ⓚ ボタンを押します。

4 効果を確認し、Ⓚボタンを押す

- ミニチュア効果を加えた画像が作成されます。
- 中止するときは、MENUボタンを押します。
- ミニチュア効果を加えた画像は、再生画面で が表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□203

NRW NRW (RAW) 現像（NRW画像からJPEG画像を作成する）

［**画質**］（□68）を［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］で撮影したNRW (RAW) 画像をカメラ内でRAW現像してJPEG画像を作成します。

1 再生モードで、MENUボタンを押す

- 再生メニューが表示されないときは、▶タブに切り換えます（□14）。

2 ロータリーマルチセレクターでNRW［**NRW (RAW) 現像**］を選び、OKボタンを押す

3 ロータリーマルチセレクターを回すか、◀▶を押してRAW現像する画像を選び、OKボタンを押す

- NRW (RAW) 現像メニューが表示されます。

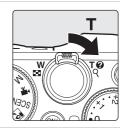
4 NRW（RAW）現像のパラメーターをそれぞれ設定する

- ズームレバーを **T**（Q）方向に回して画像を確認しながら、以下の設定をします。設定画面に戻るには、もう一度**T**（Q）方向に回します。
  - ［**ホワイトバランス**］：ホワイトバランスを設定できます（□76）。
  - ［**露出補正**］：明るさを設定できます。
  - ［**Picture Control**］：画像の仕上がりを設定できます（□92）。
  - ［**画質**］：画質を［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］の中から選べます（□68）。
  - ［**画像サイズ**］：画像サイズを設定できます（□70）。3:2［**3648×2432**］、16:9 7M［**3584×2016**］、1:1［**2736×2736**］を選ぶと、画像はトリミングされます。
  - ［**ゆがみ補正**］：ゆがみ補正を設定します（□104）。
  - ［**D-ライティング**］：画像の暗い部分を明るく補正します（□136）。
- 設定を初期設定に戻すときは、🗑ボタンを押します。
- 設定が完了したら、［**現像**］を選びます。

5 ［はい］を選び、Ⓚボタンを押す

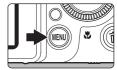
- NRW (RAW) 現像後のJPEG画像が作成されます。
- 作成をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。

✔ NRW (RAW) 現像についてのご注意

- COOLPIX P7000　で　NRW (RAW) 現像できる画像は、COOLPIX P7000　で撮影したNRW (RAW) 画像だけです。
- ［**ホワイトバランス**］を［**プリセットマニュアル**］以外で撮影した画像では、NRW (RAW) 現像の［**ホワイトバランス**］で［**プリセットマニュアル**］は選べません。

関連ページ

- 画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意→□72
- 記録データのファイル名とフォルダー名→□203

✂ トリミング（画像の一部を切り抜く）

拡大表示（□118）中にMENU:✂マークが表示されている画像は、液晶モニターに表示している部分だけにトリミング（切り抜き）できます。トリミングした画像は、元画像とは別に保存されます。

1 再生モードの1コマ表示（□30）でズームレバーをT（Q）方向に回して、画像を拡大表示する

- 縦位置画像は、左右の黒い帯が見えなくなるまで画像を拡大するとトリミングできますが、トリミング画像は横位置になります。縦位置のトリミング画像を作るには［**画像回転**］（□130）で横位置にしてからトリミングし、再度トリミング画像を縦位置に戻します。

2 切り抜きたい部分だけが表示されるように調節する

- ズームレバーをT（Q）またはW（▦）方向に回して拡大率を調節します。
- ロータリーマルチセレクターの▲▼◀▶を押して表示範囲を移動します。

3 MENUボタンを押す

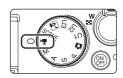
4 ロータリーマルチセレクターで［はい］を選び、OKボタンを押す

- トリミング画像が作成されます。
- 中止するときは、［**いいえ**］を選び、OK ボタンを押します。

画像サイズについて

切り抜く範囲が狭くなるほど、トリミングで作成した画像の画像サイズ（ピクセル数）は小さくなります。トリミングして画像サイズが 320×240 または 160×120 になった画像は、再生時にグレーの枠で囲まれ、画面左側にスモールピクチャーの□または□アイコンが表示されます。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□203

動画を撮影する

ハイビジョンの動画（音声付き）を撮影できます。

- 1回の撮影で記録可能な時間は、SDカードの残量が多いときでも最大29分です。

1 モードダイヤルを🎥に合わせる

- 液晶モニターに、記録できる時間が表示されます。

2 シャッターボタンを全押しして、撮影を開始する

- ピントは画面中央で合います。動画の撮影時は、AFエリアは表示されません。
- ハイビジョンで撮影する場合、撮影画面の縦横比が16:9に切り換わります（右の画面の範囲で記録されます）。
- 撮影中は、記録可能な残り時間の目安を液晶モニターで確認できます。残り時間が無くなると、撮影が自動的に終了します。

3 シャッターボタンを全押しして、撮影を終了する

✔ 動画の保存についてのご注意

撮影終了後、AFランプが点滅しているときは、動画の保存中です。**バッテリー/SDカードカバーを開けないでください。**保存が終了する前にSDカードやバッテリーを取り出すと、動画が記録されないことや、撮影した動画やカメラ、SDカードが壊れることがあります。

外部マイクについて

- 内蔵マイクのかわりに、市販のマイクを外部マイク端子（□5）に接続して、動画撮影時の音声や、静止画の音声メモ（□132）の録音ができます。外部マイクは、「主な仕様」の「入出力端子」（□218）に記載している「外部マイク端子」の仕様に適合したものをお使いください。
- 外部マイクを接続したときは、動画メニューの［**風切り音低減**］（□150）は使えません。

動画撮影についてのご注意

- 動画をSDカードに記録するときは、SDスピードクラスがClass 6以上のSDカードをおすすめします（□221）。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。
- 電子ズームを使うと、画質は劣化します。電子ズームを使わずに動画撮影を開始したときは、ズームを**T**方向に回し続けると、光学ズームの最大倍率でズームが止まります。いったんズームから指をはなして、もう一度**T**方向に回すと電子ズームが作動します。
- ズームレバーなどの操作音、ズーム、オートフォーカス、手ブレ補正、明るさが変化したときの絞り制御などの動作音が録音されることがあります。ズームの動作音が録音されにくくするには、セットアップメニューの［**ズーム速度設定**］を［**オート**］（初期設定）または［**静音**］に設定してください（□179）。
- 動画の撮影では、液晶モニターにスミア（□196）が発生した場合、記録される動画にもスミアの影響が残ります。スミアの影響を避けるため、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。

オートフォーカスについてのご注意

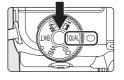
- 動画メニューの［**AF モード**］が AF-S［**シングル AF**］（初期設定）の場合、シャッターボタンを半押ししたときに、ピントは固定されます（□150）。
- 「オートフォーカスが苦手な被写体」（□29）では、ピント合わせができないことがあります。このような被写体を動画で撮影するときは、以下の方法をお試しください。
  1. 撮影前に動画メニューの［**AFモード**］をAF-S［**シングルAF**］（初期設定）にする。
  2. 同じ距離にある別の被写体を画面中央に配置してシャッターボタンを押し、動画撮影を開始してから構図を変える。

カメラの温度について

動画撮影などで長時間使ったり、周囲の温度が高い場所で使ったりすると、カメラの温度が高くなることがありますが、故障ではありません。

動画撮影で使える機能

- 露出補正（□43）ができます。フォーカスモード（□40）は、AF（通常AF）、マクロ（マクロAF）または▲（遠景AF）を選べます。
- リモコンモード（□38）の瞬時リモコンを使えます。セルフタイマー、笑顔自動シャッターは使えません。
- フラッシュは発光しません。
- クイックメニューダイヤルをQUALまたはWBに合わせてクイックメニューボタンを押すと、［**動画設定**］（□148）または［**ホワイトバランス**］（□76）を設定できます。
- 動画の撮影を開始する前にMENUボタンを押して、動画（動画）タブに切り換えると動画メニューの設定ができます（□149）。
- 動画撮影中に設定は変更できません。撮影を開始する前に設定を確認してください。

撮影する動画の種類を選ぶ

撮影する動画の種類を選びます。解像度が高く、ビットレートが大きいほど高画質になりますが、ファイルサイズは大きくなります。

種類	内容
HD 720p (1280×720) **（初期設定）**	ハイビジョン画質で縦横比16:9の動画を記録します。ワイドテレビで再生するのに適しています。 • 解像度：1280 × 720 ピクセル • ビットレート：約 9 Mbps
VGA (640×480)	縦横比4:3の動画を記録します。 • 解像度：640 × 480 ピクセル • ビットレート：約 3 Mbps
QVGA (320×240)	縦横比4:3の動画を記録します。 • 解像度：320 × 240 ピクセル • ビットレート：約 640 kbps

- ビットレートとは、1 秒間あたりの動画のデータ量です。撮影する被写体により、ビットレートが自動的に変わる「VBR 記録方式」を採用しています。動きの多い被写体を記録した場合は、ファイルサイズが大きくなります。
- 撮影フレーム数は、［**HD 720p (1280 × 720)**］の場合は約 24 フレーム / 秒、［**VGA (640 × 480)**］、［**QVGA (320 × 240)**］の場合は約 30 フレーム / 秒です。

動画設定の設定方法

1 クイックメニューダイヤルを QUAL に合わせ、クイックメニューボタンを押す

- クイックメニューが表示されます。
- モードダイヤル（□44）は、動画に合わせてください。

2 コマンドダイヤルで動画の種類を選ぶ

- 選んでいる動画の種類での記録可能時間が表示されます。

記録可能時間

3 設定が終わったら、クイックメニューボタンを押す

- 撮影画面に戻ります。

動画の記録可能時間

種類	内蔵メモリー（約 79 MB）	SDカード（4 GB）※
720p HD 720p (1280×720)（初期設定）	1分10秒	約55分
VGA VGA (640×480)	3分22秒	約2時間30分
QVGA QVGA (320×240)	13分57秒	約11時間

数値はおおよその目安です。同じ容量でもSDカードの種類や撮影した動画のビットレートによって記録可能時間は異なります。

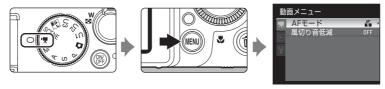
※ 1回の撮影で記録可能な時間は、最長29分です。合計29分以上記録できるSDカードを使用しても、カメラが表示する記録可能時間は、最長29分です。

関連ページ

記録データのファイル名とフォルダー名→□203

動画モードの設定を変える

動画メニューで以下の項目を設定できます。

AFモード	□150
動画を撮影するときのピントの合わせ方を選びます。	
風切り音低減	□150
動画の撮影時に風切り音を低減するかどうかを設定します。	

動画メニューの表示方法

モードダイヤルを🎥（動画）に合わせます。

MENUボタンを押してメニューを表示し、ロータリーマルチセレクターで🎥タブに切り換え、動画メニューを表示します（□14）。

- メニューの選択と設定には、ロータリーマルチセレクターを使います（□12）。
- 動画メニューを終了するには、MENUボタンを押します。

AFモード

🎞に設定 ➔ MENU ➔ 🎞（動画メニュー）（□149）➔ AFモード

動画を撮影するときのピントの合わせ方を選びます。

設定	内容
AF-S シングルAF（初期設定）	シャッターボタンを半押ししたときのピントに固定します。撮影中に被写体との距離があまり変化しない撮影に適しています。
AF-F 常時AF	動画撮影中、ピント合わせを繰り返します。 撮影中に被写体との距離が変化する撮影に適しています。ピントを合わせる動作音が録音されることがあります。動作音が気になるときは、［**シングルAF**］での撮影をおすすめします。

風切り音低減

🎞に設定 ➔ MENU ➔ 🎞（動画メニュー）（□149）➔ 風切り音低減

動画の撮影時に風切り音を低減するかどうかを設定します。

種類	内容
ON	カメラの内蔵マイクに吹き付ける風の音を抑えて記録します。強風時の撮影に適しています。再生時に風切り音以外の音が聞こえにくくなることがあります。
OFF OFF（初期設定）	風切り音を低減しません。

風切り音低減の設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

風切り音低減についてのご注意

外部マイク（□146）を使用して撮影するときは、風切り音低減機能は動作しません。

動画を再生する

1コマ表示（□30）で動画設定（□148）のアイコンが表示されている画像が動画です。Ⓞボタンを押すと、再生できます。

再生中は、ズームレバー**T**/**W**で音量を調節できます。画面上部には操作パネルが表示されます。ロータリーマルチセレクターの◀ ▶で操作パネルのアイコンを選び、Ⓞボタンを押すと以下の操作ができます。

動画再生中　音量表示

機能	アイコン	内容
巻き戻し		Ⓞボタンを押している間、巻き戻します。
早送り		Ⓞボタンを押している間、早送りします。
一時停止		一時停止中に画面上部の操作パネルのアイコンで以下の操作ができます。
		1コマ戻ります。Ⓞボタンを押し続けると、連続してコマ戻しします。※
		1コマ進みます。Ⓞボタンを押し続けると、連続してコマ送りします。※
		動画の必要な部分だけを切り出して保存します（□152）。
		動画の 1 フレームを静止画として保存します（□153）。
		再生を再開します。
再生終了		1コマ表示に戻ります。

※ ロータリーマルチセレクターまたはコマンドダイヤルを回してもコマ送り/コマ戻しできます。

動画再生についてのご注意

COOLPIX P7000以外で撮影した動画は、再生できません。

動画を編集する

撮影した動画の必要な部分だけを切り出し、別ファイルとして保存します。

1 編集する動画を再生して、一時停止する（□151）

2 ロータリーマルチセレクターの◀ ▶ で操作パネルの✂を選び、Ⓚ ボタンを押す

- 動画編集画面が表示されます。

3 ▲▼を押して編集操作パネルの✂（始点の設定）を選ぶ

- ロータリーマルチセレクターを回すか、◀ ▶を押して、左端にある始点を必要な部分の開始位置まで移動します。
- 編集を中止するには、▲▼ で ↩（戻る）を選び、Ⓚボタンを押します。

4 ▲▼を押して✂（終点の設定）を選ぶ

- ロータリーマルチセレクターを回すか、◀ ▶を押して、右端にある終点を必要な部分の終了位置まで移動します。
- ▶（プレビュー）を選び、Ⓚボタンを押すと、保存する前に指定した範囲の動画を再生して確認できます。プレビュー再生中も、ズームレバー**T**/**W**で音量の調節、ロータリーマルチセレクターで項目の選択ができます。プレビュー再生を停止するときは、もう一度Ⓚボタンを押します。

5 設定が完了したら、▲▼を押して🗋（保存）を選び、Ⓚ ボタンを押す

6 ［はい］を選び、Ⓚ ボタンを押す

- 編集した動画が保存されます。
- 保存しないときは［**いいえ**］を選びます。

動画編集についてのご注意

- 編集で作成した動画から、もう一度動画を切り出すことはできません。ほかの範囲を切り出すときは、元の動画を選んで編集してください。
- 秒単位で動画を切り出すため、設定した始点/終点のフレームと、実際の切り出し範囲は、多少ずれることがあります。再生時間が2秒未満になる動画の切り出しはできません。
- 内蔵メモリー /SDカードに充分な空き容量がないときは、編集できません。

関連ページ

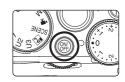
記録データのファイル名とフォルダー名→□203

動画の1フレームを静止画として保存する

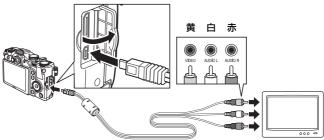
撮影した動画の1画面を静止画として切り出して保存できます。

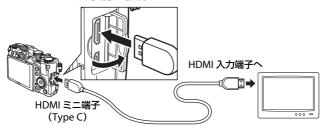
- 動画の再生を一時停止して、切り出したい画面を表示します（□151）。
- ロータリーマルチセレクターの◀ ▶ で操作パネルの[静止画保存アイコン]を選んで®ボタンを押します。

- 確認画面が表示されたら、［**はい**］を選んで®ボタンを押して保存します。保存をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。
- 保存される静止画の画質は［**NORMAL**］です。画像サイズは元の動画の種類（解像度）（□148）によって異なります。
  - [720p] HD 720p (1280×720) → [16:9] 1280×720
  - [VGA] VGA (640×480) → [VGA] 640×480
  - [QVGA] QVGA (320×240) → [QVGA] 320×240
- [QVGA] 320×240で保存された画像は、再生時にグレーの枠で囲まれて表示されます。

不要な動画を削除する

1コマ表示（□30）やサムネイル表示（□116）で動画を選んで[削除]ボタンを押すと、削除確認画面が表示されます。［**はい**］を選んで®ボタンを押し、動画ファイルを削除します。削除をやめるときは、［**いいえ**］を選びます。

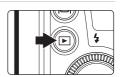
テレビに接続する

カメラをテレビに接続すると、撮影した画像をテレビ画面で再生できます。HDMI端子が付いたテレビをお持ちの場合は、市販のHDMIケーブルで接続すると、ハイビジョン画質で楽しめます。

1 カメラの電源をOFFにする

2 カメラとテレビを接続する

付属のオーディオビデオケーブル（AVケーブル）で接続する場合

- AVケーブルの黄色のプラグをテレビの映像入力端子に、赤色と白色のプラグを音声入力端子に接続してください。

市販のHDMIケーブルで接続する場合

- テレビのHDMI入力端子に接続してください。

3 テレビの入力をビデオ入力（外部入力）に切り換える

- 詳しくはお使いのテレビの説明書をご覧ください。

4 カメラの▶ボタンを押し続けて電源をONにする

- カメラは再生モードになり、撮影した画像がテレビに表示されます。
- テレビとの接続中は、カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

HDMI接続についてのご注意

- HDMIケーブルは付属していません。市販のものをご用意ください。カメラのHDMI出力端子は、HDMIミニ端子（Type C）です。HDMIケーブルご購入時は、ケーブルの片方がHDMIミニ端子のものをお選びください。
- HDMI端子が付いたテレビにカメラを接続し、ハイビジョン画質で再生して楽しむには、静止画は［**画像サイズ**］を 3M［**2048×1536**］以上に、動画は［**動画設定**］を 720p［**HD 720p (1280×720)**］にして撮影するようおすすめします。

ケーブル接続時のご注意

- ケーブルは、端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。
- カメラにオーディオビデオケーブルとHDMIケーブルを同時に接続しないでください。
- カメラにHDMIケーブルとUSBケーブルを同時に接続しないでください。

画像がテレビに映らないときは

セットアップメニュー（□167）の［**TV出力設定**］（□183）がお使いのテレビに合っているか確認してください。

パソコンに接続する

付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続すると、撮影した画像をパソコンに保存できます。

カメラとパソコンを接続する前に

ソフトウェアをインストールする

付属のViewNX 2 CD-ROM で、以下のソフトウェアをパソコンにインストールしてください。

- ViewNX 2：画像の転送機能「Nikon Transfer 2」で、撮影した画像をパソコンに取り込めます。取り込んだ画像を表示したり、画像を選んで印刷したりできます。静止画や動画を編集する機能もあります。
- Panorama Maker 5：画像をつなぎ合わせてパノラマ写真を作成できます。

ソフトウェアのインストール方法は、「簡単スタートガイド」をご覧ください。

対応OS（オペレーティングシステム）

Windows

- Windows 7 Home Premium/Professional/Enterprise/Ultimate
- Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimate (Service Pack 2)
- Windows XP Home Edition/Professional (Service Pack 3)

Macintosh

- Mac OS X（version 10.4.11、10.5.8、10.6.4）

ハイビジョン画質の動画再生条件については、ViewNX 2のヘルプの「動作環境」をご覧ください（□160）。

対応OSに関する最新情報は、当社ホームページのサポート情報でご確認ください。

☑ 電源についてのご注意

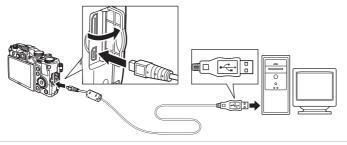
- パソコンと接続して画像を転送するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-5aとパワーコネクター EP-5Aを使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）からこのカメラへ電源を供給できます。EH-5a以外のACアダプターやEP-5A以外のパワーコネクターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

カメラからパソコンに画像を転送する

1 ViewNX 2をインストール済みのパソコンを起動する

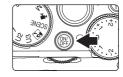
2 カメラの電源をOFFにする

3 付属のUSBケーブルで、カメラとパソコンを接続する

- 端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を外すときも、まっすぐに引き抜いてください。

4 カメラの電源をONにする

- 電源ランプが点灯します。カメラの液晶モニターは消灯したままになります。

USBケーブル接続についてのご注意

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

5 パソコンでViewNX 2の転送機能「Nikon Transfer 2」を起動する

- **Windows 7 の場合：**
  ［**デバイスとプリンター ▶P7000**］画面が表示されたら、［**画像とビデオのインポート**］の下の［**プログラムの変更**］をクリックします。［**プログラムの変更**］ダイアログで［**画像ファイルを取り込む－Nikon Transfer 2 使用**］を選び、［**OK**］をクリックします。
  ［**デバイスとプリンター ▶P7000**］画面で［**画像ファイルを取り込む**］をダブルクリックします。
- **Windows Vista の場合：**
  ［**自動再生**］ダイアログが表示されたら、［**画像ファイルを取り込む－Nikon Transfer 2 使用**］をクリックします。
- **Windows XP の場合：**
  起動するプログラム（ソフトウェア）を選ぶ画面が表示されたら、［**Nikon Transfer 2 画像ファイルを取り込む**］を選び、［**OK**］をクリックします。
- **Mac OS Xの場合：**
  Nikon Transfer 2のインストールで、［**自動起動の設定**］を［**はい**］にした場合は、カメラを接続するとNikon Transfer 2が自動起動します。

- カメラ内のバッテリー残量が少ないときは、パソコンでカメラを認識できず、画像を転送できないことがあります。
- SDカード内に大量の画像があると、Nikon Transfer 2の起動に時間がかかる場合があります。

6 オプションエリアの［**転送元**］パネル内に、接続したカメラ名のデバイスボタンが表示されていることを確認し、［**転送開始**］ボタンをクリックする

- パソコンに転送されていないすべての画像が転送されます（ViewNX 2の初期設定）。
- 転送が終わると、ViewNX 2が自動的に起動します（ViewNX 2の初期設定）。転送した画像を確認できます。

- ViewNX 2の操作方法については、ViewNX 2のヘルプをご覧ください(□160)。

カメラとパソコンの接続を外すときは

- 転送中は、電源をOFFにしたり、カメラとパソコンの接続を外したりしないでください。
- 接続を外すときは、カメラの電源をOFFにしてから、USBケーブルを外してください。

転送に市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットを使う

SD カード内の画像は、市販のカードリーダーやパソコンのカードスロットを使っても、ViewNX 2の転送機能「Nikon Transfer 2」で転送できます。

- カードリーダーなどの機器が、お使いのSDカードに対応しているかご確認ください。
- カードリーダーまたはカードスロットにSD カードを入れ、手順5（□158）以降を参照して、画像を転送してください。
- 内蔵メモリーに記録したデータは、カメラでSDカードにコピーしてから（□131）転送してください。

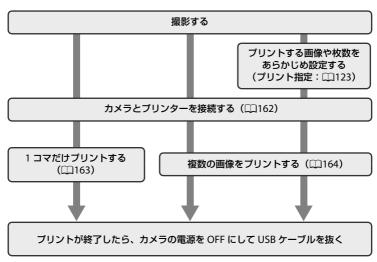
ViewNX 2またはNikon Transfer 2を手動で起動するには

- **Windows** ：［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**ViewNX 2**］→［**ViewNX 2**］の順にクリックします。デスクトップの［**ViewNX 2**］のショートカットアイコンをダブルクリックしても起動できます。
- **Mac OS X** ：［**アプリケーション**］フォルダーを開き、［**Nikon Software**］→［**ViewNX 2**］の順にフォルダーを開き、［**ViewNX 2**］アイコンをダブルクリックします。Dockの［**ViewNX 2**］アイコンをクリックしても起動できます。
- Nikon Transfer 2は、ViewNX 2画面の［**Transfer**］をクリックして起動します。

ViewNX 2またはNikon Transfer 2の詳しい使い方（ヘルプ）を見るには

ViewNX 2またはNikon Transfer 2を起動して、メニューバーの［**ヘルプ**］→［**ViewNX 2ヘルプ**］を選ぶと、ヘルプ画面を表示して詳しい使い方を見ることができます。

パノラマ写真に合成するには（Panorama Maker 5）

- シーンモードの［**パノラマアシスト**］機能（□55）を使って撮影した画像を、Panorama Maker 5を使ってパノラマ写真に合成できます。
- Panorama Maker 5は、付属のViewNX 2 CD-ROMでインストールできます。
- Panorama Maker 5をインストールしたら、以下のように起動します。
  Windows：［**スタート**］から［**すべてのプログラム**］→［**ArcSoft Panorama Maker 5**］→［**Panorama Maker 5**］の順にクリックします。
  Mac OS X：［**アプリケーション**］フォルダーを開き、［**Panorama Maker 5**］をダブルクリックします。
- Panorama Maker 5の使い方は、Panorama Maker 5の操作画面やヘルプをご覧ください。

関連ページ

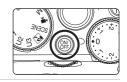
記録データのファイル名とフォルダー名→□203

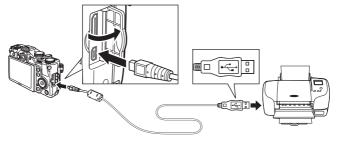
プリンターに接続する

PictBridge（📖220）対応プリンターをお使いの場合は、パソコンを使わずに、カメラとプリンターを直接つないでプリントできます（ダイレクトプリント）。ダイレクトプリントの手順は、以下のとおりです。

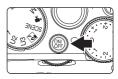
電源についてのご注意

- プリンターと接続するときは、途中で電源が切れないように、充分に残量のあるバッテリーをお使いください。
- 別売のACアダプター EH-5aとパワーコネクター EP-5Aを使うと、家庭用コンセント（AC 100 V）から、このカメラへ電源を供給できます。EH-5a以外のACアダプターやEP-5A以外のパワーコネクターは絶対に使わないでください。カメラの故障、発熱の原因となります。

画像のプリント方法について

SDカードに記録した画像は、パソコンに転送したり、カメラをプリンターに接続してプリントする他に以下の方法でプリントできます。

- カードスロットが付いたDPOF対応プリンターでプリントする。
- プリントサービス店にプリントを依頼する。

これらの方法でプリントするときは、プリントする画像やプリント枚数などを、再生メニューの［**プリント指定**］を使って、あらかじめSDカードに設定できます（📖123）。

カメラとプリンターを接続する

1 カメラの電源をOFFにする

2 プリンターの電源をONにする

- プリンターの設定を確認してください。

3 付属のUSBケーブルで、カメラとプリンターを接続する

- 端子の挿入方向を確認して、無理な力を加えずにまっすぐに差し込んでください。端子を引き抜くときも、まっすぐに引き抜いてください。

4 カメラの電源をONにする

- 正しく接続されると、カメラの液晶モニターに［**PictBridge**］画面（①）が表示された後、［**プリント画像選択**］画面（②）が表示されます。

①

②

関連ページ

画像サイズ1:1の画像をプリントするときのご注意→□72

1コマだけプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（□162）、以下の手順でプリントしてください。

1 ロータリーマルチセレクターでプリントする画像を選び、Ⓚボタンを押す

- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- ズームレバーを**W**（⊞）方向に回すと12コマ表示に、**T**（Q）方向に回すと1コマ表示に切り換わります。

2 ［**プリント枚数設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

3 プリント枚数（9枚まで）を設定し、Ⓚボタンを押す

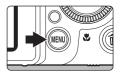
4 ［**用紙設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

5 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

6 ［**プリント実行**］を選び、Ⓚボタンを押す

7 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順1の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

複数の画像をプリントする

カメラとプリンターを正しく接続してから（□162）、以下の手順でプリントしてください。

1 ［**プリント画像選択**］画面が表示されたら、MENUボタンを押す

- ［**プリントメニュー**］画面が表示されます。

2 ロータリーマルチセレクターで［**用紙設定**］を選び、Ⓚボタンを押す

- プリントメニューを終了したいときは、MENUボタンを押します。

3 用紙サイズを選び、Ⓚボタンを押す

- プリンターの設定を優先したいときは、［**プリンターの設定**］を選びます。

4 [プリント選択]、[全画像プリント]または[DPOFプリント]を選んで、Ⓚボタンを押す

プリント選択

プリントする画像(最大99コマまで)と、それぞれのプリント枚数(各9枚まで)を設定できます。

- ロータリーマルチセレクターの ◀▶ を押して画像を選び、▲▼ を押してプリント枚数を設定します。
- コマンドダイヤルを回しても画像を選べます。
- プリントされる画像には、チェックマークとプリント枚数が表示されます。枚数を 0 にすると、その画像の選択を解除できます。
- ズームレバーを **T**(Q)方向に回すと 1 コマ表示に、**W**(▦)方向に回すと12コマ表示に切り換わります。
- 設定が終了したら Ⓚ ボタンを押します。

- 右の画面が表示されたら、[**プリント実行**]を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- [**キャンセル**]を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

全画像プリント

SDカードまたは内蔵メモリー内のすべての画像を1枚ずつプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、[**プリント実行**]を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- [**キャンセル**]を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。

DPOFプリント

［**プリント指定**］（📖123）であらかじめ指定しておいた画像をプリントできます。

- 右の画面が表示されたら、［**プリント実行**］を選び、Ⓚ ボタンを押すと画像のプリントが始まります。
- ［**キャンセル**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、プリントメニューに戻ります。
- ［**画像の確認**］を選んで Ⓚ ボタンを押すと、どの画像をプリント指定したか確認できます。もう一度 Ⓚ ボタンを押すと、画像のプリントが始まります。

5 プリントが始まる

- プリントが終わると、手順2の画面に戻ります。
- プリントを途中で中止したいときは、Ⓚボタンを押します。

プリント中の枚数/総枚数

用紙設定について

用紙設定画面では、［**プリンターの設定**］以外に、［**L サイズ**］、［**2L サイズ**］、［**はがき**］、［**100×150 mm**］、［**4×6 in.**］、［**8×10 in.**］、［**Letter**］、［**A3 サイズ**］、［**A4 サイズ**］のうち、プリンターが対応している用紙サイズを表示します。

セットアップメニューを使う

セットアップメニューで以下の設定ができます。

オープニング画面 169

カメラの電源をONにしたときに、液晶モニターにオープニング画面を表示するかどうかを設定します。

日時設定 170

内蔵時計を合わせます。

モニター設定 173

撮影後の画像表示や画面の明るさ、および液晶モニター点灯時の表示オプションを設定します。

デート写し込み 174

撮影日時を画像に写し込む設定ができます。

手ブレ補正 175

静止画および動画を撮影するときの手ブレ補正を設定します。

モーション検知 176

静止画を撮影するときに被写体ブレや手ブレを軽減する「モーション検知」機能を設定します。

AF補助光 177

AF補助光の点灯/非点灯を設定します。

赤目軽減プリ発光 177

フラッシュモード が赤目軽減自動発光のときの赤目軽減方式を選びます。

電子ズーム 178

電子ズームの動作を設定します。

ズーム速度設定 179

ズームの動作速度を設定します。

操作音 179

操作音について設定します。

縦位置情報の記録 180

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録するかどうかを設定します。

オートパワーオフ 181

節電のために待機状態に入るまでの時間を設定します。

メモリーの初期化/カードの初期化（フォーマット） 182

内蔵メモリー /SDカードを初期化します。

言語/Language 183

画面に表示する言語を設定します。

TV出力設定 183

テレビとの接続に必要な設定をします。

内蔵NDフィルター設定 184

撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3、（ローノイズナイト）のときに、カメラ内蔵のNDフィルターを使って、減光するかどうかを設定します。

AE-L/AF-Lボタン設定 □185

AE-L/AF-Lボタンを押したときの動作を設定します。

Fnボタン設定 □186

Fn（ファンクション）ボタンを押しながらシャッターボタンを押したときの機能を設定します。

Av/Tvボタン設定 □187

Av/Tvボタンを押したときの動作を設定します。

マイメニュー登録 □187

よく使うメニュー項目をマイメニューに登録できます。

連番リセット □188

ファイル番号の連番をリセットします。

目つぶり検出設定 □189

顔認識撮影したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。

設定クリアー □191

各種設定を初期設定に戻します。

バージョン情報 □194

ファームウェアの情報を表示します。

セットアップメニューの表示方法

メニュー画面を表示して、Y（セットアップ）タブに切り換えます。

1 MENU ボタンを押してメニュー画面を表示する

2 ロータリーマルチセレクターの◀を押す

- タブが選べるようになります。
- ロータリーマルチセレクターの使い方→□12

カメラに関する基本設定

3 ▲▼を押して🔧タブを選ぶ

4 ▶または⊛ボタンを押す

- セットアップメニューの項目が選べるようになります。
- メニューの選択と設定には、ロータリーマルチセレクターを使います（□12）。
- セットアップメニューを終了するには、MENU ボタンを押すか、◀を押して他のタブに切り換えます。

オープニング画面

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□168）➔ オープニング画面

カメラの電源をONにしたときに、液晶モニターにオープニング画面を表示するかどうかを設定します。

なし（初期設定）

オープニング画面を表示しないで、撮影または再生画面を表示します。

COOLPIX

オープニング画面を表示してから、撮影または再生画面を表示します。

撮影した画像

撮影した画像をオープニング画面として表示します。画像選択の画面が表示されたら画像を選び（□128）、⊛ボタンを押して登録します。

- 登録した画像はカメラに記憶されるため、元画像を削除しても、オープニング画面に残ります。
- NRW (RAW) 画像は登録できません。
- ［**画像サイズ**］（□70）を 3:2［**3648 × 2432**］、16:9［**3584 × 2016**］、1:1［**2736 × 2736**］にして撮影した画像は登録できません。
- スモールピクチャー（□137）やトリミング（□145）で作成した画像サイズ 160 × 120 以下の画像は登録できません。

カメラに関する基本設定

日時設定

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖168）➔ 日時設定

カメラに内蔵された時計を設定します。

日時

内蔵時計の日付と時刻を設定します。
表示される設定画面で、ロータリーマルチセレクターを使って設定します。

- 項目を選ぶ：▶ または ◀ を押します（[**年**]、[**月**]、[**日**]、[**時**]、[**分**]、[**年月日**]（日付の表示順）に切り換わります）。
- 項目の内容を合わせる：ロータリーマルチセレクターを回すか、▲ または ▼ を押します。
- 設定を完了する：最後に［**年月日**］を選び、Ⓚボタンまたは ▶ を押します（📖21）。

［**年月日**］（**日付の表示順**）

タイムゾーン

自宅（🏠）のタイムゾーン（地域）や夏時間（サマータイム）を設定します。また、訪問先（✈）のタイムゾーンを登録すると、自宅（🏠）との時差（📖172）を自動的に計算し、撮影日時を現地時間で記録できます。海外旅行などに便利です。

時差のある地域で使うには

1 **ロータリーマルチセレクターで［タイムゾーン］を選び、Ⓚボタンを押す**

- ［**タイムゾーン**］画面が表示されます。

2 **✈［訪問先］を選び、Ⓚボタンを押す**

- 訪問先の時計に切り換わります。

3 ▶を押す

- 地域の設定画面が表示されます。

4 ◀または▶を押して訪問先の地域（タイムゾーン）を選ぶ

- 自宅と訪問先の時差が表示されます。
- 夏時間（サマータイム）が現在実施されている地域で使うときは、▲を押して夏時間の設定をオンにします。設定をオンにすると、画面上部に夏時間マークが表示され、時計が1時間進みます。オフにするときは、▼を押します。
- ⓚボタンを押して、訪問先を決定します。
- 訪問先の時計に設定しているときは、撮影時の画面に訪問先マークが表示されます。

時差

時計用電池について

カメラの内蔵時計は、カメラに入れるバッテリーとは別の時計用電池で動いています。カメラにバッテリーを入れるかACアダプターを接続すると、時計用電池が約10時間で充電され、数日間、設定した日時を記憶できます。

⌂（自宅）の設定について

- 自宅のタイムゾーンに戻すには、手順2で⌂［**自宅**］を選び、ⓚボタンを押してください。
- 自宅のタイムゾーンを変更するには、手順2で⌂［**自宅**］を選び、✈［**訪問先**］と同様の手順でタイムゾーンを変更してください。

夏時間の設定について

夏時間（サマータイム）が始まったときや終わったときは、手順4の地域設定画面で、夏時間のオンとオフを切り換えてください。

撮影時に日付を画像に写し込むには

日時を設定した後に、セットアップメニューの［**デート写し込み**］（□174）で設定します。［**デート写し込み**］を設定して撮影すると、撮影日時を画像に写し込んで記録できます。

タイムゾーンについて

時差とタイムゾーンの関係は以下の表をご覧ください。
この表にない時差は、正しい時刻を［**日時設定**］で合わせてください。

時差 +/–	タイムゾーン	時差 +/–	タイムゾーン
–20	Midway, Samoa（ミッドウェー、サモア）	–8	Madrid, Paris, Berlin（マドリード、パリ、ベルリン）
–19	Hawaii, Tahiti（ハワイ、タヒチ）	–7	Athens, Helsinki, Ankara（アテネ、ヘルシンキ、アンカラ）
–18	Alaska, Anchorage（アラスカ、アンカレッジ）	–6	Moscow, Nairobi, Riyadh, Kuwait, Manama（モスクワ、ナイロビ、リヤド、クウェート、マナマ）
–17	PST (PDT): Los Angeles, Seattle, Vancouver（ロサンゼルス、シアトル、バンクーバー）	–5	Abu Dhabi, Dubai（アブダビ、ドバイ）
–16	MST (MDT): Denver, Phoenix（デンバー、フェニックス）	–4	Islamabad, Karachi（イスラマバード、カラチ）
–15	CST (CDT): Chicago, Houston, Mexico City（シカゴ、ヒューストン、メキシコシティー）	–3.5	New Delhi（ニューデリー）
–14	EST (EDT): New York, Toronto, Lima（ニューヨーク、トロント、リマ）	–3	Colombo, Dhaka（コロンボ、ダッカ）
–13.5	Caracas（カラカス）	–2	Bangkok, Jakarta（バンコク、ジャカルタ）
–13	Manaus（マナウス）	–1	Beijing, Hong Kong, Singapore（北京、香港、シンガポール）
–12	Buenos Aires, Sao Paulo（ブエノスアイレス、サンパウロ）	±0	Tokyo, Seoul（東京、ソウル）
–11	Fernando de Noronha（フェルナンド・デ・ノローニャ）	+1	Sydney, Guam（シドニー、グアム）
–10	Azores（アゾレス）	+2	New Caledonia（ニューカレドニア）
–9	London, Casablanca（ロンドン、カサブランカ）	+3	Auckland, Fiji（オークランド、フィジー）

モニター設定

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□168）➔ モニター設定

以下の項目を設定します。

撮影後の画像表示

［**ON**］（初期設定）：撮影直後に、撮影した画像を表示してから撮影画面に戻ります。

［**OFF**］：撮影直後に、撮影した画像を表示しません。

［**ピント位置拡大表示**］：撮影直後に、撮影した画像を表示してから撮影画面に戻ります。ピント合わせを行ったエリアに、その部分の拡大画像が表示されます。

画面の明るさ

画面の明るさを5段階で調節できます。初期設定は［**3**］です。

モニター表示設定

撮影時の液晶モニターに表示する表示オプションを設定します。液晶モニターの表示（□14）が［**情報ON**］のときと［**情報OFF**］のときのそれぞれで表示オプションを設定できます。初期設定はすべて非表示（オフ）です。

- 表示 / 非表示の選択は、ロータリーマルチセレクターでオプションを選び、Ⓚ ボタンを押してチェックボックスのオン［✔］/ オフを切り換えます。
- 設定が完了したら、［**決定**］を選び、Ⓚ ボタンを押します。

水準器表示

カメラが水平になっているか確認するための水準器を表示します。
カメラが水平や垂直になると、水準器表示の横線が緑色になります。

ヒストグラム表示

画像の明るさの分布を表すグラフを表示します。横軸は輝度を示し、左へ行くほど暗くなり、右へ行くほど明るくなります。縦軸は画素数を示します。

方眼表示

構図を決めるための格子状のガイドを表示します。

✔ モニター表示設定についてのご注意

- オート撮影モード、シーンモードまたはローノイズナイトモードのときは、表示オプションは表示されません。動画モードのときは、方眼表示のみ表示されます。
- 撮影モードU1、U2またはU3の場合、セットアップメニューの［**モニター表示設定**］では、設定ができません。U1、U2またはU3のタブを選び、U1/U2/U3専用メニューの［**モニター表示設定**］で設定してください（□13、112）。

デート写し込み（日付の写し込み）

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□168）➔ デート写し込み

撮影時に日時を画像に写し込んで記録できます。日付の印字（□125）に対応していないプリンターでも日付入りの画像をプリントできます。

年・月・日

画像に日付を写し込みます。

年・月・日・時刻

画像に日付と時刻を写し込みます。

OFF**（初期設定）**

日付、時刻のどちらも写し込みません。

デート写し込みの設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

デート写し込みについてのご注意

- 一度写し込まれた日時を画像から消したり、撮影した後で日時を写し込むことはできません。
- 以下の場合は日時を写し込めません。
  - シーンモードを［**スポーツ**］、［**ミュージアム**］または［**パノラマアシスト**］にしたとき
  - ［**連写**］の設定（□99）が［**連写**］、［**BSS**］または［**フラッシュ連写**］のとき
  - ［**ブラケティング**］（□80）を使うとき
  - 動画撮影のとき
  - ［**画質**］（□68）が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のとき
- ［**画像サイズ**］（□70）が VGA［**640×480**］の画像にデート写し込みを行うと、写し込んだ日付が読みづらいことがあります。画像サイズは PC［**1024×768**］以上に設定してください。
- 年月日の並びは、［**日時設定**］（□20、170）での設定と同じになります。

「デート写し込み」と「プリント指定」について

日付や撮影情報の印刷が可能なDPOF対応のプリンターでプリントするときは、［**デート写し込み**］で日時を写し込んでいない画像でも、［**プリント指定**］（□123）で撮影日時や撮影情報をプリントするように設定できます。

手ブレ補正

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□168）➔ 手ブレ補正

静止画および動画を撮影するときの手ブレ補正を設定します。望遠側での撮影やスローシャッターでの撮影時に起こりがちな手ブレを補正します。
三脚などでカメラを固定して撮影するときは、手ブレ補正を［**OFF**］にしてください。

ON（初期設定）

手ブレを補正します。また、流し撮りでは、カメラが流し撮りの方向を自動的に検出し、手ブレによる揺れのみを補正します。
たとえば、横方向に流し撮りするときには縦方向の手ブレだけが、縦方向に流し撮りするときには横方向の手ブレだけが補正されます。

OFF

手ブレ補正をしません。

手ブレ補正の設定は、撮影時の画面で確認できます（□6、25）。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

手ブレ補正についてのご注意

- カメラの電源をONにした直後、または再生モードから撮影モードに切り換えた直後は、液晶モニターの画像が安定してから撮影してください。
- 手ブレ補正の原理上、撮影直後に液晶モニターの画像がずれて見えることがあります。
- 手ブレ補正機能を設定しても、撮影状況によっては手ブレを完全に補正できないことがあります。

モーション検知

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□168）➔ モーション検知

静止画を撮影するときに被写体ブレや手ブレを軽減する「モーション検知」機能を設定します。

AUTO

カメラが被写体の動きや手ブレを検知すると、ブレを軽減するためにISO感度を上げてシャッタースピードを速くします。
ただし、以下の場合はモーション検知は作動しません。

- フラッシュが強制発光のとき
- 以下のシーンモードのとき
  - ［**スポーツ**］
  - ［**夜景ポートレート**］
  - ［**トワイライト**］
  - ［**夜景**］
  - ［**ミュージアム**］
  - ［**打ち上げ花火**］
  - ［**逆光**］
- 撮影モードが P、S、A、M、U1、U2、U3、ローノイズナイト（ローノイズナイト）のとき
- 笑顔自動シャッターのとき
- AF エリア選択が［**ターゲット追尾**］のとき

OFF（初期設定）

モーション検知をしません。

モーション検知の設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。
カメラがブレを検知してシャッタースピードを速くしたときは、モーション検知表示は緑色に変わります。［**OFF**］のときは、何も表示されません。

モーション検知についてのご注意

- モーション検知を設定しても、撮影状況によっては手ブレや被写体ブレを完全に軽減できないことがあります。
- 極端にブレているときや暗すぎるときは、モーション検知が作動しないことがあります。
- 撮影した画像が多少ざらつくことがあります。

AF補助光

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖168）➔ AF補助光

暗い場所などでオートフォーカスによるピント合わせを補助するAF補助光の点灯/非点灯を設定します。

AUTO（初期設定）

暗い場所などで自動的にAF補助光が点灯します。AF補助光が届く距離は、広角側で約6.5 m、望遠側で約5.5 mです。ただし、［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置やシーンモードによっては点灯しない場合があります。

OFF

AF補助光は点灯しません。暗い場所などでピントが合いにくくなることがあります。

✔ AF補助光についてのご注意

撮影モードU1、U2またはU3の場合、セットアップメニューの［**AF補助光**］では、設定ができません。U1、U2またはU3のタブを選び、U1/U2/U3専用メニューの［**AF補助光**］で設定してください（📖13、112）。

赤目軽減プリ発光

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖168）➔ 赤目軽減プリ発光

フラッシュモード（📖32）が⚡◎（赤目軽減自動発光）のときの赤目軽減方式を選びます。

ON（初期設定）

フラッシュが本発光する前に、小光量で数回発光する「プリ発光」で赤目現象の発生を軽減してから、画像補正による赤目軽減処理をします。
シャッターボタンを押してから、シャッターがきれるまでに、通常よりも時間がかかります。

OFF

プリ発光しません。シャッターボタンの全押しですぐにシャッターをきり、画像補正による赤目軽減処理をします。

電子ズーム

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□168）➔ 電子ズーム

電子ズームの動作を設定します。

ON（初期設定）
光学ズームが最も望遠側にある状態でズームレバーを**T**（Q）方向に回すと、電子ズーム（□27）が作動します。
クロップ
ズーム倍率をズーム表示の凸マークの位置までに制限します（動画撮影中を除く）。撮影する静止画の画質が電子ズームで劣化しない範囲にズーム倍率を制限します。 画像サイズが［**3648×2736**］、［**3264×2448**］、［**3648×2432**］、［**3584×2016**］、［**2736×2736**］のときは、電子ズームが使えません。
OFF
電子ズームは作動しません（動画撮影中を除く）。

電子ズームについてのご注意

- 電子ズームの作動中はAFエリア（□84）が［**中央 (スポット)**］に固定されます。
- 以下の場合は電子ズームは使えません。
  - フォーカスモード（□40）がMF（マニュアルフォーカス）のとき
  - AFエリア選択（□84）が［**ターゲット追尾**］のとき
  - 笑顔自動シャッターのとき
  - シーンモードが［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］のとき
  - ［**画質**］（□68）が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のとき
  - ［**連写**］（□99）の設定が［**マルチ連写**］のとき
  - ［**ワイドコンバーター**］（□104）が［**ON**］のとき
- 電子ズームが1.2～1.8倍のときには、［**測光方式**］は［**中央部重点**］に、2.0～4.0倍のときには［**スポット**］になります。

ズーム速度設定

MENU ボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□168）➔ ズーム速度設定

ズームの動作速度を設定します。ズーム速度を遅くすると、動画撮影時にズームの動作音が録音されにくくなります。

オート（初期設定）

静止画撮影時は、［**標準**］の速度でズームが動作します。
動画撮影時は、［**標準**］よりも遅い速度でズームが動作し、ズームの動作音が録音されにくくなります。静止画撮影時は、ズームレバーをいっぱいまで回すとズーム動作が速くなり、途中まで回すとズーム動作がゆっくりになります。

標準

静止画撮影時も動画撮影時も、標準の速度でズームが動作します。静止画撮影時も動画撮影時も、ズームレバーをいっぱいまで回すとズーム動作が速くなり、途中まで回すとズーム動作がゆっくりになります。

静音

静止画撮影時も動画撮影時も、［**標準**］よりも遅い速度でズームが動作します。

ズーム速度の設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**オート**］のときは、何も表示されません。

操作音

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□168）➔ 操作音

操作音について設定します。

設定音

設定音（電子音1回：設定完了時など）、合焦音（電子音2回：ピントが合ったとき）、警告音（電子音3回：禁止動作を行ったときなど）およびオープニング音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。

シャッター音

シャッターをきったときのシャッター音の［**ON**］（初期設定）/［**OFF**］を設定します。

- 連写時または動画の撮影時は、［**ON**］に設定しても、シャッター音は鳴りません。

縦位置情報の記録

MENU ボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□168）➔ 縦位置情報の記録

撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録するかどうかを設定します。

AUTO（初期設定）

撮影時に画像に縦横位置情報を記録します。画像を再生するときに、記録した縦横位置情報を利用して、自動的に画像を回転して表示します。
記録されるカメラの縦横位置情報は、以下の3 種類です。

横位置

左側が上の縦位置

右側が上の縦位置

OFF

縦横位置情報は記録されず、常に横位置で表示されます。

撮影後の画像は再生メニューの［**画像回転**］で縦横位置情報を変更できます（□130）。

縦横位置情報の記録についてのご注意

- 連写やブラケティングのときは、最初の1 コマと同じ縦横位置情報がすべてのコマに記録されます。
- カメラを上や下に向けて撮影すると、縦横位置情報が正しく得られない場合があります。

オートパワーオフ

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖168）➔ オートパワーオフ

電源をONにしたまま、カメラを操作しない状態が続くと、節電のために液晶モニターが消灯して待機状態になります（📖19）。
このメニューでは、待機状態になるまでの時間を設定します。
［**30 秒**］、［**1 分**］（初期設定）、［**5 分**］、［**30 分**］から選べます。

節電により液晶モニターが消灯したときは

- 待機状態では、電源ランプが点滅します。
- 待機状態が約3分続くと電源はOFFになります。
- 電源ランプの点滅中は、以下の操作で液晶モニターが再点灯します。
  - 電源スイッチ、シャッターボタン、または▶ボタンを押す。
  - モードダイヤルを回す。

オートパワーオフの設定について

以下の場合、待機状態に入るまでの時間は固定です。

- メニュー表示中：3分
- トーンレベルインフォメーション表示中：3分
- スライドショー再生中：最大30分
- ACアダプター EH-5a接続中：30分

メモリー /カードの初期化（フォーマット）

MENUボタンを押す ➔ Ｙ（セットアップメニュー）（□168）
➔ メモリーの初期化/カードの初期化

内蔵メモリーまたはSDカードを初期化（フォーマット）します。

内蔵メモリーの初期化

内蔵メモリーを初期化するときは、SDカードを取り出してください。セットアップメニューの項目に［**メモリーの初期化**］が表示されます。

SDカードの初期化

SDカードをカメラに入れると、SDカードを初期化できます。セットアップメニューの項目に［**カードの初期化**］が表示されます。

初期化についてのご注意

- **内蔵メモリー/SDカードを初期化すると、内蔵メモリー/SDカード内のデータはすべて削除されます。**必要なデータは初期化する前にパソコンなどに転送してください。
- 初期化中は、電源をOFFにしたり、バッテリー/SDカードカバーを開けたりしないでください。
- 他の機器で使ったSDカードをこのカメラではじめて使うときは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。

言語/Language

MENUボタンを押す ➔ Ỹ（セットアップメニュー）（□168）➔ 言語/Language

画面に表示する言語を、日本語（初期設定）または英語に設定します。

TV出力設定

MENUボタンを押す ➔ Ỹ（セットアップメニュー）（□168）➔ TV出力設定

テレビとの接続に必要な設定を行います。

ビデオ出力

ビデオの出力方式を［**NTSC**］と［**PAL**］から選べます。
［**NTSC**］と［**PAL**］はいずれも、アナログカラーテレビ放送の規格です。日本ではNTSC方式が、欧州ではPAL方式が主流です。

HDMI

HDMI出力時の画像の解像度を［**オート**］（初期設定）、［**480p**］、［**720p**］または［**1080i**］から選べます。［**オート**］にすると、接続するハイビジョンテレビに対応した解像度を［**480p**］、［**720p**］または［**1080i**］から自動で選んで出力します。

HDMI 機器制御

HDMI-CEC規格対応のテレビにHDMIケーブルで接続したときに、テレビからの信号を受信するかどうかを設定します。
［**ON**］（初期設定）にすると、カメラのロータリーマルチセレクターやズームレバーのかわりにテレビのリモコンを使って再生中の操作ができます。画像の選択や動画の再生/停止、1コマ表示と4コマのサムネイル表示の切り換えができます。

- お使いのテレビが HDMI-CEC 規格 に対応しているかどうかは、テレビの説明書などでご確認ください。

HDMI、HDMI-CECとは

「HDMI」とは、High-Definition Multimedia Interfaceの略で、マルチメディアインターフェースのひとつです。
「HDMI-CEC」とは、HDMI-Consumer Electronics Controlの略で、対応機器間での連携動作を可能にします。

内蔵ND フィルター設定

MENU ボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□168）➔ 内蔵NDフィルター設定

カメラ内蔵のNDフィルターを使うと、撮影時にカメラに入る光量を3段分、減光できます。被写体が明るすぎて露出オーバーになるときなどに使います。
以下の撮影モードのときに、内蔵NDフィルターを使って減光するかどうかを設定します。

- （ローノイズナイト）モード
- P、S、A、Mモード（U1、U2、U3モード時を含む）

上記以外の撮影モードの場合、内蔵NDフィルターのON/OFFは、［**内蔵NDフィルター設定**］の設定にかかわらず、撮影モードや撮影状況によって自動制御されます。

ON

NDフィルターを使って減光します。

AUTO

（ローノイズナイト）およびP（プログラムオート）モードのときに、被写体が明るすぎて露出連動範囲を超える場合、自動的にNDフィルターを使って減光します。

- 撮影モードS、A、Mのときは、設定していても［**OFF**］になります。

OFF（初期設定）

NDフィルターを使いません。

内蔵NDフィルターの設定は、撮影時の画面で確認できます（□6）。［**OFF**］のとき、（オート撮影）、シーン、動画モードのときは、何も表示されません。

内蔵NDフィルターの効果

明るすぎる被写体を露出オーバーにならずに撮影できることがあります。小さい絞り値でシャッタースピードをより遅くしたいときなどにも使えます。
例えば、シャッタースピードが1/2000秒で適正露出のときにNDフィルターで3段減光すると、絞り値を変えず1/250秒に変えることができます。

AE-L/AF-L ボタン設定

MENU ボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖168）➔ AE-L/AF-Lボタン設定

静止画撮影時、AE-L/AF-Lボタン（📖11）を押したときの動作を設定します。

AE-L/AF-L（初期設定）

撮影時にAE-L/AF-Lボタンを押すと、ピントと露出の両方を固定します。

AE-L

撮影時にAE-L/AF-Lボタンを押すと、露出のみを固定します。

AF-L

撮影時にAE-L/AF-Lボタンを押すと、ピントのみを固定します。

AE-L/AF-Lボタンの設定は、撮影時の画面で確認できます（📖6）。

AE-L/AF-Lボタン設定についてのご注意

- 撮影モードMのときは、AE-L（露出の固定）は使えません。
- フォーカスモード（📖40）がMF（マニュアルフォーカス）のときは、AF-L（ピントの固定）は使えません。

関連ページ

フォーカスロック撮影 → 📖29

Fn ボタン設定

MENU ボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□168）➔ Fnボタン設定

Fn（ファンクション）ボタン（□11）を押しながらシャッターボタンを押したときの機能を設定します。

・ 撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3のときに使えます。

OFF（初期設定）

設定を変更しないで撮影します。

NRW (RAW)/NORMAL（画質）（□68）

［**FINE**］、［**NORMAL**］、［**BASIC**］に設定されているときは、［**NRW (RAW)**］の設定で撮影します。［**NRW (RAW)**］に設定されているときは、［**NORMAL**］の設定で撮影します。

- 画像サイズは、［**3648 × 2736**］になります。
- ［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］、［**NRW (RAW) + BASIC**］のときは、設定を変更しないで撮影します。

ISO感度設定（□74）

［**ISO感度設定**］を［**オート**］の設定で撮影します。

ホワイトバランス（□76）

ホワイトバランスを［**オート**］の設定で撮影します。

- ［**Picture Control**］が［**モノクローム**］のときは、使えません。

Picture Control（□92）

Picture Controlを［**スタンダード**］の設定で撮影します。

Active D-ライティング（□106）

Active D-ライティングを［**標準**］の設定で撮影します。

測光方式（□98）

測光方式を［**スポット**］の設定で撮影します。

Av/Tv ボタン設定

MENU ボタンを押す ➔ 𝐘（セットアップメニュー）（□168）➔ Av/Tvボタン設定

Av/Tv ボタン（□9）を押したときの動作を設定します。

Av/Tv操作切り換え（初期設定）

シャッタースピードまたは絞り値の設定方法を切り換えます。Av/Tvボタンを押すたびに、コマンドダイヤルまたはロータリーマルチセレクターのどちらを使って操作するかを切り換えます（□63、64、65）。
- 撮影モードが P、S、A、M、U1、U2、U3 のときのみ有効です。

水準器表示、ヒストグラム表示、方眼表示

撮影時の液晶モニターに表示する水準器、ヒストグラムまたは方眼（□173）の表示/非表示を切り換えます。

内蔵NDフィルター設定

内蔵ND フィルター（□184）の設定を切り換えます。

マイメニュー登録

MENU ボタンを押す ➔ 𝐘（セットアップメニュー）（□168）➔ マイメニュー登録

よく使うメニュー項目をマイメニューに登録できます（最大6項目）。マイメニューは、クイックメニューダイヤルを My に合わせてクイックメニューボタンを押すと呼び出せ、すぐに設定内容の確認と変更ができます（撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3のときのみ）。
登録できる項目は以下のとおりです。

Picture Control（□92）	発光切り換え（□105）	手ブレ補正（□175）
Custom Picture Control（□96）	ノイズ低減フィルター（□103）	電子ズーム（□178）
測光方式（□98）	長秒時ノイズ低減（□103）	メモリーの初期化/カードの初期化（□182）
連写（□99）	ゆがみ補正（□104）	内蔵NDフィルター設定（□184）
AFモード（□102）	ワイドコンバーター（□104）	ー（なし）（解除）※
調光補正（□102）	Active D-ライティング（□106）	

※ マイメニューから登録をはずすときに選びます。

マイメニューの登録方法

1 ロータリーマルチセレクターで変更したいメニュー項目を選び、ⓄⓀボタンを押す

- メニュー項目選択画面が表示されます。

2 登録するメニュー項目を選び、ⓄⓀボタンを押す

- 選んだメニュー項目に入れ換わります。
- 設定を終了するには、ロータリーマルチセレクターの◀を押します。

連番リセット

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）(□168) ➔ 連番リセット

［**はい**］を選ぶと、ファイル番号の連番（□203）をリセットします。リセットすると新しい記録フォルダーが作られ、次に撮影する画像の連番は、「0001」から始まります。

連番リセットのご注意

- シーンモードが［**パノラマアシスト**］のとき、または撮影モードがP、S、A、M、U1、U2、U3で、［**連写**］の設定が［**インターバル撮影**］のときは［**連番リセット**］ができません。［**パノラマアシスト**］または［**インターバル撮影**］では、撮影のたびに新しいフォルダーが作られ、ファイル番号「0001」から始まる一連の画像が保存されます（□203、204）。
- フォルダー番号が999に達し、そのフォルダー内にファイルがあるときは、［**連番リセット**］ができません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（□182）する必要があります。

目つぶり検出設定

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（📖168）➔ 目つぶり検出設定

以下の撮影モードで顔認識撮影（📖86）したときに、目つぶりを検出するかどうかを設定します。

- シーンモードの［**おまかせシーン**］（📖46）、［**ポートレート**］（📖48）または［**夜景ポートレート**］（📖49）
- 撮影モードP、S、A、M、U1、U2、U3、🌙（ローノイズナイト）（AFエリア選択が［**顔認識オート**］（📖84）のとき）

ON

顔認識して撮影した直後に、被写体の人物が目を閉じて写っている可能性があるとカメラが検出したときは、液晶モニターに［**目つぶり確認**］画面を表示します。
目を閉じて写っている可能性のある人物の顔が黄色い枠で囲まれます。撮影した画像を見て、撮り直すかどうかを確認できます。
→「［**目つぶり確認**］画面の操作方法」（📖190）

OFF（初期設定）

目つぶり検出をしません。

✔ 目つぶり検出設定についてのご注意

［**連写**］（📖99）の設定が［**単写**］以外のとき、［**ブラケティング**］（📖80）を設定しているとき、または笑顔自動シャッター（📖36）のときは、目つぶり検出をしません。

[目つぶり確認] 画面の操作方法

[**目つぶり確認**] 画面が表示されたときは、以下の操作ができます。
何も操作しないまま数秒経過すると、自動的に撮影画面に戻ります。

機能	ボタン	内容
目つぶり検出した顔を拡大表示する	**T**（Q）	ズームレバーを**T**（Q）方向に回します。
1コマ表示に戻る	**W**（▦）	ズームレバーを**W**（▦）方向に回します。
表示する顔を切り換える	(OK) / (コマンドダイヤル)	複数の人物の目つぶりを検出した場合、拡大表示中に▲▼◀ ▶を押すと、拡大表示する顔が切り換わります。 ロータリーマルチセレクターまたはコマンドダイヤルを回しても切り換わります。
撮影した画像を削除する	🗑	🗑ボタンを押します。
撮影画面に戻る	OK / (シャッターボタン)	OK ボタンまたはシャッターボタンを押します。

設定クリアー

MENUボタンを押す ➔ 🔧（セットアップメニュー）（□168）➔ 設定クリアー

［**はい**］を選ぶと、カメラの設定が初期設定にリセットされます。

撮影の基本機能

項目	初期設定
フラッシュモード（□32）	自動発光
セルフタイマー（□35）/リモコン（□38）/笑顔自動シャッター（□36）	OFF
フォーカスモード（□40）	通常AF
AFエリア選択（□84）	オート

シーンモード

項目	初期設定
シーンメニュー（□45）	おまかせシーン
料理モードの色合い（□53）	中央

ローノイズナイトメニュー

項目	初期設定
測光方式（□59）	マルチパターン
連写（□59）	単写
調光補正（□59）	0.0

動画メニュー

項目	初期設定
AFモード（□150）	シングルAF
風切り音低減（□150）	OFF

クイックメニュー

項目	初期設定
画質（□68）	NORMAL
画像サイズ（□70）	10M 3648×2736
動画設定（□148）	HD 720p (1280×720)
ISO感度設定（□74）	オート
低速限界設定（□74）	OFF
ホワイトバランス（□76）	オート
ブラケティング（□80）	OFF

撮影メニュー

項目	初期設定
Picture Control（□92）	スタンダード
測光方式（□98）	マルチパターン
連写（□99）	単写
インターバル撮影（□100）	30 秒
AFモード（□102）	シングルAF
調光補正（□102）	0.0
ノイズ低減フィルター（□103）	標準
長秒時ノイズ低減（□103）	AUTO
ゆがみ補正（□104）	OFF
ワイドコンバーター（□104）	OFF
発光切り換え（□105）	オート
Active D-ライティング（□106）	OFF
ズームメモリー（□107）	全項目を選択

セットアップメニュー

項目	初期設定
オープニング画面（□169）	なし
撮影後の画像表示（□173）	ON
画面の明るさ（□173）	3
モニター表示設定（□173）	全項目を非表示
デート写し込み（□174）	OFF
手ブレ補正（□175）	ON
モーション検知（□176）	OFF
AF補助光（□177）	AUTO
赤目軽減プリ発光（□177）	ON
電子ズーム（□178）	ON
ズーム速度設定（□179）	オート
設定音（□179）	ON
シャッター音（□179）	ON
縦位置情報の記録（□180）	AUTO
オートパワーオフ（□181）	1 分
HDMI（□183）	オート
HDMI 機器制御（□183）	ON
内蔵NDフィルター設定（□184）	OFF
AE-L/AF-Lボタン設定（□185）	AE-L/AF-L
Fnボタン設定（□186）	OFF
Av/Tvボタン設定（□187）	Av/Tv操作切り換え
マイメニュー登録（□187）	1：Picture Control 2：Active D-ライティング 3：ゆがみ補正 4：測光方式 5：連写 6：AFモード
目つぶり検出設定（□189）	OFF

その他

項目	初期設定
用紙設定（□163、164）	プリンターの設定
スライドショーのインターバル設定（□126）	3 秒

- ［**設定クリアー**］を行うと、ファイル番号の連番（□203）もクリアーされます。クリアー後に撮影した画像には、内蔵メモリー /SD カード内の最大ファイル番号の次の番号から連番が付けられます。内蔵メモリー/SDカード内の画像をすべて削除（□127）してから、［**設定クリアー**］をすると、次に撮影する画像の連番は「0001」から始まります。
- 以下の項目は、［**設定クリアー**］を行っても初期設定には戻りません。
  クイックメニュー：［**ホワイトバランス**］のプリセットマニュアルデータ（□79）
  撮影メニュー：［**Custom Picture Control**］の登録（□96）
  セットアップメニュー：［**日時設定**］（□170）、［**言語/Language**］（□183）、［**TV出力設定**］の［**ビデオ出力**］（□183）
- モードダイヤルU1、U2、U3に登録したユーザーセッティングの内容は、［**設定クリアー**］では初期設定に戻りません。［**User Setting リセット**］（□114）で初期設定に戻してください。

バージョン情報

MENUボタンを押す ➔ Y（セットアップメニュー）（□168）➔ バージョン情報

カメラのファームウェアのバージョン情報を表示します。

カメラに関する基本設定

カメラのお手入れ方法

クリーニングについて

レンズ/ファインダー

レンズやファインダーのガラス部分をクリーニングするときは、手で直接触らないように注意してください。ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。ブロアーで落ちない指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布などでガラス部分の中央から外側にゆっくりと円を描くように拭き取ってください。汚れが取れないときは、乾いた柔らかい布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭いてください。硬いもので拭くと傷が付くことがありますのでご注意ください。

液晶モニター

ゴミやホコリはブロアーで吹き払ってください。指紋や油脂などの汚れは、乾いた柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。強く拭くと破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

カメラボディー

ゴミやホコリをブロアーで吹き払い、乾いた柔らかい布などで軽く拭いてください。海辺などでカメラを使った後は、真水で湿らせてよく絞った柔らかい布で砂や塩分を軽く拭き取った後、よく乾かしてください。
ご注意：カメラ内部にゴミ、ホコリや砂などが入りこむと故障の原因となります。この場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

アルコール、シンナーなど揮発性の薬品はお使いにならないでください。

保管について

長期間カメラをお使いにならないときは、バッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出す前に、電源がOFFになっていることをご確認ください。以下の場所にカメラを保管しないようにご注意ください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の近辺
- 温度が50 ℃以上、または－10 ℃以下の場所
- 湿度が60 %を超える場所

取り扱い上のご注意

カメラについて

● 強いショックを与えないでください
カメラを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。故障の原因になります。また、レンズに触れたり、無理な力を加えたりしないでください。

● 水に濡らさないでください
カメラは水に濡らさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

● 急激な温度変化を与えないでください
極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴が生じ、故障の原因となります。カメラをバックやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

● 強い電波や磁気を発生する場所で撮影しないでください
強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、カメラが正常に機能しないことがあります。

● 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください
太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼き付きを起こすおそれがあります。また、その際撮影された画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

● 保管する際には
カメラを長期間お使いにならないときは、必ずバッテリーを取り出してください。また、カビや故障を防ぎ、カメラを長期にわたってお使いいただけるように、月に一度を目安にバッテリーを入れ、カメラを操作することをおすすめします。

● バッテリーやACアダプターを取り外すときは必ず電源をOFFにしてください
電源がONの状態で、バッテリーやACアダプターを取り外すと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

● 液晶モニターについて
- 液晶モニターの特性上、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがありますが、故障ではありません。あらかじめご了承ください。記録される画像には影響はありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニターが見えにくいことがあります。
- 液晶モニター表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニターの故障やトラブルの原因になります。ホコリやゴミなどが付着したときは、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革などで軽く拭き取ってください。万一、液晶モニターが破損した場合は、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますので充分ご注意ください。また、中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。

● スミアについて
明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニターに白色または色のついた光の帯が現れることがあります。この現象は、撮像素子に強い光が入ったときに発生し、「スミア」といいます。撮像素子の特性による現象で故障ではありません。また、スミアの影響で液晶モニターに色ムラが現れることもあります。マルチ連写と動画以外の撮影では、記録される画像にスミアの影響はありません。マルチ連写と動画の撮影では、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。

バッテリーについて

● 使用上のご注意

・ 長時間お使いになったバッテリーは、発熱していることがあるのでご注意ください。
・ 周囲の温度が 0〜40 ℃ の範囲を超える場所ではお使いにならないでください。バッテリーの性能劣化や故障の原因となります。
・ 万一、異常に熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止して、ご購入店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
・ カメラやバッテリーチャージャーから取り外したときは、必ず付属の端子カバーを付けてください。

● 充電について

撮影の前に、充電してください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されておりませんので、ご注意ください。

・ 周囲の温度が 5〜35 ℃ の室内で充電してください。
・ バッテリーの温度が 0〜10 ℃ 、45〜60 ℃のときは、充電できる容量が少なくなることがあります。バッテリーの温度が 0 ℃ 以下、60 ℃ 以上のときは、充電をしません。
・ 充電が完了したバッテリーを、続けて再充電しないでください。バッテリー性能が劣化します。
・ 充電直後にバッテリーの温度が上がることがありますが、性能その他に異常はありません。
・ カメラの使用直後など、バッテリー内部の温度が高くなっているときは、バッテリーの温度が下がるのを待ってから充電してください。バッテリー内部の温度が高い状態では、充電ができなかったり、不完全な充電になるばかりでなく、バッテリーの性能が劣化する原因となります。

● 予備バッテリーを用意する

撮影の際は、予備バッテリーをご用意ください。特に、日本国外の地域によっては入手が困難な場合がありますので、ご注意ください。

● 低温時のバッテリーについて

バッテリーは一般的な特性として、低温時には性能が低下します。低温時にお使いになるときは、バッテリーおよびカメラを冷やさないようにしてください。

● 低温時には容量の充分なバッテリーを使い、予備のバッテリーを用意する

消耗したバッテリーを低温時に使うと、カメラが作動しないことがあります。低温時の撮影には充分に充電したバッテリーと予備のバッテリーを用意してください。予備のバッテリーは保温し、交互にあたためながらお使いください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使える場合があります。

● バッテリー接点について

バッテリーの接点が汚れると、接触不良でカメラが作動しなくなることがありますので、ご注意ください。汚れた接点は、乾いた布できれいに拭いてからお使いください。

● 残量について

残量のなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源スイッチのON/OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。残量がなくなったバッテリーは、充電してからお使いください。

● 保管について

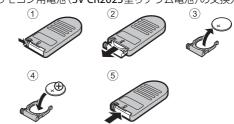
- バッテリーをお使いにならないときは、必ずカメラやバッテリーチャージャーから取り出してください。カメラやバッテリーチャージャーに取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微小電流が流れ続けることで過放電になり、使えなくなるおそれがあります。
- バッテリーは、長期間使わないときでも必ず半年に1回は充電し、使い切った状態で保管してください。
- バッテリーは付属の端子カバーを付けて、涼しい場所で保管してください。周囲の温度が15～25 ℃くらいの乾燥したところをおすすめします。暑いところや極端に寒いところは避けてください。

● 寿命について

充分に充電したにもかかわらず、バッテリーの使用期間が極端に短くなってきたときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

● リサイクルについて

充電を繰り返して劣化し、使えなくなったバッテリーは、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。接点部にテープなどを貼り付けて絶縁してから、ニコンサービス機関やリサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion 00

数字の有無と数値は電池によって異なります。

別売アクセサリー

充電式バッテリー	Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL14
充電器	バッテリーチャージャー MH-24[※1]
ACアダプター / パワーコネクター	ACアダプター EH-5a[※2]とパワーコネクター EP-5A パワーコネクターをカメラに入れて、ACアダプターをつなぐとカメラに電源を供給できます。 ACアダプターとパワーコネクターは、それぞれ別売です。 ＜EP-5Aの取り付け方＞ 1 2 3 バッテリー/SDカードカバーを閉める前に、パワーコネクターのコードをバッテリー室の溝に奥まで入れてください。コードが溝からはみ出していると、カバーを閉めたときにカバーやコードを破損するおそれがあります。 パワーコネクター EP-5AのDCプラグコネクターに、ACアダプター EH-5aのDCプラグを差し込みます。
USBケーブル	USBケーブル UC-E6
AVケーブル	オーディオビデオケーブル EG-CP16
コンバーターレンズ	ワイドコンバーター WC-E75A（0.75倍） （アダプターリング UR-E22が必要です ）
アダプターリング	アダプターリング UR-E22
スピードライト（外付けフラッシュ）	ニコンスピードライト SB-400、SB-600、SB-900 ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800

リモコン	リモコン ML-L3 <リモコン用電池（3V CR2025型リチウム電池）の交換方法> • リモコン用電池を交換するときは、電池の「+」と「−」の向きを確認してください。 • リモコン用リチウム電池の安全上のご注意 →□201

※1 日本国外では、必要に応じて市販の変換プラグアダプターを装着してお使いください。変換プラグアダプターは、あらかじめ旅行代理店などでお確かめの上、お買い求めください。

※2 日本国内専用電源コード（AC 100 V 対応）付属。日本国外でお使いになるには、別売の電源コードが必要です。別売の電源コードについては、ニコンサービス機関にお問い合わせください。
また、オンラインショップ（ニコンダイレクト）http://shop.nikon-image.com/ でもお求めいただけます。

COOLPIX P7000に使用できる別売アクセサリーの最新情報は、最新のカタログや当社ホームページなどでご確認ください。

コンバーター、アダプターリング使用時のご注意

- ［**ワイドコンバーター**］(□104)を必ず［**ON**］にしてください。
- コンバーターやアダプターリングの先端に、フィルターやレンズフードを取り付けないでください。フィルターやレンズフードを取り付けて撮影すると、画像の周辺が暗くなります。

外付けフラッシュについてのご注意

COOLPIX P7000のアクセサリーシューは、ニコンスピードライト SB-400、SB-600、SB-900およびワイヤレススピードライトコマンダー SU-800に対応しています。これ以外の外付けフラッシュなどを取り付けようとすると、カメラや外付けフラッシュを破損することがありますので、ご注意ください。

他社製の外付けフラッシュ（スピードライト/ストロボ）についてのご注意

他社製の外付けフラッシュ（カメラのアクセサリーシューにマイナス電圧や250 V以上の電圧がかかるものや小さな接点が触れてしまうもの）を使わないでください。カメラの正常な機能を発揮できないだけではなく、カメラおよび外付けフラッシュのシンクロ回路を破損することがあります。

リモコン用リチウム電池の安全上のご注意

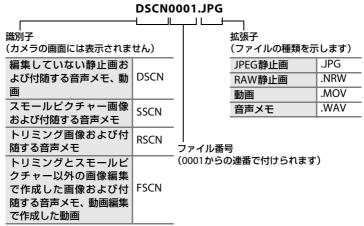
⚠危険
（リモコン用リチウム電池について）

危険	**電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること** そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠警告
（リモコン用リチウム電池について）

禁止	**電池を火に入れたり、加熱しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
分解禁止	**電池をショート、分解しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池に表示された警告・注意を守ること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**使用説明書に表示された電池を使用すること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
水かけ禁止	**水につけたり、ぬらさないこと** 液もれ、発熱の原因となります。
保管注意	**電池は幼児の手の届かないところに置くこと** 幼児の飲み込みの原因となります。万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
警告	**電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにすること** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
禁止	**充電式電池以外は充電しないこと** 液もれ、発熱、破裂の原因となります。
警告	**電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること** 他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。
警告	**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと** そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

スピードライト（外付けフラッシュ）について

このカメラは、別売のスピードライト SB-400、SB-600、SB-900を取り付けられるアクセサリーシューを備えています。内蔵フラッシュでは充分に照明できないときなどに、スピードライトを使うと効果的です。スピードライト使用時には、内蔵フラッシュは自動的に⑬（発光禁止）になります。液晶モニターに⑬マーク（スピードライト表示）が点灯している間は、スピードライトのフラッシュモードを表示し、内蔵フラッシュと同じ操作で設定できます（□32）。

- スピードライトを取り付けるときは、カメラのアクセサリーシューカバーを外してください（右図）。
- 内蔵フラッシュがポップアップしていたら、手で軽く押し下げて、閉じてください。
- スピードライトの取り付け方法、使用方法の詳細は、各スピードライトの説明書をご覧ください。
- スピードライトを使わないときは、アクセサリーシューカバーをカメラに取り付けてください。

スピードライトSB-400、SB-600、SB-900について

- このカメラにSB-600またはSB-900を取り付けて撮影するときは、撮影前にスピードライト側の発光モードをTTL にセットしてください。発光の前に小光量でモニター発光するi-TTL調光（スタンダードi-TTL調光）ができます。i-TTL調光の詳しい説明は、スピードライトの説明書をご覧ください。
- SB-900またはワイヤレススピードライトコマンダー SU-800を「コマンダー」に、SB-600、SB-900などを「リモートフラッシュ」に設定すれば、ワイヤレス増灯撮影ができます。ただし、コマンダーに設定したSB-900はモニター発光はしても、本発光はできません。
  ワイヤレス増灯のグループ設定は「A グループ」のみに対応しています。コマンダー、リモートフラッシュ共に「Aグループ」に設定してください。詳細はスピードライトの説明書をご覧ください。
- ワイヤレス増灯撮影時は、ISO感度の設定が［**オート**］、［**高感度オート**］、［**ISO 100-200**］、［**ISO 100-400**］の場合、ISO 100に固定されます。
- このカメラでは、SB-600およびSB-900の発光色温度情報伝達、オートFPハイスピードシンクロ、FVロック撮影、マルチエリアAF補助光の各機能は使えません。
- SB-600およびSB-900のオートパワーズーム機能を使うと、レンズの焦点距離に合わせて照射角が自動的にセットされます。
- SB-600およびSB-900使用時に、2 mより近くにある被写体をズームの広角側で撮影すると、画像の周辺が暗くなることがあります。その場合は、ワイドパネルをお使いください。
- スピードライトの「スタンバイ」機能は、撮影時のカメラの電源ONと連動します。レディーライトの点灯はスピードライト側でご確認ください。

記録データのファイル名とフォルダー名

このカメラで撮影した静止画、動画、および音声メモには、以下のようにファイル名が付けられます。

識別子	
編集していない静止画および付随する音声メモ、動画	DSCN
スモールピクチャー画像および付随する音声メモ	SSCN
トリミング画像および付随する音声メモ	RSCN
トリミングとスモールピクチャー以外の画像編集で作成した画像および付随する音声メモ、動画編集で作成した動画	FSCN

拡張子	
JPEG静止画	.JPG
RAW静止画	.NRW
動画	.MOV
音声メモ	.WAV

- ファイルを保存するフォルダーは、「フォルダー番号 + NIKON」（例：100NIKON）という名前で、自動的に作られます。フォルダー内のファイル数が200に達すると、新しいフォルダーが作られます（例：100NIKON→101NIKON）。フォルダー内のファイル番号が9999に達したときや［**連番リセット**］（□188）したときも新しいフォルダーが作られ、ファイル番号は0001に戻ります。
  フォルダー内にファイルがないときは、[**連番リセット**] をしても新しいフォルダーは作られません。
- ［**画質**］（□68）の設定を［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］にして撮影した場合、同時に記録されるRAW画像とJPG画像は同じファイル名になります。また、同時に記録されるRAW画像とJPEG画像は必ず同じフォルダーに保存されます。このため、フォルダー内のファイル数が199に達していたときは、新しいフォルダーが作られ保存されます。
- 音声メモのファイル名は、音声メモを録音した画像と同じ識別子とファイル番号になります。

- パノラマアシストモード（□55）では、撮影のたびに「フォルダー番号＋P_XXX」という名前のフォルダー（例：101P_001）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。
- インターバル撮影（□99）では撮影のたびに「フォルダー番号 ＋ INTVL」という名前のフォルダー（例：101INTVL）が作られ、ファイル番号0001から始まる一連の画像が保存されます。
- 内蔵メモリーとSDカードの間で記録データをコピーする場合（□131）、ファイル名は以下のようになります。
  - 「選択画像コピー」：
    使用中のフォルダー（または次回の撮影で使われるフォルダー）に、データがコピーされます。コピーされたデータのファイル名は、「内蔵メモリーおよびSDカード内の最大ファイル番号＋1」から連番で付けられます。
  - 「全画像コピー」：
    データはフォルダーごとにコピーされます。フォルダー名は「コピー先の最大フォルダー番号＋1」から連番で付けられます。
    ファイル名は変わりません。
- フォルダー番号が 999 のときにファイル数が 200 個またはファイル番号が9999に達すると、それ以上撮影できません。SDカードを交換するか、内蔵メモリー/SDカードを初期化（□182）してください。

警告メッセージ

画面に表示される警告メッセージの意味は、以下のとおりです。

表示	意味	対処法	📖
（点滅）	カメラの時計が設定されていません。	日付と時刻を設定してください。	170
	バッテリーの残量が少なくなりました。	バッテリーの充電や交換の準備をしてください。	16、18
電池残量がありません	バッテリーの残量がありません。	バッテリーを充電または交換してください。	16、18
電池が高温です	バッテリーの温度が高温になっています。	電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。このメッセージが出ると5秒後に液晶モニターが消灯し、電源ランプ、AFランプおよびフラッシュランプが高速点滅を開始します。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	19
記録中 しばらくお待ちください	画像の記録中です。	記録が終了して警告表示が消えるまでお待ちください。	–
カードがロックされています	SDカードの書き込み禁止スイッチが「Lock」されています。	「Lock」を解除してください。	23
このカードは使えません	SDカードへのアクセス異常です。	• 動作確認済みのカードを使ってください。 • カードの端子部分が汚れていないか確認してください。 • カードが正しく挿入されているか確認してください。	221 22 22
カードに異常があります			
このカードは初期化されていません。初期化しますか？ はい いいえ	SDカードが、このカメラ用に初期化されていません。	初期化するとカード内のデータはすべて削除されるため、カード内に必要なデータが残っているときは、［**いいえ**］を選び、初期化する前にパソコンなどに保存してください。［**はい**］を選んで®ボタンを押すと、SDカードを初期化できます。	23

付録、索引

表示	意味	対処法	📖
メモリー残量がありません	データを記録する空き容量がありません。	• 画質または画像サイズを変更してください。 • 不要な画像、動画を削除してください。 • SD カードを交換してください。 • SDカードをカメラから取り出し、内蔵メモリーを使ってください。	68、70 31、127、153 22 22
画像を保存できません	画像記録中にエラーが発生しました。	内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。	182
	これ以上記録できないファイル番号に達しました。	SD カードを交換するか、内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。	22、182
	オープニング画面に登録できない画像です。	以下の画像は登録できません。 • NRW (RAW) 画像 • ［**画像サイズ**］を ［**3648 × 2432**］、［**3584 × 2016**］または ［**2736 × 2736**］にして撮影した画像 • スモールピクチャーやトリミングで作成した画像サイズ 160 × 120 以下の画像	68 70 137、145
	画像コピー先の容量不足です。	コピー先の不要な画像を削除してください。	127
この画像は編集できません	編集できない画像を画像編集しようとしました。	• 編集可能な条件を確認してください。 • COOLPIX P7000以外で記録されたNRW (RAW) 画像は、RAW 現像できません。 • 動画は画像編集できません。	133 – –
動画記録できません	SD カードに動画を記録するのに時間がかかっています。	画像記録処理の速いSDカードに交換してください。	221
連番リセットできません	これ以上新しいフォルダーを作成できません。	SDカードを交換するか、内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。	22、182、188

表示	意味	対処法	📖
撮影画像がありません	撮影済みの画像がありません。	• 内蔵メモリーに記録した画像を再生するときは、SD カードをカメラから取り出してください。 • 内蔵メモリーからSD カードにコピーする場合は、MENU ボタンを押すと画像コピー画面が表示され、内蔵メモリー内の画像をSD カードにコピーできます。	22 131
このファイルは表示できません	COOLPIX P7000 以外で作成されたファイルです。	このカメラでは再生できません。ファイルを作成または編集したパソコンなどで再生してください。	–
表示できる画像がありません	スライドショーで表示できる画像がありません。	–	126
	内蔵メモリー/SD カード内の画像がすべて非表示設定されています。	［**非表示設定**］で画像の非表示設定を解除してください。	130
このファイルは削除できません	画像にプロテクトがかかっています。	プロテクトを解除してください。	129
自宅と訪問先が同じタイムゾーンです	自宅と訪問先を同じタイムゾーンに設定しました。	–	172
モードダイヤルの位置がずれています	モードダイヤルが正しい位置にセットされていません。	モードダイヤルを回して、カメラの指標にいずれかのモードを合わせてください。	44
現在の設定ではマイメニューに登録した項目を変更できません	登録されているすべてのメニュー項目が、現在の設定では変更できません。	• マイメニューに登録していない機能の設定を確認してください。 • マイメニューに登録する項目を変更してください。	187 187

表示	意味	対処法	📖
🛈 フラッシュポップアップボタンを押して、フラッシュを上げてください	シーンモードが［**夜景ポートレート**］または［**逆光**］のときや連写が［**フラッシュ連写**］のときに、内蔵フラッシュが閉じています。	⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押して内蔵フラッシュをポップアップしてください。	33、49、55、99
🛈 フラッシュが閉じています	おまかせシーンモードのときに内蔵フラッシュが閉じています。	⚡（フラッシュポップアップ）ボタンを押して内蔵フラッシュをポップアップしてください。フラッシュを使いたくないときは、内蔵フラッシュを閉じたままでも撮影できます。	33、46
ⓘ スピードライト設定エラー	ワイヤレス増灯撮影時にグループ設定が「Aグループ」に設定されていません。	マスターコマンダーおよびリモートフラッシュのグループ設定を「Aグループ」に設定してください。	202
❗ レンズエラー	レンズの作動不良です。	電源を入れ直してください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	19
ⓘ 通信エラー	プリンターとの通信中にエラーが発生しました。	カメラの電源をOFFにして、USBケーブルの接続をやり直してください。	157、162
システムエラー ❗	カメラの内部回路にエラーが発生しました。	電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてください。エラー表示が続くときは、ニコンサービス機関までご連絡ください。	19
❗ ピントが合いません レンズを初期化中です	ピントが合いません。	自動復帰するまでお待ちください。	−

表示	意味	対処法	📖
プリンターエラー：プリンターを確認してください	プリンターに異常があります。	プリンターを確認し、エラーの原因を取り除いた後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：用紙を確認してください	指定したサイズの用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：紙詰まりです	用紙が詰まりました。	詰まった用紙を取り除いた後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：用紙がありません	用紙がセットされていません。	指定したサイズの用紙をセットした後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：インクを確認してください	インクに異常があります。	インクを確認した後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：インクがありません	インクがなくなりました。	インクを交換した後、［**継続**］を選んでOKボタンを押し、プリントを再開してください。※	–
プリンターエラー：ファイルが異常です	プリントする画像ファイルに異常があります。	［**キャンセル**］を選んでOKボタンを押し、プリントを中止してください。	–

※プリンターの説明書もあわせてご覧ください。

故障かな？と思ったら

カメラの動作がおかしいとお感じになったときは、ご購入店やニコンサービス機関にお問い合わせいただく前に、以下の項目をご確認ください。

表示・設定・電源関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
液晶モニターに何も映らない	• 電源が入っていません。 • バッテリー残量がありません。 • 節電機能により待機状態になっています。電源スイッチ、シャッターボタンまたは ▶ ボタンを押すか、モードダイヤルを回してください。 • 液晶モニターが消灯しています。|□| ボタンを押して液晶モニターを点灯してください。 • カメラとパソコンがUSBケーブルで接続されています。 • カメラとテレビがAVケーブルまたはHDMIケーブルで接続されています。 • インターバル撮影中です。	19 24 19、30 14 156 154 100
液晶モニターがよく見えない	• 周囲の光が明るすぎます。暗い場所に移動するか、ファインダーをお使いください。 • 液晶モニターの明るさを調整してください。 • 液晶モニターが汚れています。 • 画面明るさブーストをお使いください。	26 173 195 15
ファインダー内がはっきり見えない	視度調節ダイヤルで調節してください。	26
カメラの電源が突然切れる	• バッテリー残量がありません。 • 無操作状態が続いたため、オートパワーオフ機能が働きました。 • カメラの内部が高温になっています。温度が下がるまでしばらく放置してから電源を入れ直してください。 • 低温下ではカメラやバッテリーが正常に動作しないことがあります。	24 19 – 197
撮影日時が正しく表示されない	• 日時を設定していない（撮影時に日時未設定マークが点滅している）場合は、静止画の撮影日時が「0000/00/00　00:00」、動画の撮影日時が「2010/01/01 00:00」と記録されます。セットアップメニュー［**日時設定**］で日時を正しく設定してください。 • 内蔵時計は腕時計などの一般的な時計ほど精度は高くないので、定期的に日時設定を行うことをおすすめします。	20、170 170
撮影情報や画像情報が表示されない	撮影情報、画像情報を非表示にしている可能性があります。設定内容の情報が表示されるまで、|□|ボタンを押してください。	14
［**デート写し込み**］が選べない	セットアップメニュー［**日時設定**］が設定されていません。	20、170

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
［**デート写し込み**］を有効にしたのに、日付が写し込まれない	• 日付を写し込めない撮影モードになっています。 • デート写し込みが制限される他の機能の設定がされています。 • 動画には写し込みできません。	174 174 –
設定内容が初期状態に戻ってしまった	時計用電池が切れたため、設定がリセットされました。	171
［**連番リセット**］ができない	• フォルダー番号が 999 に達し、そのフォルダー内にファイルがあるときは、［**連番リセット**］ができません。SD カードを交換するか、内蔵メモリー /SD カードを初期化してください。 • シーンモードが［**パノラマアシスト**］のとき、または撮影モードが P、S、A、M、U1、U2、U3 で、撮影メニュー［**連写**］が［**インターバル撮影**］のときは［**連番リセット**］ができません。	188、203 55、99、188、203
液晶モニターが消灯し、電源ランプが高速点滅する	バッテリーの温度が高温になっています。電源をOFFにして、バッテリーの温度が下がるまでしばらく放置してからご使用ください。ランプの点滅が3分続くと電源は自動的にOFFになりますが、電源スイッチを押してもOFFにできます。	19
カメラの温度が高くなる	動画撮影などで長時間使ったり、周囲の温度が高い場所で使ったりすると、カメラの温度が高くなることがありますが、故障ではありません。	147

●デジタルカメラの特性について

きわめてまれに、液晶モニターに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。このような場合は、電源をOFFにしてバッテリーを入れ直し、もう一度電源をONにしてみてください。これによってカメラが作動しなくなったときのデータは失われるおそれがありますが、すでに内蔵メモリーまたはSDカードに記録されているデータは失われません。この操作を行ってもカメラに不具合が続くときは、ニコンサービス機関にお問い合わせください。

撮影関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
撮影モードにできない	AVケーブル、HDMIケーブルまたはUSBケーブルを外してください。	154、157、162
撮影できない	• 再生モードになっているときは、▶ボタンまたはシャッターボタンを押してください。 • メニューが表示されているときは、MENUボタンを押してください。 • バッテリー残量がありません。 • シーンモードが［**夜景ポートレート**］または［**逆光**］になっているときや撮影メニュー［**連写**］が［**フラッシュ連写**］のときは、内蔵フラッシュをポップアップしてください。 • フラッシュランプが点滅しているときは、フラッシュの充電中です。	30 13 24 33、49、55、99 34
ピントが合わない	• オートフォーカスが苦手な被写体を撮影しています。 • セットアップメニュー［**AF 補助光**］を［**AUTO**］にしてください。 • シャッターボタンを半押ししたときに、被写体がAFエリア内に入っていません。 • フォーカスモードがMF（マニュアルフォーカス）になっています。 • 電源を入れ直してください。	29 177 28、84 40 19
画像がぶれる	• フラッシュを使ってください。 • 手ブレ補正機能やモーション検知機能を使ってください。 • BSS（ベストショットセレクター）を使ってください。 • 三脚などでカメラを安定させてください（セルフタイマーを併用すると、より効果的です）。	32 175、176 99 35
液晶モニターに光の帯や色むらが発生する	明るい被写体にレンズを向けるとスミアが発生することがあります。マルチ連写と動画の撮影では、太陽や太陽の照り返し、電灯などを画面内に入れずに撮影するようおすすめします。	196
フラッシュ撮影時に、画像に白い点が写り込む	フラッシュの光が空気中のほこりなどに反射して写り込んでいます。フラッシュモードを⊛（発光禁止）にしてください。	32
フラッシュが発光しない	• フラッシュモードが⊛（発光禁止）になっています。 • フラッシュが発光しないシーンモードになっています。 • 動画モードになっています。 • フラッシュが制限される他の機能の設定がされています。 • 別売のスピードライト（外付けフラッシュ）使用時は、内蔵フラッシュは発光しません。	32 45 148 108 202

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
ズームが動かない	• 撮影メニューの［**ワイドコンバーター**］が［**ON**］になっています。 • 電源が ON の状態でレンズリングを外すと、ズームは広角端に固定されます。いったん電源を OFF にして、レンズリングを取り付けてから、電源をもう一度 ON にしてください。	104 104
電子ズームが使えない	• セットアップメニュー［**電子ズーム**］が［**OFF**］になっています。 • 以下の場合、電子ズームは使えません。 - フォーカスモードが MF（マニュアルフォーカス）のとき - AF エリア選択が［**ターゲット追尾**］のとき - 笑顔自動シャッターのとき - シーンモードが［**おまかせシーン**］、［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］のとき - クイックメニュー［**画質**］が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のとき - 撮影メニュー［**ワイドコンバーター**］が［**ON**］のとき - 撮影メニュー［**連写**］が［**マルチ連写**］のとき	178 40 85 36 46、48、49 68 104 99
［**画像サイズ**］が選べない	［**画像サイズ**］が制限される他の機能の設定がされています。	108
シャッター音が鳴らない	• セットアップメニュー［**操作音**］の［**シャッター音**］が［**OFF**］になっています。 • 撮影メニュー［**連写**］が［**連写**］、［**BSS**］、［**フラッシュ連写**］または［**マルチ連写**］になっています。 • クイックメニュー［**ブラケティング**］が［**OFF**］以外になっています。 • シーンモードが［**スポーツ**］または［**ミュージアム**］になっています。 • 動画モードになっています。 • スピーカーをふさがないでください。	179 99 80 49、54 146 5、26
AF 補助光が点灯しない	セットアップメニュー［**AF 補助光**］が［**OFF**］になっています。［**AUTO**］に設定していても、AFエリアの位置やシーンモードによっては点灯しない場合があります。	177
画像が鮮明でない	レンズが汚れています。	195
画像の色合いが不自然になる	適切なホワイトバランスが選ばれていません。	76

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
画像がざらつく	被写体が暗いため、シャッタースピードが遅くなっているか、ISO感度が高くなっています。 • フラッシュを使ってください。 • 低い ISO 感度にしてください。 • 撮影状況に合わせて、撮影メニュー[**長秒時ノイズ低減**]を設定してください。 • ノイズ低減機能付きのシーンモードで撮影してください。	32 74 103 45
画像が暗すぎる	• フラッシュモードが ⊛（発光禁止）になっています。 • 内蔵フラッシュが指などでさえぎられています。 • 被写体にフラッシュの光が届いていません。 • 露出を補正してください。 • ISO 感度を上げてください。 • 逆光で撮影しています。内蔵フラッシュをポップアップして、シーンモードの［**逆光**］にするかフラッシュモードを ⚡（強制発光）にしてください。 • セットアップメニュー［**内蔵 ND フィルター設定**］が［**ON**］になっています。	32 26 32 43 74 32、55 184
画像が明るすぎる	• 露出を補正してください。 • セットアップメニュー［**内蔵 ND フィルター設定**］をお使いください。	43 184
赤目以外の部分が補正された	⚡◎（赤目軽減自動発光）やシーンモードの［**夜景ポートレート**］の赤目軽減スローシンクロ強制発光でフラッシュ撮影すると、ごくまれに赤目以外の部分が補正されることがあります。［**夜景ポートレート**］以外の撮影モードで、フラッシュモードを⚡◎（赤目軽減自動発光）以外にして撮影してください。	32、49
美肌の効果が得られない	• 撮影条件によっては、美肌効果が適切に得られないことがあります。 • 4 人以上の顔を撮影した画像は、再生メニュー［**美肌**］をお試しください。	36 139
画像の記録に時間がかかる	以下の場合、画像の記録に時間がかかることがあります。 • ノイズ低減機能が作動したとき • フラッシュを ⚡◎（赤目軽減自動発光）にして撮影したとき • シーンモードの［**ポートレート**］または［**夜景ポートレート**］で撮影したとき • 笑顔自動シャッターで撮影したとき • アクティブ D- ライティング機能で撮影したとき • ［**画質**］が［**NRW (RAW)**］、［**NRW (RAW) + FINE**］、［**NRW (RAW) + NORMAL**］または［**NRW (RAW) + BASIC**］のとき	 103 32 48、49 36 106 68
連写またはブラケティングの設定ができない、または使えない	連写またはブラケティングが制限される他の機能の設定がされています。	108

付録、索引

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
COOLPIX ピクチャーコントロールが設定できない	COOLPIXピクチャーコントロールが制限される他の機能の設定がされています。	108

再生関連

こんなときは	考えられる原因や対処法	📖
再生できない	• パソコンか他社製のカメラによって画像が上書きされたか、ファイル名やフォルダー名が変更されました。 • インターバル撮影中です。 • COOLPIX P7000 以外で撮影した NRW (RAW) 画像、または動画は再生できません。	– 100 68、146
画像の拡大表示ができない	動画やスモールピクチャー、320×240以下にトリミングされた画像は拡大表示できません。	–
音声メモの録音や再生ができない	• 動画には音声メモを付けられません。 • COOLPIX P7000 以外で撮影した画像には、このカメラで音声メモを付けられません。また、このカメラ以外で画像に音声メモを付けると、このカメラで再生できません。	151 132
画像や動画を編集できない	• ［**画像サイズ**］を 3:2［**3648 × 2432**］、16:9［**3584 × 2016**］、1:1［**2736 × 2736**］にして撮影した画像は、黒フレーム以外の編集ができません。 • NRW (RAW) 画像は、そのままでは NRW (RAW) 現像以外の画像編集ができません。NRW (RAW) 現像で作成した JPEG 画像を編集してください。 • 編集が可能な条件を確認してください。 • COOLPIX P7000 以外で撮影した画像や動画は編集できません。	70 143 133 –
画像がテレビに映らない	• セットアップメニュー［**TV 出力設定**］の［**ビデオ出力**］または［**HDMI**］が正しく設定されていません。 • HDMI ケーブルと AV ケーブル、または HDMI ケーブルと USB ケーブルの両方が接続されています。 • 画像が記録されていないSDカードが入っています。SDカードを交換してください。内蔵メモリーの画像を再生するときはSDカードを取り出してください。	183 154 22

こんなときは	考えられる原因や対処法	🕮
カメラをパソコンに接続しても、Nikon Transfer 2が自動起動しない	• カメラの電源が OFF になっています。 • バッテリー残量がありません。 • USBケーブルが正しく接続されていません。 • パソコンにカメラが正しく認識されていません。 • 対応 OS を確認してください。 • Nikon Transfer 2 が自動起動しない設定になっています。Nikon Transfer 2 については、ViewNX 2 のヘルプをご参照ください。	19 24 157 — 156 160
プリントする画像が表示されない	• 画像が記録されていない SD カードが入っています。SD カードを交換してください。 • 内蔵メモリーの画像をプリントするときは SD カードを取り出してください。	22 22
カメラ側で用紙設定ができない	PictBridge 対応プリンターでも、以下の場合はカメラで「用紙設定」ができません。プリンター側で用紙サイズを設定してください。 • カメラ側で設定した用紙サイズにプリンターが対応していません。 • 自動的に用紙サイズを認識するプリンターを使っています。	 163、164 —

主な仕様

ニコン デジタルカメラCOOLPIX P7000

項目	仕様
型式	コンパクトデジタルカメラ
有効画素数	10.1メガピクセル
撮像素子	1/1.7型原色CCD、総画素数10.39メガピクセル
レンズ	光学7.1倍ズーム、NIKKORレンズ
焦点距離	6.0-42.6mm（35mm判換算28-200 mm相当の撮影画角）
開放F値	f/2.8–5.6
レンズ構成	9群11枚
電子ズーム	最大4倍（35mm判換算で約800 mm相当の撮影画角）
手ブレ補正	レンズシフト方式
オートフォーカス	コントラスト検出方式
撮影距離	・レンズ前約50 cm～∞（広角側）、約80 cm ～∞（望遠側） ・マクロ AF 時は約 2 cm（△ マークから広角側）～∞
AFエリア	顔認識オート、オート（9点）、中央（ワイド、標準、スポット）、マニュアル（99点）、ターゲット追尾
ファインダー	実像式光学ズームファインダー 視度調節機能付き
視野率	上下左右とも約80%（対実画面）
液晶モニター	3型TFT液晶、反射防止コート付き、約92万ドット 輝度調節機能付き（5段階）
視野率（撮影時）	上下左右とも約97%（対実画面）
視野率（再生時）	上下左右とも約100%（対実画面）
記録方式	
記録媒体	内蔵メモリー（約 79 MB）、 SD/SDHC/SDXC メモリーカード
画像ファイル	DCF、Exif 2.2、DPOF準拠
ファイル形式	静止画： JPEG、NRW (RAW) ・RAW と JPEG の同時記録可能 音声メモ：WAV 動画：MOV（映像：MPEG-4 AVC/H.264、音声：AAC ステレオ）
画像サイズ（記録画素数）	・10 M［**3648×2736**］ ・8 M［**3264×2448**］ ・5 M［**2592×1944**］ ・3 M［**2048×1536**］ ・2 M［**1600×1200**］ ・1 M［**1280×960**］ ・PC［**1024×768**］ ・VGA［**640×480**］ ・3:2［**3648×2432**］ ・16:9［**3584×2016**］ ・1:1［**2736×2736**］

項目	仕様
ISO感度（標準出力感度）	• ISO 100、200、400、800、1600、3200、Hi 1（6400相当） • オート（ISO 100 ～ 800） • 高感度オート（ISO 100 ～ 1600） • 感度制限オート（ISO 100 ～ 200、100 ～ 400） • ローノイズナイトモード（ISO 400 ～ 12800）
露出	
測光方式	マルチパターン測光（256分割）、中央部重点測光、スポット測光、AFスポット測光（99点AF対応）
露出制御	プログラムオート（プログラムシフト可能）、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアル露出、AEブラケティング (Tv)、AEブラケティング（Sv）、モーション検知機能付き、露出補正（±3段の範囲で1/3段刻み）可能
露出連動範囲（オート撮影モード時）	－1～+16.2 EV（広角側） 1～16.6 EV（望遠側） （ISO感度オート時の連動範囲をISO 100のEV値にて換算）
シャッター	メカニカルシャッターとCCD電子シャッターの併用
シャッタースピード	• 1/2000 ～ 8 秒（P、S モード） • 1/4000 ～ 8 秒（A モード） • 1/4000 ～ 60 秒（M モード） • 4 秒（シーンモードの［打ち上げ花火］）
絞り	電磁駆動による6枚羽根虹彩絞り
制御段数	10（1/3 EVステップ）
セルフタイマー	約10秒、約2秒
内蔵フラッシュ	
調光範囲（ISO感度設定オート時）	約0.5～6.5 m（広角側） 約0.8～3 m（望遠側）
調光方式	モニター発光によるTTL自動調光
アクセサリーシュー	ホットシュー （ISO 518）、シンクロ接点、通信接点、セーフティーロック機構（ロック穴）付き
インターフェース	Hi-Speed USB
通信プロトコル	MTP、PTP
ビデオ出力	NTSC、PALから選択可能
入出力端子	オーディオビデオ出力/デジタル端子（USB）、 HDMIミニ端子（HDMI出力）、 外部マイク端子（Φ3.5 mm ステレオミニジャック、入力インピーダンス 2 kΩ、感度 －42 dB以下、プラグインパワー型）
言語	日本語、英語の2言語

電源	• Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL14（リチウムイオン充電池：付属）× 1 個 • AC アダプター EH-5a（パワーコネクター EP-5A を組み合わせて使用）（別売）
撮影可能コマ数(電池寿命)※	約350コマ（EN-EL14使用時）
動画撮影可能時間(電池寿命)	約2時間45分 （[**HD 720p (1280×720)**]、EN-EL14 使用時）
三脚ネジ穴	1/4（ISO 1222）
寸法（幅×高さ×奥行き）	約114.2×77×44.8 mm（突起部除く）
質量	約360 g（バッテリー、SDメモリーカード含む）
動作環境	
使用温度	0～40 ℃
使用湿度	85 %以下（結露しないこと）

• 仕様中のデータは、すべて常温（25 ℃）、リチャージャブルバッテリー EN-EL14をフル充電で使用時のものです。

※ 電池寿命測定方法を定めたCIPA（カメラ映像機器工業会）規格によるものです。測定条件は、23(±2) ℃、撮影ごとにズーム、2回に1回の割合でのフラッシュ撮影、画質［**NORMAL**］、画像サイズ［**3648×2736**］です。撮影間隔、メニュー表示時間、画像表示時間などにより、コマ数は変動します。

付録、索引

Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL14

形式	リチウムイオン充電池
定格容量	7.4 V、1030 mAh
使用温度	0～40 ℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約38 × 53 × 14 mm（突起部除く）
質量	約48 g（端子カバーを除く）

バッテリーチャージャー MH-24

電源	AC 100～240 V、50/60 Hz、MAX 0.2 A
定格入力容量	18～24 VA
定格出力	DC 8.4 V、0.9 A
適用充電池	Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL14
充電時間	約1時間 30分（残量のない状態からの充電時間）
使用温度	0～40 ℃
寸法（幅×高さ×奥行き）	約70 × 26 × 97 mm
質量	約89 g

使用説明書について

- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。
- 製品の外観、仕様、性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

このカメラの準拠規格

- Design rule for Camera File system (DCF)：各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録方式です。
- DPOF (Digital Print Order Format)：デジタルカメラで撮影した画像をプリントショップや家庭用プリンターで自動プリントするための記録フォーマットです。
- Exif (Exchangeable image file format) Version 2.2：デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。
  この規格に対応したプリンターをお使いになると、撮影時のカメラ情報を活かして最適なプリント出力を得ることができます。
  詳しくはプリンターの説明書をご覧ください。
- PictBridge：デジタルカメラとプリンターのメーカー各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンターで直接プリントするための標準規格です。

推奨SDカード

下記のSDカードの動作を確認しています。

- 動画の撮影には、SDスピードクラスがClass 6以上のカードをおすすめします。転送速度が遅いカードでは、動画の撮影が途中で終了することがあります。

	SD メモリーカード	SDHC メモリーカード ※2	SDXC メモリーカード ※3
SanDisk	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
TOSHIBA	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	64 GB
Panasonic	2 GB※1	4 GB、8 GB、12 GB、16 GB、24 GB、32 GB	48 GB、64 GB
Lexar	2 GB※1	4 GB、8 GB、16 GB、32 GB	-

※1 カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器が2 GBのSDカードに対応している必要があります。

※2 SDHC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDHC規格に対応している必要があります。

※3 SDXC規格に対応しています。カードリーダーなどをお使いの場合、お使いの機器がSDXC規格に対応している必要があります。

- 上記SDカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、各カードメーカーにお問い合わせください。その他のメーカー製のSDカードは、動作の保証をいたしかねます。

索引

マーク・英数字

ア

カ

サ

付録、索引

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

アフターサービスについて

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、ご質問がございましたら、ニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご覧ください。

●お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、またはニコンサービス機関にご依頼ください。

- ニコンサービス機関につきましては、「ニコン サービス機関のご案内」をご覧ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービス機関にご相談ください。
- 修理に出されるときに、SDカードがカメラ内に挿入されていないかご確認ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後5年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店またはニコンサービス機関へお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービス機関にお任せください。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を下記の当社ホームページでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/support/

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

FAX:(03)5977-7499

【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

お問い合わせ日：	年　　月　　日
お買い上げ日：	年　　月　　日
製品名：	シリアル番号：
フリガナ お名前：	
連絡先ご住所：□自宅　　□会社 〒 TEL: FAX:	
ご使用のパソコンの機種名： メモリー容量： OS のバージョン： その他接続している周辺機器名： ご使用のアプリケーションソフト名： ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名：	 ハードディスクの空き容量： ご使用のインターフェースカード名：
問題が発生した時の症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください）	

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

製品の使い方に関するお問い合わせ

＜ニコン カスタマーサポートセンター＞
全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000
一般電話･公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30〜18：00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、（03）5977-7499 に送信ください。

修理サービスのご案内

インターネットでの修理のお申し込み
下記 URL から「ニコン ピックアップサービス」のお申し込みができます。宅配便などでお送りいただいた場合などの「修理金額見積り」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。
http://www.nikon-image.com/support/repair/

修理品のお引き取りを依頼される場合は

＜ニコン ピックアップサービス＞
下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け･修理品のお引き取り、修理後のお届け･集金までを一括して提供するサービスです。

0120-02-8155

営業時間：9：30〜18：00（年末年始12/29〜1/4を除く毎日）
※左記のフリーダイヤルは、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。

製品に関するお問い合わせは、上記のカスタマーサポートセンターへお願いいたします。
修理に関するお問い合わせは、下記の修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

＜（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター＞
230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200
携帯OK
一般電話･公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30〜17：30（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577（ニコンカスタマーサポートセンター）におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Japan

FX0H01(10)
6MM83110-01